CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

T48n2025

勅修百丈清規

元 德煇重編

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 勅修百丈清規
  - 勅修百丈清規目錄
  - 1 祝釐章
    - 聖節
    - 景命四齋日祝讚
    - 旦望藏殿祝讚
    - 每日祝讚
    - 千秋節
    - 善月
  - 2 報恩章
    - 國忌
    - 祈禱
      - 祈晴
      - 祈雨
      - 祈雪
      - 遣蝗
      - 日蝕
      - 月蝕
  - 3 報本章
    - 佛降誕
    - 佛成道涅槃
    - 帝師涅槃
  - 4 尊祖章
    - 達磨忌
    - 百丈忌
    - 開山歷代祖忌
    - 嗣法師忌
  - 5 住持章
    - 住持日用
      - 上堂
      - 晚參
      - 小參

- 告香
- 普說
- 入室
- 念誦
- 巡寮
- 肅眾
- 訓童行
- 為行者普說
- 受法衣
- 迎侍尊宿
- 施主請陞座齋僧
- 受嗣法人煎點
- 嗣法師遺書至
- 請新住持
  - 發專使
  - 當代住持受請
  - 受請陞座
  - 專使特為新命煎點
  - 山門管待新命并專使
  - 新命辭眾上堂茶湯
  - 西堂頭首受請
  - 受請人陞座
  - 專使特為受請人煎點
  - 山門管待受請人并專使
  - 受請人辭眾陞座茶湯
- 入院
  - 山門請新命齋
  - 開堂祝壽
  - 山門特為新命茶湯
  - 當晚小參
  - 為建寺檀越陞座
  - 管待專使
  - 留請兩序
  - 報謝出入
  - 交割砧基什物
  - 受兩序勤舊煎點
- 退院
- 遷化

        - 入龕
        - 請主喪
        - 請喪司職事
        - 孝服
        - 佛事
        - 移龕
        - 掛真舉哀奠茶湯
        - 對靈小參奠茶湯念誦致祭
        - 祭次
        - 出喪掛真奠茶湯
        - 茶毘
        - 全身入塔
        - 唱衣
        - 靈骨入塔
        - 下遺書
        - 管待主喪及喪司執事人
    - 議舉住持
- 6 兩序章
    - 西序頭首
        - 前堂首座
        - 後堂首座
        - 書記
        - 知藏
        - 知客
        - 知浴
        - 知殿
        - 侍者
        - 衣鉢侍者
        - 湯藥侍者
        - 聖僧侍者
    - 東序知事
        - 都監寺
        - 維那
        - 副寺
        - 典座
        - 直歲
    - 列職雜務
        - 寮元

        - 寮主副寮
        - 延壽堂主
        - 淨頭
        - 化主
        - 園主
        - 磨主
        - 水頭
        - 炭頭
        - 莊主
        - 諸莊監收
    - 請立僧首座
    - 請名德首座
    - 兩序進退
    - 掛鉢時請知事
    - 侍者進退
    - 寮舍交割什物
    - 方丈特為新舊兩序湯
    - 堂司特為新舊侍者茶湯
    - 庫司特為新舊兩序湯藥石
    - 堂司送舊首座都寺鉢位
    - 方丈管待新舊兩序
    - 方丈特為新首座茶
    - 新首座特為後堂大眾茶
    - 住持垂訪頭首點茶
    - 兩序交代茶
    - 入寮出寮茶
    - 頭首就僧堂點茶
    - 兩序出班上香
- 7 大眾章
    - 沙彌得度
    - 新戒參堂
    - 登壇受戒
    - 護戒
    - 辦道具
        - 三衣
        - 坐具
        - 偏衫
        - 裙

    - 直裰
    - 鉢
    - 錫杖
    - 主杖
    - 拂子
    - 數珠
    - 淨瓶
    - 濾水囊
    - 戒刀
- 裝包
- 遊方參請
- 大相看
- 大掛搭歸堂
    - 小掛搭歸堂
    - 西堂首座掛搭
    - 諸方名勝掛搭
    - 法眷辦事掛搭
- 拋香相看
- 謝掛搭
- 方丈特為新掛搭茶
- 坐禪
- 坐禪儀
- 坐參
- 大坐參
- 請益
- 赴齋粥
- 赴茶湯
- 普請
- 日用軌範
- 龜鏡文
- 病僧念誦
- 亡僧
    - 抄劄衣鉢
    - 請佛事
    - 估衣
    - 大夜念誦
    - 送亡
    - 茶毘

        - 唱衣
        - 入塔
    - 板帳式
- 8 節臘章
    - 夏前出草單
    - 新掛搭人點入寮茶
    - 出圖帳
    - 眾寮結解特為眾湯
    - 楞嚴會
    - 戒臘牌
    - 方丈小座湯
    - 四節土地堂念誦
    - 庫司四節特為首座大眾湯
    - 結制禮儀
    - 四節秉拂
    - 方丈四節特為首座大眾茶
    - 庫司四節特為首座大眾茶
    - 前堂四節特為後堂大眾茶
    - 旦望巡堂茶
    - 方丈點行堂茶
    - 庫司頭首典行堂茶
    - 月分須知
- 9 法器章
    - 鍾
        - 大鍾
        - 僧堂鍾
        - 殿鐘
    - 版
    - 木魚
    - 椎
    - 磬
    - 鐃鈸
    - 鼓
        - 法鼓
        - 茶鼓
        - 齋鼓
        - 普請鼓
        - 更鼓

        - 浴鼓
    - 唐洪州百丈山故懷海禪師塔銘并序
    - 百丈山大智壽聖禪寺天下師表閣記
    - 古清規序
    - 崇寧清規序
    - 咸淳清規序
    - 至大清規序
    - 勅修百丈清規敘
    - 加祖號跋
    - 一山禪師書
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3
    - 4
    - 5
    - 6
    - 7
    - 8
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

No. 2025

勅修百丈清規

禮部尚書臣胡濙等謹

題為重刊清規事禮科抄出。江西南昌府奉新縣百丈山大智壽聖禪寺住持僧忠智奏。本寺自唐時佛祖大智懷海禪師垂訓。名曰百丈清規。至元間僧德煇重新編刊遍行天下叢林。僧徒循規遵守。洪武拾伍年肆月貳拾伍日。節該奉太祖高皇帝聖旨榜例。諸山僧人不入清規者。以法繩之欽此欽遵。永樂拾年伍月初三日。節該奉太宗文皇帝聖旨榜例。僧人務要遵依舊制。名務祖風謹守清規。嚴潔身心。永樂二十二年十一月二十七日。該僧錄司官奏。僧眾多中間有等不守規矩合無依清規整治。節該奉仁宗昭皇帝聖旨。照依清規料治他欽此除欽遵外。近因本寺清規書板年遠無存。欽蒙皇上洪恩普度天下僧行。仍住原額寺院熏修香火。祝延聖壽。臣切見後學僧徒。多有未見清規體例。罔知軌度。不諳戒律。甚辱祖風。深為未便。臣依原體式重寫刊完。雖有歷朝序文。年代已遠。誠恐僧徒視為常事不行遵守。今將重刊清規印集一本。開坐具本親齎謹奏。伏望。聖恩憐憫教門乞勅賜清規序文刊圓成書頒行天下叢林寺院。住持首僧督眾講習。各慕祖風嚴持戒律。庶俾僧徒無傷風化。正統七年二月十二日。該通政使司右通政李錫等官於奉天門奏奉聖旨。禮部知道欽此欽遵抄出到部參照。住持僧忠智奏稱重刊百丈清規。乞賜序文一節。合無行移翰林院撰述惟復聽令本僧自行請人述作緣奉欽依禮部知道事理未敢擅便謹題請旨。正統七年二月十九日。禮部尚書胡濙等官於奉天門題奏。奉聖旨序著翰林院撰欽此除外遵依施行。

正統七年四月十七日

長生天氣力裏　大福蔭護助裏

皇帝聖旨行中書省行御史臺行宣政院官人每根底。宣慰司廉訪司官人每根底。軍官每根底軍人每根底。城子裏達魯花赤官人每根底。往來的使臣每根底。百姓每根底。眾和尚每根底。

宣諭的

聖旨

成吉思皇帝　月闊台皇帝　薩禪皇帝　完者篤皇帝　曲律皇帝　普顏篤皇帝　格堅皇帝　忽都篤皇帝　札牙篤皇帝

亦輦真班皇帝聖旨裏和尚也里可溫先生每不揀甚麼。差發休當。告天祝壽。者麼道。說有來如今依著在先聖旨體例裏。不揀甚麼。差發休當。告天與咱每祝壽。者麼道。札牙篤皇帝教起蓋大龍翔集慶

寺的時分。依著清規體例行。者麼道。曾行聖旨有來江西龍興路百丈大智覺照禪師在先立來的清規體例。近年以來各寺裏將那清規體例。增減不一了。有如今教百丈山大智壽聖禪寺住持德煇長老。重新編了。教大龍翔集慶寺笑隱長老為頭。揀選有本事的和尚。好生校正歸一者。將那各寺裏增減來的不一的清規。休教行依著這校正歸一的清規體例定體行。者麼道。執把的聖旨與了也。這的每寺院房舍裏使臣每休安下者。鋪馬祇應休拿者。稅糧休納者。但屬寺家水土園林。人口頭匹碾磨店鋪解典庫浴堂。竹園山場河泊船隻等。不揀是誰。休奪要者。休倚氣力者。這般宣諭了。呵別了的人每。要罪過者。更這的每有聖旨。麼道做沒體例句當。呵他每更不怕那聖旨。

元統三年猪兒年七月十八日。上都有時分寫來。皇帝聖旨裏。帝師公哥兒監藏班藏卜。法旨行中書省行御史臺行宣政院官人每根底。宣慰司廉訪司官人每根底。軍官每根底。軍人每根底。城子裏達魯花赤官人每根底。往來使臣每根底。本地面官人每根底。百姓每根底。眾和尚每根底。省諭的法旨。札牙篤皇帝蓋大龍翔集慶寺的時分。教依著百丈清規體例行了。聖旨有來這清規。是百丈大智覺照禪師五百年前立來的。如今上位加與弘宗妙行師號。更為各寺裏近年將那清規增減不一。教百丈山德煇長老重新編了。教龍翔寺笑隱長老校正歸一。定體行的。執把聖旨與了也。皇帝為教門的上頭。教依著這校正歸一的清規體例定體行。者麼道是要天下眾和尚每得濟的一般。您眾和尚每體著皇帝聖心。興隆三寶。好生遵守清規。修行辦道。專與上位。祈福祝壽報答聖恩。弘揚佛法者。不揀是誰。休別了者。見了法旨別了的人每。不怕那甚麼法旨。

鼠兒年四月十一日大都大寺裏有時分寫來。皇帝聖旨裏行宣政院。准宣政院咨。據僧子仲狀。告係江西道龍興路百丈山大智壽聖禪寺知事僧。元統三年七月十八日。本寺住持德煇長老。欽受御寶。聖旨節該。江西龍興路百丈大智覺照禪師在先立來的清規體例。近年以來各寺裏將那清規體例。增減不一了。有如今教百丈山大智壽聖禪寺住持德煇長老。重新編了。教大龍翔集慶寺笑隱長老為頭。揀選有本事的和尚。好生校正歸一者。將那各寺裏增減來的不一的清規。休教行。依著這校正歸一的清規體例定體行。者麼道執把的聖旨與了也。欽此除欽遵。外緣係各省開讀事理。欽錄聖旨全文。連前告乞施行。得此照得。元統三年五月初七日阿察赤怯薛第二日三吉怛納鉢裏有時分。對脫別台平章闊兒吉思。平章阿魯灰。院使舉里學士等。不蘭奚大司徒根底撒迪中丞。傳奉聖旨。江西龍興路裏有的百丈大智覺照禪師在先立來的清規體例。近年各寺裏將那清規體例。增減了。有如今教百丈寺裏住持德煇長老。重新編了。教大

龍翔集慶寺笑隱長老為頭。揀選有本事的和尚。好生校正歸一。與定體執把行的聖旨。更百丈大智覺照禪師根底。加與弘宗妙行師號。宣政院行文書與詞頭宣命。者麼道聖旨了也。欽此除詞頭宣命具呈中書省照詳外。據聖旨。移付蒙古房就行。翰林院欽依頒降外。今據見告當院。除外欽錄聖旨全文在前。合行咨請照驗遍行合屬。欽依施行准此。除外欽錄全文在前。使院合下仰照驗。欽依施行。須議劄付者。

右劄付百丈山大智壽聖禪寺德煇長老准此

蒙古字一行

至元二年　月　日◎

勅修百丈清規目錄

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

卷上

祝釐章第一

聖節
景命四齋日祝讚
旦望藏殿祝讚
每日祝讚
千秋節
善月

報恩章第二

國忌
祈禱
(祈晴)
(祈雨)
(祈雪)
(道蝗)
(日蝕)
(月蝕)

報本章第三

佛降誕
佛成道涅槃
帝師涅槃

尊祖章第四

達磨忌
百丈忌
開山歷代祖忌
嗣法師忌

住持章第五

住持日用
(上堂)
(晚參)
(小參)
(告香)
(普說)
(入室)
(念誦)
(巡寮)
(肅眾)
(訓童行)
(為行者普說)
(受法衣)
(迎侍尊宿)
(施主請陞座齋僧)
(受嗣法人煎點)
(嗣法師遺書至)
請新住持
(發專使)
(當代住持受請)
(受請陞座)
(專使特為新命煎點)
(山門管待新命并專使)

(新命辭眾上堂茶湯西堂)
(頭首受請)
(受請人陞座)
(專使特為受請人煎點山)
(門管待受請人并專使)
(受請人辭眾陞座茶湯)
入院
(山門請新命齋)
(開堂祝壽)
(山門特為新命茶湯)
(當晚小參)
(為建寺檀越陞座)
(管待專使)
(留請兩序)
(報謝出入)
(交割砧基什物)
(受兩序勤舊煎點)
退院
遷化
(入龕)
(請主喪)
(請喪司執事)
(孝服)
(佛事)
(移龕)
(掛真舉哀奠茶湯)
(對靈小參奠茶湯念誦致祭)
(祭次)
(出喪掛真奠茶湯)
(茶毘)
(全身入塔)
(唱衣)
(靈骨入塔)
(下遺書)
(管待主喪及喪司執事人)
議舉住持

卷下

兩序章第六

西序頭首
(前堂首座)
(後堂首座)
(書記)
(知藏)
(知客)
(知浴)
(知殿)
(侍者)
(衣鉢侍者)
(湯藥侍者)
(聖僧侍者)
東序知事
(都監事)
(維那)
(副寺)
(典座)
(直歲)
列職雜務
(寮元)
(寮主副寮)
(延壽堂主)
(淨頭)
(化主)
(園主)
(磨主)
(水頭)
(炭頭)
(莊主)
(諸莊監收)
請立僧首座
請名德首座
兩序進退
掛鉢時請知事
侍者進退
寮舍交割什物

方丈特為新舊兩序湯
堂司特為新舊侍者湯茶
庫司特為新舊兩序湯[石*藥]
堂司送舊首座都寺鉢位
方丈管待新舊兩序
方丈特為新首座茶
新首座特為後堂大眾茶
住持垂訪頭首點茶
兩序交代茶
入寮出寮茶
頭首就僧堂點茶
兩序出班上香

大眾章第七

沙彌得度
新戒參堂
登壇受戒
護戒
辦道具
(三衣)
(坐具)
(偏衫)
(裙)
(直裰)
(鉢)
(錫杖)
(主杖)
(拂子)
(數珠)
(淨瓶)
(濾水囊)
(戒刀)
裝包
遊方參請
大相看
大掛搭歸堂
(小掛搭歸堂)

(西堂首座掛搭)
(諸方名勝掛搭)
(法眷辦事掛搭)
拋香相看
謝掛搭
方丈特為新掛搭茶(庫司頭首附見)
坐禪
坐禪儀
坐參
大坐參
請益
赴齋粥
赴茶湯
普請
日用軌範
龜鏡文
病僧念誦
亡僧
(抄箚衣鉢)
(請佛事)
(估衣)
(大夜念誦)
(送亡)
(茶毘)
(唱衣)
(入塔)
版帳式

節臘章第八

夏前出草單　新掛搭人點入寮茶
出圖帳
眾寮結解特為眾湯(附建散楞嚴)
楞嚴會
戒臘牌
方丈小座湯
四節土地堂念誦

庫司四節特為首座大眾湯

結制禮儀
四節秉拂
方丈四節特為首座大眾茶
庫司四節特為首座大眾茶
前堂四節特為後堂大眾茶
旦望巡堂茶
方丈點行堂茶
庫司頭首點行堂茶
月分須知

法器章第九

鐘
(大鐘)
(僧堂鐘)
(殿鐘)
版
木魚　椎
磬　鐃鈸
鼓
(法鼓)
(茶鼓)
(齋鼓)
(普請鼓)
(浴鼓)
(更鼓)

附著

百丈祖師塔銘
百丈山天下師表閣記
古清規序
崇寧清規序
咸淳清規序
至大清規序
日用寒暄文

勅修百丈清規目錄(畢)

勅修百丈清規卷第一

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

祝釐章第一

人之所貴在明道。故自古聖君崇吾西方聖人之教。不以世禮待吾徒。尊其道也。欽惟
國朝優遇尤至。特蠲賦役使安厥居。而期以悉力于道。
聖恩廣博天地莫窮。必也悟明佛性以歸乎至善。發揮妙用以超乎至神。導民於無為之化。躋世於仁壽之域。以是報君。斯吾徒所當盡心也。其見諸日用。則朝夕必祝。一飯不忘而存夫軌度焉。

聖節

欽遇
聖節。必先啟建金剛無量壽道場。一月日僧行不給假示敬也。啟建之先一日。堂司備榜。張于三門之右及上殿經單(式見後)俱用黃紙書。之。輪差僧簿依戒次。各書雙字名。維那先五日袖紙帶堂司行者。詣書記(寮通報書記出接。維那觸禮)一拜稟云(啟建聖節煩製疏語。如書記缺則書狀侍者代之。俱缺則用現成疏語。見後)書記製畢。具草先呈住持。親送堂司。觸禮一拜答先禮也。維那用黃紙書疏。帶行僕。捧盤袱爐燭香合。上方丈請住持僉疏。炷香觸禮一拜稟云(啟建聖節請和尚僉疏)僉訖。行者就覆住持。來早殿上啟建諷經。仍報諸寮掛諷經牌。燒香侍者覆住持。來早上堂至五更。住持行香回。再覆粥罷。上堂令客頭掛上堂牌。維那於僧堂。早粥遍食椎後。再鳴椎一下云(白大眾。粥罷聞鐘聲。各具威儀。詣大佛寶殿。啟建天壽聖節謹白)復鳴椎一下。往住持前問訊。從首座板起巡堂一匝。出外堂下間至上間。歸內堂中間。問訊而出。粥後少停。待大殿排香燭茶湯鐃鈸手爐俱辦。堂司行者報方丈客頭。先覆住持。次覆侍者。鳴方丈板三下鳴鼓。堂司行者預鳴眾寮前板三下。集眾坐堂。如尋常坐禪向內坐。鼓鳴則轉身向外坐。頭首先集堂外候鼓鳴。即入堂。首座後入就坐。西堂勤舊蒙堂諸寮並外堂坐。住持於鼓初鳴。出寢堂坐。侍者問訊東立。行者問訊西立。轉鼓侍者往法座左側立候眾集。頭首下床。聖僧前

問訊領眾出堂。至法座前。列一行問訊歸西序立。大眾雁列于後。若不候頭首至。先自立定非法也。其行堂亦於鼓鳴時鳴板三下。參頭領眾行者。列庫堂前相對排立。候轉鼓。知事出則問訊隨其後。待西序歸位畢。亦列一行。座前問訊。上首居後。都寺引歸東序立定。眾行者列知事後。稍離遠立。侍侍者入請住持出。行者問訊。住持至法座前。行者趲近知事後立。冬月則眾去帽問訊。住持和南登座。侍者隨上法座。以香合蓋盛香捧上。住持拈香祝壽畢。侍者接香。以左手插爐中右手拈從香一炷。略問訊下座歸班。待住持斂衣趺坐。侍者先末班。引過座下。列一行問訊。燒香侍者引班歸位。次首座領班出。列座前問訊。大眾同問訊。知事轉班列座前問訊。行者隨問訊。西堂東堂出座下問訊。侍者登座。左手上香轉身提坐具問訊(謂之代眾請法)退立座側問答罷。陳白事意云(某月某日欽遇天壽聖節。某寺預於某月某日。啟建金剛無量壽道場。一月日逐日輪僧上殿。披閱金文。今辰開啟。住持臣僧某。陞于此座舉揚聖諦第一義。所集洪因端為祝延聖壽萬安者)說法竟。白云(下座。各具威儀詣大佛殿啟建天壽聖節。謹白)此日座下雖有官員。亦不得敘謝。蓋尊君也。鳴大鍾及僧堂前鐘。集眾列殿上向佛排立。住持上茶湯。上首知事遞上。燒香侍者就佛座前。下茶湯畢。住持歸位立定。行者鳴鈸維那轉身爐前。揖住持上香。燒香侍者捧香合。次東堂西堂出班上香(如有大方諸山住持偶至者。令侍者請。於兩序前上香)次兩序對出向佛問訊。上香畢。兩兩相朝轉身歸位。大眾同展三拜。兩序分班對立。住持就跪。知客跪進手爐。侍者跪進香合。維那白佛宣疏畢。知客跪接爐。住持收坐具。維那舉楞嚴呪。回向云。(諷誦祕章。所萃洪因。端為祝延今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽佛云云)眾散。每日堂司行者將輪差僧簿。須預先一日請住持頭首眾僧。各書雙字名僉押。量眾多少。依戒具寫差單。排定日分周而復始。仍列經目。對揭殿內柱上。至日各務嚴肅。鳴大鍾上殿。當次僧員須具威儀。香合禮佛歸位看經。庫司嚴設香燭。備點心。維那燒香點湯照拂。至晚鳴大鍾下殿。堂司行者直殿行者。常加伺候。毋令怠慢。如官員入山拈香。鳴鍾集眾。諷無量壽呪。舉藥師號畢。回向云(某處某官入山拜手拈香。僧眾諷誦祕章。所萃洪因。端為祝延今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽云云)節內遇三八日。佛殿念誦。至日齋罷。堂司行者覆住持兩序諸寮。掛念誦牌報眾。參前巡廊鳴板。集眾向佛排立。住持至鳴大板三下。次鳴大鐘。燒香歸位。維那出班。念誦云(皇風永扇帝道遐昌。佛日增輝法輪常轉。為如上緣。念清淨法身毘盧遮那佛。十號訖回向云。上來念誦所集洪因。端為祝延今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽云云)鳴僧堂前鐘三下。大眾問訊而散。或住持赴郡縣都道場所歸時。鳴鐘集眾門迎詣方丈問訊。

聖節啟散古規所載。堂僧堂司給由。暫到客司給由隨身照證。蓋往時僧道歲一供帳納免丁錢。官給由為憑。故遊方道具度牒之外。有每歲免丁由。有何處坐夏由。有啟散聖節。以備徵詰。各亦畏慎。今雖不用。存其事以見古也。

黃榜式

某州某府某寺

某月某日欽遇

天壽聖節本寺預於今月某日恭就

大佛寶殿啟建

金剛無量壽道場一月日逐日輪僧上殿披閱真詮

宣持密號所萃

洪因端為祝延

今上皇帝聖壽萬歲萬歲萬萬歲

右恭　惟

佛日洞明

龍天昭格

某年某月　日都監寺臣僧某謹言

住　持　臣僧某

經單式

今具經文品目于后

大方廣佛華嚴經

大佛頂萬行首楞嚴經

大乘妙法蓮華經

大乘金光明經

大方廣圓覺脩多羅了義經

大乘金剛般若波羅密經

大仁王護國經

右具如前

今月　日綱維臣僧　某　具

差單式

今具逐日輪僧上殿名員于後　用白紙書

某日　住持臣僧　某甲首座　某甲書記

某甲藏主　某甲知客　某甲西堂

某日　某甲稱呼　某甲上座　某甲都寺

右具如前

今月　日堂司　某　具

疏語(啟建)右伏以　覆燾無私。乾坤孰測其高厚　照臨有赫。日月莫喻其光華。知　贊仰之徒勞。欲　補報而無極。惟託鈞陶之內。

義重　四恩。故竭　忠愛之心。虔恭　三祝。斗樞電繞龍象筵開。帝網百億山河咸歸　聖量。華藏三千世界益衍　丕圖。少盡涓埃。匪懈朝夕。欽願　夔龍登用　景星耀而泰階平　麟鳳呈祥　聖人作而萬物覩。謹疏　(滿散)優鉢羅花瑞世　同佛降生　閻浮提樹連陰。與天齊壽。故　毓夙成之　睿質。克　承丕顯之　聖謨　大哉乾至哉乾　體乾居正　會其極歸其極　建極立中。爰以　吾道之大同。有裨　聖時之至治。山林鐘鼓樂　化日之舒長。草木昆蟲被膏澤之滲漉　祥開震夙　頌祝華封。欽願　垂拱無為。天地位而萬物育　鈞陶有象。陰陽理而四時平　壽考萬年　本支百世。

景命四齋日祝讚

景命好日。月旦。月望。初八。廿三。四齋日。隔宿堂司行者報眾。掛諷經牌。次早鐘絕。後鳴僧堂前鐘。集眾登殿。維那舉楞嚴呪。唱藥師號。嘆佛畢。回向云(某日令辰。某州某寺住持傳法某僧某。謹集合山僧眾。恭趨寶殿。諷誦大佛頂萬行首楞嚴神呪。稱揚聖號。所萃洪因。祝延今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽佛仁王菩薩云云)。

旦望藏殿祝讚

旦望古來轉藏祝壽。今則必先侵晨登殿。
御座前祝讚。於禮為恭。或粥罷陞座罷鳴鐘集眾。往藏殿。維那舉云(摩訶般若波羅蜜多)眾當默念。住持領眾合掌繞藏。行道三匝。多眾則一匝立定。維那舉大悲呪。回向云(大圓照中有華藏海。功超造化。道絕明言三光電卷而實相涵。六合雷奔而湛然寂。不思議海難盡讚揚。某州某寺住持傳法臣僧某。月旦望令辰。謹集合山僧眾。恭趨藏殿繞旋行道。稱念摩訶佛母聖號。運轉天宮法寶輪藏。諷誦大悲圓滿神呪所萃洪因。端為祝延　今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽佛仁王。菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅密)。

每日祝讚

齋粥二時下堂。僧眾必須登殿。維那舉無量壽呪三遍。回向云(諷誦秘章。所萃洪因。端為祝延今上皇帝聖壽萬安。金剛無量壽佛云云)。

千秋節

至期堂司行者隔宿報眾。掛諷經牌。次早鳴僧堂鐘。集眾登殿。維那舉楞嚴呪畢白佛(四齋日同)回向云(某道某路某寺某月某日。敬遇皇太子千

秋令節。謹集合山僧眾。恭趨寶殿。諷誦大佛頂萬行首楞嚴神呪。稱揚聖號。所萃良因。敬祝皇太子睿算千秋殿下。伏願日重輪月重輝。照臨海宇。山如礪河如帶。鞏固邦基。金剛無量壽佛云云)。

善月

正五九為善月。預先一日。維那令堂司行者。覆住持報庫司。掛善月牌于殿門前。具經單輪差僧簿。每日鳴大鐘登殿。看經祝贊終月而畢。
始山隋開皇三年詔天下。正五九并六齋日。各寺建祈禱道場。不得殺生命。取藏經中。有毘沙門天王。每歲巡按四大部洲。正五九月治南贍部洲。故禁屠宰。而唐之藩鎮每上任。必犒士卒不下數萬人。須大烹宰。故以正五九不上官。為禁殺也。而俗以為忌者非。

祝釐章終

報恩章第二

國有禘祫四時之祭。所以昭功德隆本始重繼嗣也。聖朝崇佛。
世祖而下。咸各建寺。謂由佛應身以御天下。化儀既終復歸佛位。在　京官寺。於是設　聖容具佛壇場。月以五祭。設奠展禮如生。而致夫羹牆之思。洪惟　聖化所被。與佛之教流于無垠。而吾徒沐恩波濡　聖澤。可不知所自而思所報効焉。

國忌

上賓日屆期。隔宿庫司報堂司。令行者覆住持兩序。報眾掛諷經牌。就法座上。安　御座。用黃紙寫　聖號牌位。嚴設香花燈燭几筵供養。至期鳴僧堂鐘。集眾候住持至上香上茶湯。維那舉楞嚴呪。諷誦畢。回向云(某州某寺住持傳法臣僧某。某月某日。恭遇某聖聖忌之辰。謹集合山僧眾。謹誦大佛頂萬行首楞嚴神呪。稱揚聖號。所萃殊利資嚴聖駕。伏願神遊八極。想雲車風馬來。臨位證中天受玉殿瓊樓快樂。十方三世云云)。

祈禱

凡有祈禱。須如法嚴治壇場。鋪陳供養。住持專心加謹。僧眾各務整肅。知事內外提督應辦。大小寮舍巡警齋潔。或有官員拈香。恭勤迎送。預期庫司稟覆住持。先付意旨。維那知會。堂司行者報眾掛祈禱牌。齋粥二時鳴鐘集眾諷經。或看藏經。或四大部經。或三

日五日七日。隨時而行。如祈晴祈雨。則輪僧十員廿員。或三五十員。分作幾引。接續諷誦。每引諷大悲呪消災呪大雲呪。各三七遍。謂之不斷輪。終日諷誦。必期感應。方可滿散懺謝。其疏意各列于后。

祈晴

切見。淫雨為戾物用不成。百川橫流民無寧處。蓋眾生共業所感。惟上天覆燾無私。由是謹發誠心。啟建祈晴道場。每日命僧諷誦經呪。仰扣諸聖。所冀祈求晴霽。速賜感彰。伏願掃頑雲於四野。陰沴潛消。麗杲日於中天。容光必照。俾五行各順其序。而萬彙悉遂其生。

祈雨

切見。亢陽為災百物就槁。匪上天之降罰。由下民之多愆。惟諸佛開慈悲之門。而神呪有祈禳之應。由是謹發誠心。啟建祈雨道場。每日命僧。諷誦經呪。仰扣諸聖。所冀祈求雨澤。速賜感通。伏願拯生靈於塗炭。厥維艱哉。起雲龍于山川。俾霧[雨/沱]矣。庶茲多稼亦乃有秋。

祈雪

切見。時冬恒溫。恐生物之疵癘。維天降雪。淨下土之祲氛。庸致瓣香之誠。願集六花之瑞。由是謹發誠心。啟建祈雪道場。每日命僧。諷誦經呪。仰扣諸聖。所冀祈求雨雪。速賜感通。伏願彤雲千里潤澤。八荒六府三事用修。草木咸若。二氣五行順序。神人以和。

遣蝗

切見。飛蝗蔽天。惟凶荒之可慮。遺孽入地。恐滋蔓之難圖。匪假神功之驅除。雖極人力而罔措。由是謹發誠心。啟建遣蝗道場。每日命僧。諷誦經呪。仰扣諸聖。所冀驅遣蟲蝗速賜消殄。伏願滌之風雨。掃種類以無遺。投之江河。隨業感而自化。民安其業物遂其生。

日蝕

此日而食。占 五紀之或乖。畏天之威。虞六沴之將作。故徇民情而救護。盍依佛力以禱禳。由是謹發誠心。命僧諷誦經呪。用伸救護。所冀日精速賜還光。伏願五色開而黃道明。照臨下土。群陰消而陽德盛。昭回于天。

月蝕

月耀陰精而主夜。所賴照臨。天示咎徵于下民。於焉薄食。既戒既懼。以禱以禳。由是謹發誠心。命僧諷誦經呪。用伸救護。所冀月華速賜還明。伏願妖蟇滅跡。清光現大地山河。顧兔長生。萬象納廣寒宮殿。

報恩章終◎

勅修百丈清規卷第一

勅修百丈清規卷第二

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

◎

報本章第三

性者。人之大本也。振天地而莫知其始。窮萬世而莫知其終。佛與眾生均有是性。悟之而登妙覺。迷之而流浪生死。從劫至劫六道異趣。業報展轉無有窮已。所賴聖訓洋洋堪作依怙。吾徒忝形服預法系。遵其行之為律。宣其言之為教。傳其心之為禪。而循吾所謂大本者。以同夫佛之全體妙用。始可稱佛子而續慧命也。其於諱日追悼。豈世禮哉。

佛降誕

先期堂司率眾財送庫司。營供養。請製疏僉疏(聖節禮同)至日庫司嚴設花亭。中置佛降生像。於香湯盆內。安二小杓佛前。數陳供養畢。住持上堂祝香云(佛誕令辰。某寺住持遺教。遠孫比丘某甲。虔爇寶香。供養本師釋迦如來大和尚。上酬慈蔭。所冀法界眾生念念諸佛出現于世)次趺坐云(四月八日。恭遇本師釋迦如來大和尚降誕令辰。率比丘眾。嚴備香花燈燭茶果珍羞。以伸供養。住持遺教遠孫比丘某甲。陞于此座舉唱宗乘。所集殊勳上酬慈蔭。下與法界眾生同伸希有之慶)次說法竟。白云(下座各具威儀詣大佛殿。浴佛諷經謹白)下座。領眾同到殿上。向佛排立定。住持上香三拜。不收坐具。進前上湯進食請客侍者遞上。燒香侍者捧置于几畢。復位三拜再上香。下蠲點茶。又三拜收坐具。維那揖班上香。大眾展拜。住持跪爐。維那白佛云(一月在天影涵眾水。一佛出世各坐一華。白毫舒而三界明。甘露洒而四生潤)宣疏畢。舉唱浴佛偈云(我今灌沐諸如來。淨智莊嚴功德聚。五濁眾生令離垢。同證如來淨法身)行道浴佛將畢。舉楞嚴呪。回向云(上來諷經功德。回向真如實際莊嚴無上佛果菩提。四恩等報三有齊資。法界有情同圓種智。十方三世一切佛云云)。

疏語　大海湛然獨聽　潮音之震蕩。太虛廓爾。惟瞻　景緯之橫陳。由　本大而迹彰。抑　時至而機應　俾群靈咸成正覺　從五濁示現降生　脫珍服著垢衣　委身以徇舍化城登寶所　携手同歸　初

度重臨　大恩莫報　伏願　扇真風於末世　揭慧日於中天。無佛無魔法法宣揚玉偈。非垢非淨塵塵灌沐　金軀。

佛成道涅槃

先期堂司率眾財送庫司。營供養。請製疏僉疏(降誕禮同)住持上堂祝香云(佛成道日。某寺住持遺教遠孫比丘某甲。奉為法界眾生。虔爇寶香。供養本師釋迦如來大和尚。上酬慈蔭。次冀法界眾生同成正覺)次趺坐云(臘月八日。恭遇本師釋迦如來大和尚成道之辰。率比丘眾。嚴備香花燈燭茶果珍羞。以伸供養。住持遺教遠孫比丘某甲。陞于此座舉唱宗乘。所集殊勳上酬慈蔭。普願法界眾生。發明自己智慧。入微塵剎轉大法輪)次說法竟。白云(下座各具威儀。詣大佛殿諷經謹白)下座。領眾殿上展拜跪爐。維那白佛云(正覺山前睹明星而悟道。大千界內揭慧日以流輝)宣疏畢。諷經回向。涅槃日。住持先於佛殿拈香祝聖諷經畢次第上堂。祝香云(佛涅槃日。某寺住持遺教遠孫比丘某甲。虔爇寶香。供養本師釋迦如來大和尚。上酬慈蔭。下與法界眾生同伸攀慕。所冀法身常住法輪再轉。一切有情悟無生忍)次趺坐云(二月十五日。恭遇本師釋迦如來大和尚入涅槃之辰。率比丘眾。嚴備香花燈燭茶果珍饈。以伸供養。住持遺教遠孫比丘某甲。陞於此座舉揚涅槃妙心。所集殊勛上酬慈蔭。普願法界眾生同圓種智者)說法竟。白云(下座各具威儀。詣大佛殿諷經謹白)下座。領眾殿上展拜跪爐。維那白佛云(淨法界身本無出沒。大慈願力示有去來)宣疏畢。諷經回向並同前。

疏語成道　無量劫來成佛。豈假進修。眾生日用不知。示以先覺覺自覺他。而成　覺道。世出世間而稱　世尊　闡一代之化儀　遵先佛之遺軌　坐菩提樹。魔宮隱而無光　現優鉢花法輪熾然常轉。故始喻初日之先照。而末示拈花之正傳　圓明真常則空有俱亡。聖凡夢幻　埏埴萬化。則今古一瞬天地豪芒。顧末裔之何知。誦遺言而有惕。伏願色空明暗咸宣　微妙法音。蠢動含靈共證　智慧德相涅槃　各赴群機　法華之囑累授記　力制後學　遺教之扶律談常。矧　拈花得旨付法正傳。而落葉歸根。畢吾能事。囿放化者終於盡。順世無常。寓諸幻而返諸真。是名寂滅。然神珠恒照於濁垢。而　寶月不避於污流　大定無方。常住恒河沙劫　圓機普應。示現千百億身。顧世相之難忘。臨諱日而增慕。伏願　闢末流之邪見回季運之澆漓　定慧兼修。長如　正法住世。天魔率化。皆為外護宗綱。

佛生中印土。姓剎帝利氏瞿曇。梵語瞿曇。華言甘蔗。其始祖王仙為獵人躲死血入地。生甘蔗二本。日炙開。一生男號甘蔗王。一生女。善賢妃生子。作轉輪王。以日炙又名日種。傳七百世。至淨飯王。佛以累劫功行滿足。從兜率天降神王宮摩耶夫人腹

胎。於周昭王二十六年甲寅歲四月八日生。名薩婆悉達。七日母喪。賴姨母摩訶波闍波提乳養。至二十五歲。踰城往跋伽仙林中。取劍斷髮脫身寶衣。從獵師貿袈裟為比丘。復北渡恒河至伽闍山靜坐。六年苦行。日食一麻一米以續精氣。復自念若以羸身而取道者。彼外道則言自饑是涅槃因。乃浴於尼蓮河受牧女乳糜。釋提桓因以吉祥草敷坐跏趺於上。魔王領兵欲加迫害。百計不能少撓。作禮悔罪而去。二月八日明星出時。豁然大悟。得無上道成最正覺(世相傳以臘月八日。或謂周正建子。或別有據)時年三十歲矣。於摩竭提國阿蘭若菩提場中。演說華嚴。小機未入如聾如瘂。於三七日觀樹思惟寧入涅槃。梵天帝釋殷勤三請。乃詣鹿苑。以三乘教轉大法輪。先為憍陳如等五人。說四諦十二因緣六度等教。歷十二年時佛四十二歲。至方等會上淘汰弟子。漸已開泰。於是彈遍擊小歎大褒圓。說維摩楞伽楞嚴般若大乘等經。又三十年。時佛七十二歲說法華經。以諸弟子皆可任重授記作佛。方暢本懷。又八年。為穆王五十三年壬申歲。時佛七十九歲。佛先往忉利天為母說法。優填王戀慕鑄金為像。聞佛下降金像來迎佛。姨母摩訶波闍波提五百比丘尼。舍利弗目犍連七萬阿羅漢等。不忍見佛涅槃。同時入滅。菩薩四眾天人八部鳥獸諸王悉集。獨受純陀最後之供。為諸比丘說無常苦空。復言。無上正法悉已付囑摩訶迦葉。當為汝等作大依止。猶如如來。又以阿難在娑羅林外。為魔所嬈。乃勑文殊云。阿難吾弟。給事我來二十餘年。聞法具足。如水注器。欲命受持是涅槃經。文殊奉旨召阿難歸。佛言。有梵志須跋陀羅。年百二十。未捨憍慢。汝可告之。如來中夜當般涅槃。即與同至。聞佛說法得阿羅漢乃告大眾。自我得道度憍陳如。最後度須跋陀羅。吾事究竟。二月十五日中夜復伸告誡。汝等比丘於我滅後。當尊波羅提木叉。是汝大師。如我住世無異也。於七寶床右脇而臥。寂然無聲便般涅槃。阿那律升忉利天告摩耶夫人。自天而下。世尊起為說法開慰。復語阿難。當知為後世不孝眾生故。從金棺出問訊於母。時迦葉與五百弟子。自耆闍崛山奔至悲哽作禮。復現雙足千輻輪相。天人各持香薪。至茶毘所。化火自焚七日乃盡。眾收舍利滿八金壜。阿闍世王與八國王。及帝釋諸天龍王共爭舍利大臣優波吉諫止。宜共分之。即分為三。一諸天。一龍王。一分八王。而闍王得八萬四千數。以紫金函盛於五恒河中。作塔藏之。

帝師涅槃

至日法座上敬安牌位。如法鋪設。嚴備香花燈燭茶果珍羞供養。維那請製疏僉疏(佛涅槃同)隔宿命堂司行者。報眾掛諷經牌。正日鳴鐘集眾。向座雁立。候住持至。上香上湯上食下賜。上茶禮拜畢。拈香有法語。維那揖班上香。大眾普同禮拜。住持跪爐宣疏舉呪。回向云(上來諷經功德。奉為皇天之下一人之上開教宣文輔治大聖至德普覺真智佑國如意大寶法王西天佛子大元帝師上酬慈蔭十方三世一切諸佛云云)。

疏語　天啟　有元。篤生　輔治之　大聖。　道尊無上。實為　宣文之　法王。密贊　化基陰翊　王度。吐辭為經。舉足為法。位居　千佛之中。博厚配地。高明配天。尊極　一人之上。維茲　聖忌。益仰　恩光。伏願　重駕願輪。贊四海同文之治化。眷言像季　振千古正法之宗綱。

帝師拔合斯八。法號惠幢賢吉祥。土波國人也。己亥歲四月十三日降生。父曰唆南紺藏。初土波有國師禪恒羅吉達。得正知見具大威神。累葉相傳道行殊勝。其國王世師尊之。凡十七代而至薩斯加哇。即師之伯父也。師天資素高。復禮伯父為師。祕密伽陀微妙章句一二千言。過目成誦七歲演法辯博縱橫。年十有五。歲在癸丑。

世祖皇帝龍德淵潛。師灼知真命有歸。馳騎徑詣王府。

上與中闈東宮。皆秉受戒法。特加尊禮。閱六載。庚申。世祖聿登大寶。建元中統遂尊為國師。授以玉印。任中原法主。統領天下釋教。始令僧俗分司。四年辭帝西歸。未朞月趣召來還。至元七年庚午。有旨制大元國字。師獨運摹畫。不日而成。深愜聖意。即詔頒行。朝省郡縣悉皆遵用。迄為一代典章。升號帝師大寶法王。更賜玉印。旋又西歸。十一年上復專使召至。尋又力辭還山。上堅留之不可。十七年十一月二十二日入滅。上聞不勝震悼追懷。連建大窣堵波于京師。寶藏真身舍利。輪奐金碧古今無儔(見翰林學士王磐等奉　勅所撰碑)後升號皇天之下一人之上。開教宣文輔治大聖至德普覺真智佑國如意大寶法王西天佛子大元帝師。

報本章終

尊祖章第四

人各祀其祖重其形生之始也。形生始於愛。然形有時而化。愛有時而盡。惟性之靈然不昧者不恃生而存。不偕亡而亡。故佛教人必明性。而後之學者復膠於文言。不得其指歸。猶醫之善方書而廢藥石。何益哉。及吾祖達磨至。示以直指之道。而人始廓然。見夫自性之妙不求文字不資語默。而得於聲欬聲色之外。則吾徒之傳祖道嗣祖位者。如火之薪水之器。無古今之間毫髮之異。不猶重於形生

之始乎。後百丈大智禪師又作清規。以居吾徒。而禪林於是乎始。海會端公謂宜祀達磨於中百丈陪于右。而各寺之開山祖配焉。見於祖堂綱紀序云。

達磨忌

先期堂司率眾財營供養。請製疏僉疏(佛涅槃同)隔宿如法鋪設法堂。座上掛真。中間嚴設祭筵爐瓶香凡。上間設禪椅拂子楎架法衣(設床榻者非也)下間設椅子經案爐瓶香燭經卷。堂司行者報眾。掛諷經牌。當晚諷經并覆來日半齋各具威儀。散忌諷經。參前鳴僧堂鐘。集眾候住持至。鳴鼓獻特為湯。住持上香三拜。不收坐具。上湯退身三拜再進。前問訊揖湯。復位二拜收坐具。鳴鼓三下。行者鳴手磬。維那出班。念誦云(切以。宗傳直指。忝借潤於餘波。道大難名。愧聯輝於末裔。仰憑大眾念清淨法身毘盧遮那佛十號云云)回向云(上來念誦功德。奉為初祖菩提達磨圓覺大師大和尚。上酬慈蔭。十方三世一切云)畢鳴僧堂鐘三下眾散或請就坐藥石。昏鐘鳴。再鳴僧堂鐘集眾。住持上香。維那舉楞嚴呪畢。回向云(淨法界身本無出沒。大悲願力示有去來。仰冀慈悲俯垂昭鑒。今月初五日伏。值初祖菩提達磨圓覺大師大和尚示寂之辰。率比丘眾營備香饌。以伸供養。諷誦大佛頂萬行首楞嚴神呪。所集殊勳上酬慈蔭。伏願。群機有賴。播揚少室之家風。妙智無窮。成就大乘之根器。十方三世一切云云)次參頭領眾行者排列。喝參禮拜諷經。人僕排列參拜。次日早住持上香禮拜。上湯上粥座下側坐陪食。粥罷住持上香上茶。維那舉大悲呪畢。回向(上來諷經功德。奉為初祖菩提達磨圓覺大師大和尚。上酬慈蔭。十方三世云云)半齋鳴僧堂鐘集眾。向祖排立。住持上香三拜。不收坐具。進爐前。上湯上食請客侍者供遞。俟燒香侍者就祖位側捧置几上。退就位三拜。仍進前燒香下蹶畢。三拜收坐具。鳴鼓講特為茶(如湯禮)畢住持拈香有法語。行者鳴鈸。維那出班。揖住持上香。侍者捧香合。次東堂西堂兩序出班上香。大眾同展三拜。維那白云(淨法界身本無出沒。大悲願力示有去來)宣疏住持跪爐。次舉楞嚴呪畢。回向(上來諷經功德。奉為初祖菩提達磨圓覺大師大和尚。上酬慈蔭。十方三世云云)次行者諷經。

疏語　大哉正傳　紹覺皇之宗裔。廓然無聖　破義學之膏肓。百川到海迥絕異流　杲日麗天罄無側影　指人心而成佛成佛同心　契妙道以忘言。忘言見道。有　大功於世教。宜　廣振於宗風　現濁世優曇華。實為鼻祖　取神州大乘器。盡入彀中。適逢　瘞履之辰。爰效采蘩之薦。伏願　信衣表　佛祖之重　力任千鈞　一花開　天地之春。芳聯萬世。

祖師南天竺國香至王第三子也。姓剎帝利。本名菩提多羅。後遇二十七祖般若多羅尊者。知師密跡。因試令與二兄辯所施寶珠。發明心要。既而尊者謂曰。汝於諸法已得通量。夫達磨者通大之義也。宜名達磨。因改名菩提達磨。師乃告尊者曰。我既得法。當往何國而作佛事。願垂開示。尊者曰。汝雖得法未可遠遊。且止南天。待吾滅後六十七載。當往震旦設大法藥直接上根。慎勿速行衰於日下。梁普通八年丁未歲九月二十一日至南海。廣州刺史蕭昂表聞武帝。帝遣使詔迎。十月一日至金陵與帝語。不契。是月十九日渡江北。十一月二十三日屆于洛陽。當魏孝明太和十年也。萬止于嵩山少林寺。面壁而坐。終日默然。人莫之測。謂之壁觀婆羅門。至太和十九年丙辰歲十月五日端居而逝。其年十二月二十八日葬熊耳山。起塔於定林寺。唐諡圓覺大師。塔曰空觀。

百丈忌

先期堂司率眾財營供養。至日隔宿如法鋪設法堂。座上掛真。嚴設中間祭筵上下間几案供具。當晚諷經正日散忌特為茶湯拈香宣疏。出班上香大眾展拜(並同達磨忌禮)但無念誦。初夜回向云(淨法界身本無出沒。大悲願力示有去來。仰冀慈悲俯垂昭鑒。正月十七日。伏值百丈大智覺照弘宗妙行禪師大和尚示寂之辰。率比丘眾營備香羞。以伸供養。諷誦大佛頂萬行首楞嚴神呪。所集殊勳上酬慈蔭。伏願曇花再現。重開覺花之春。惠日長明。永燭昏衢之夜。十方三世一切云云)。

疏語　一言為　天下法　中矩中規　萬世知　師道尊　有綱有紀。以儗叢林禮樂之盛。見　法筵龍象之多　華梵同文　富擬名渠天祿　經律相濟　嚴如金科玉條　有布武堂上之儀。非綿蕞野外之禮　即此用離此用　語脫重玄　出於機入於機　理窮眾妙。宜配禪祖以陪祀。盍遵　諱日而營齋。伏願　帝釋精進勝幢　制諸魔外　濟北陰涼大樹　蔭滿閻浮。

師福州長樂人王氏子。丱歲離塵。三學該練。屬馬祖闡化江西法席之盛。若大珠南泉歸宗號法龍象。而師為上首。暨祖示寂泐潭。師繼之。以眾委湊無所容。欲辭去。道過新吳憩止車輪峯下。有甘貞游暢。願施地延居。已而眾復至。遂建寺為大拓提焉。元和九年正月十七日師歸寂。彬林不爇而燎。靈溪方春而涸。四眾悲慘葬于大雄峯。先是有異人司馬頭陀者。為擇葬地曰。傍連三峯未窮其妙。法王居之天下師表。而世以為信然云。唐長慶元年勅諡大智禪師。塔曰大寶勝輪。

宋大觀元年加諡覺照。塔曰慧聚。

大元元統三年加謚弘宗妙行禪師。

開山歷代祖忌

開山忌及道行崇重。功被山門者。隔宿鋪設法堂上。禮儀(百文)或無疏。庫司備供養。若歷代忌不具疏。不獻特為茶湯。屆期堂司預報庫司。備供養。請牌位。就法座西首鋪設。粥罷集眾。住持兩序一行排立。維那出揖班上香畢歸位。同展三拜。侍者班尾拜(至大規云有處就祖堂下食一位諷經非禮也)舉大悲呪。回向云(寶明空海。湛死生漩澓之波。大寂定門。融今古去來之相。仰冀貞慈俯垂昭鑒。山門今月某日。伏值前生當山第幾代某號某禪師示寂之辰。營備珍羞以伸供養。比丘眾諷誦大悲神呪。所集殊勳增崇品位。伏願。慧日重輝。耀祖室光明之種。靈根再蘗。回少林花木之春。云云)或鄉人。或江湖舉呪。回向云(上來諷經功德。奉為某號大和尚增崇品位。十方三世云云)或有俵賵。則舉楞嚴呪。回向同前。

嗣法師忌

先德唯激揚宗乘發明自己。開示後學知有授受。以報恩也。如巴陵三轉語為雲門作忌。先輩深有意焉。然尊師重道。禮不可廢。先期住持出己財送庫司。辦祭設供。隔宿就法堂如法排辦。堂司行者報眾。掛諷經牌。當晚諷楞嚴呪。鄉人法眷舉大悲呪。次行者諷經回向並同。次早住持上粥粥罷。大眾諷大悲呪。鄉人法眷舉呪。半齋散忌諷經住持上食。講特為茶拈香(達磨忌同)兩序上香大眾同拜(蓋上座下皆曰參學故也)齋時住持入堂燒香展拜歸位。衣鉢侍者行賵(有就法堂諷經時俵賵非禮也)齋畢就座點茶燒香侍者行禮。若講特為伴真湯(齋罷方丈客頭請西堂兩序。晚間對真相伴喫湯。排照牌位列座右。住持揖就座。燒香上湯。并下相伴人湯。退身燒香展拜。起身問訊謝相伴。鳴鼓三下退座。如有三五人西堂。則分作兩座。第一座西堂喫湯。住持行禮。第二座兩序喫湯。侍者行禮或無西堂則已之諷經罷備湯果。預請兩序勤舊。如有法眷尊長同門兄弟。皆當請之。小師師孫不可同席。坐定住持起上香上湯畢。侍者燒香行湯果)
尊祖章終

住持章第五

佛教入中國四百年而達磨至。又八傳而至百丈。唯以道相授受。或岩居穴處。或寄律寺。未有住持之名。百丈以禪宗寖盛。上而君相王公。下而儒老百氏。皆嚮風問道。有徒實蕃。非崇其位則師法不嚴。始奉其師為住持。而尊之曰長老。如天竺之稱舍利弗須菩提。

以齒德俱尊也。作廣堂以居其眾。設兩序以分其職。而制度粲然矣。至於作務。猶與眾均其勞。常曰。一日不作一日不食。烏有庾廩之富輿僕之安哉。故始由眾所推。既而命之官。而猶辭聘不赴者。後則貴鬻豪奪。視若奇貨。然苟非其人。一寺廢蕩。又遺黨於後。至數十年蔓不可圖。而往往傳其冥報之慘。有不忍聞者。可不戒且懼乎。

住持日用

上堂

凡旦望侍者隔宿稟住持。云來晨祝　聖上堂次早再稟。分付客頭行者。掛上堂牌報眾。粥罷不鳴下堂鐘三下。俟鋪法座畢。堂司行者覆首座。鳴眾寮前板。大眾坐堂方丈行者覆住持。次覆侍者鳴鼓。兩序領僧行。至座前問訊。分班對立侍者請住持出。登座拈香祝壽(詳具祝釐章)趺坐開發學者。激揚此道。若有客併敘序謝。多則具目子。恐有遺忘。侍者提起。或有諸山住持名德西堂。座右設位。官客對座設位(知禮尊法則不坐也)五參上堂。兩序至座下徑歸班立。住持登座不拈香(餘如前式)若尊宿相訪。特為上堂或引座舉揚。施主請陞座不拘時也。

古之學者蓋為決疑。故有問答。初不滯於語言。近日號名禪客。多昧因果。增長惡習以為戲劇。譁然喧笑。甚失觀瞻。況舉揚宗乘。端祝　聖壽。若有官客及名德相過。少致敘陳。而今時衲子例責過褒敘謝。殊乖法式。如說山門事務。則方丈會茶議論。毋談雜事使眾厭聽。

晚參

凡集眾開示皆謂之參。古人匡徒使之朝夕咨扣。無時而不激揚此道。故每晚必參則在晡時。至今叢林坐參猶旦望五參陞座。將聽法時大眾坐堂也(詳具祝釐章)若住持至晚不參。則堂司行者稟命住持覆首座。鳴僧堂鐘三下。謂放參鐘也。如住持入院。或官員檀越入山。或受人特請。或謂亡者開示。或四節臘則移於昏鐘鳴。而謂之小參。可以敘世禮。曰家教者是也。然亦不鳴放參鐘。謂猶有參也。

小參

小參初無定所。看眾多少。或就寢堂。或就法堂。至日午後。侍者覆住持云(今晚小參)令客頭行者報眾。掛小參牌。當晚不鳴放參鐘。昏鐘鳴時行者覆住持。鳴鼓一通。眾集兩序歸位。住持登座(與五參上堂同)提綱敘謝委曲詳盡。然後舉古。結座如四節。說請頭首。秉拂及講免禮儀。詳略使眾通知。下座客頭行者喝請云。(方丈和尚請西堂兩班單寮耆舊蒙堂侍者禪客。即今就寢堂獻湯)庫司預備湯果送上方丈。

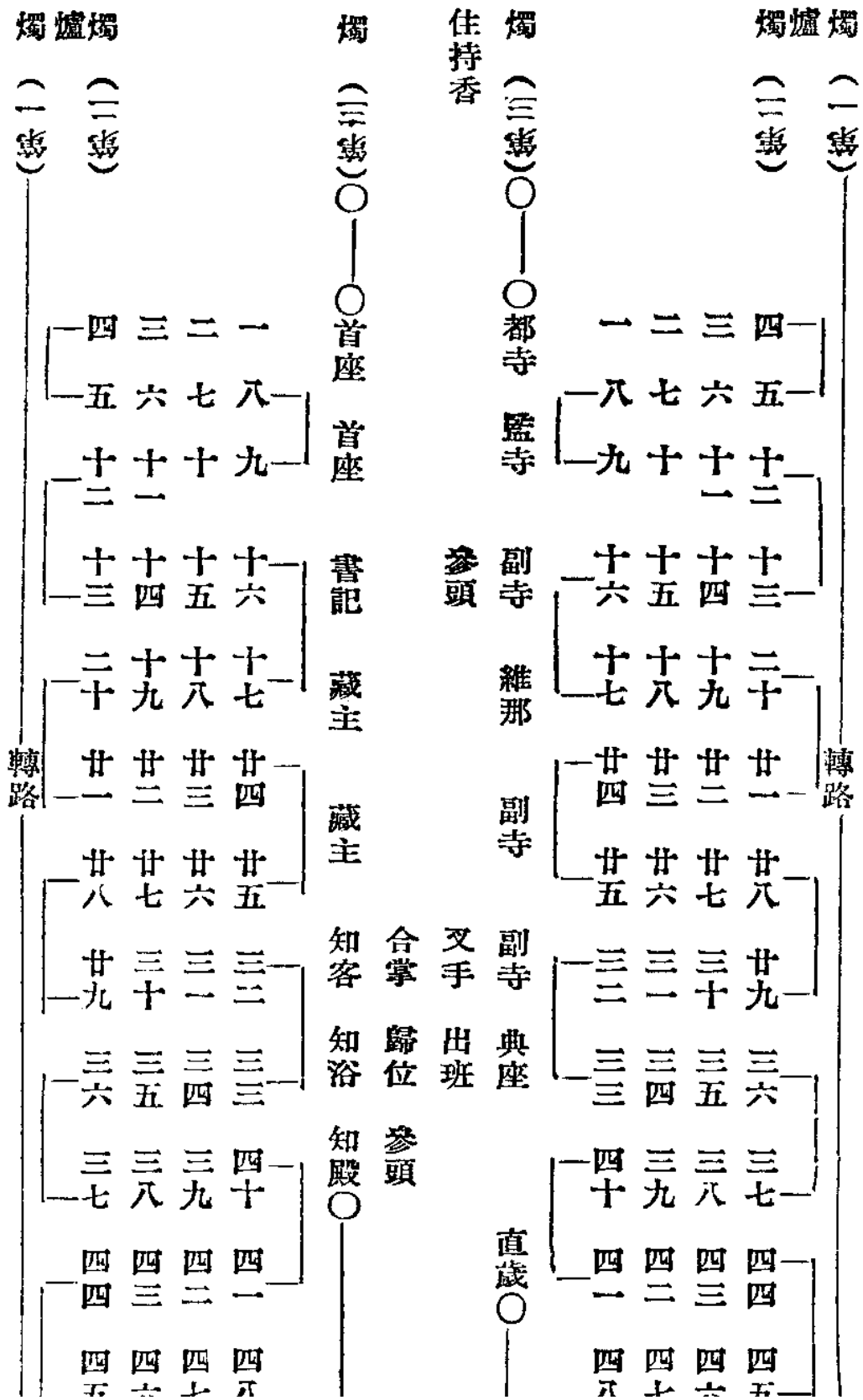
昔汾陽昭禪師住汾州太子院。以并汾地苦寒。故罷夜參。有異比丘振錫而至。謂師曰。會中有大士六人。奈何不說法。言訖昇空而去。師密記以偈曰。胡僧金錫光。為法到汾陽。六人成大器。勸請為敷揚。時楚圓守芝號上首。楚圓即慈明也。後住石霜。飯罷常山行。時楊岐會公為監寺。闞其出撾鼓集眾。慈明遽還怒數曰。暮而升座何從得此規繩。會徐對曰。汾州晚參何為非規繩乎。慈明頷之。

告香

每夏前。告香新歸堂者推參頭一人。維那和會定同眾詣侍司。稟云。新掛搭兄弟欲求和尚告香普說。敢煩侍者。咨稟。答云(容為後覆却當相報)如住持允從。即報堂司出告香圖(式見後)量眾多少。列作幾行。分東西兩邊面向法座而立。依戒排列。預集眾習儀。堂司行者率眾錢。買香大小三片及紙。作圖之費。付參頭收。至日侍者令客頭於寢堂或法堂。鋪設罘罳椅子。須用香几三隻燭臺三對。當椅前　字間列。外設小拜席。堂司行者預逐一報眾。掛告香牌。侍者預出小榜。貼法堂柱上云(奉堂頭和尚慈旨。名德西堂首座並免告香。侍司某謹白)至日粥罷。諸寮各鳴板三下。眾集依圖位立各備小香合坐具。參頭同維那侍者。入請住持出。參頭歸位。同眾問訊進前云(請和尚趺坐)住持就座。副參遞大香一片。與參頭同眾問訊插香。各大展三拜。收坐具復同問訊。參頭進椅側。問訊稟云(某等為生死事大無常迅速。伏望和尚慈悲開示因緣)住持舉話三則。隨下語。歸位問訊。插香一片復同眾就位。叉手而立。東西各三人出班。東第一第二人過東爐前。第三人中爐前。西第一第二人過西爐前。第三人過中爐前前。兩兩炷香問訊。然後東三人過東。西三人過西。以次如前而進徐步行各巡接班尾。三三叉手出班合掌歸位。俟各炷香畢次第趲至元位。同眾三拜不收坐具。參頭進云(某等蒙和尚慈悲開允。下情不勝感激之至)復位同眾三拜進云(即日時令謹時共惟。堂頭和尚尊候起居萬福)復位同眾三拜收坐具。行者鳴鼓五下。兩序轉身序立座前。參頭立西序下。其告香人東西轉身依位對立。勤舊蒙堂已告香者立于後。普說竟。仍齊向法座立。參頭插香同眾三拜。免則觸禮進云(某等宿生慶幸。獲

蒙和尚慈悲開示。下情不勝感激之至)普同問訊而退。參頭領眾法堂下間。謝維那侍者觸禮一拜。次大眾謝參頭。觸禮一拜。

告香之圖





請客侍者預依戒次。具茶狀。備卓袱筆硯。告香罷。列法堂下間請茶各僉名。請首座光伴。齋退鳴鼓眾歸位立。兩侍者行禮(與常特為茶同)當晚方丈請參頭維那侍者藥石。首座光伴。次早請參頭茶。半齋請參頭維那侍者點心。若大眾均預告香。則首座為參頭。其特為茶請西堂光伴。住持入院後人事定。庫司備香。首座領眾。懇請為眾告香。然後開堂(古法未預告香不許入室)

普說

有大眾告香而請者。就據所設位坐。有檀越特請者。有住持為眾開示者。則登法座。凡普說時侍者令客頭行者。掛普說牌報眾。鋪設寢堂。或法堂。粥罷行者覆住持。緩擊鼓五下。侍者出候眾集。請住持出。據坐普說。與小參禮同。

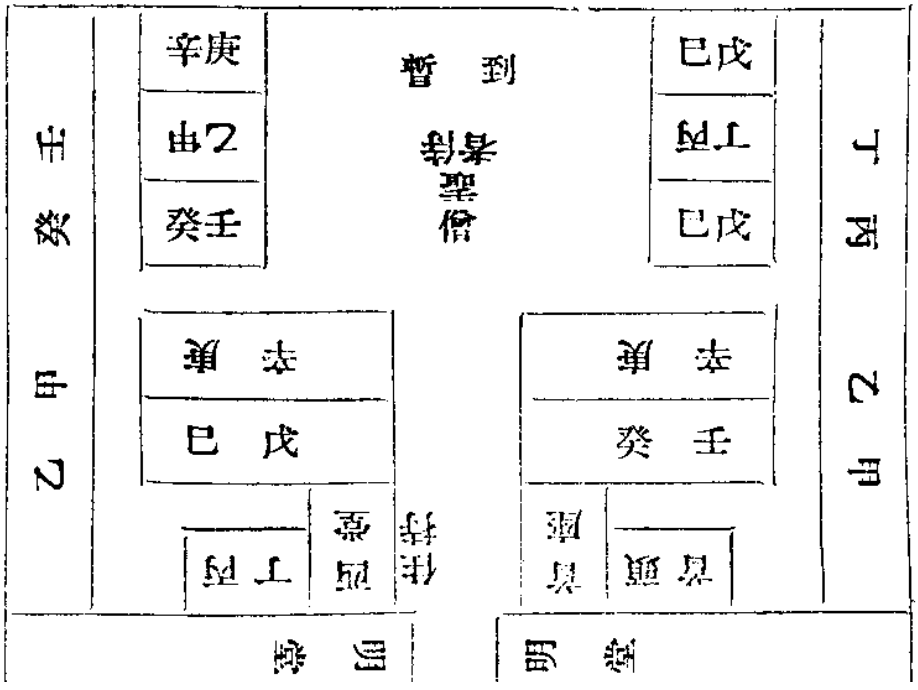
入室

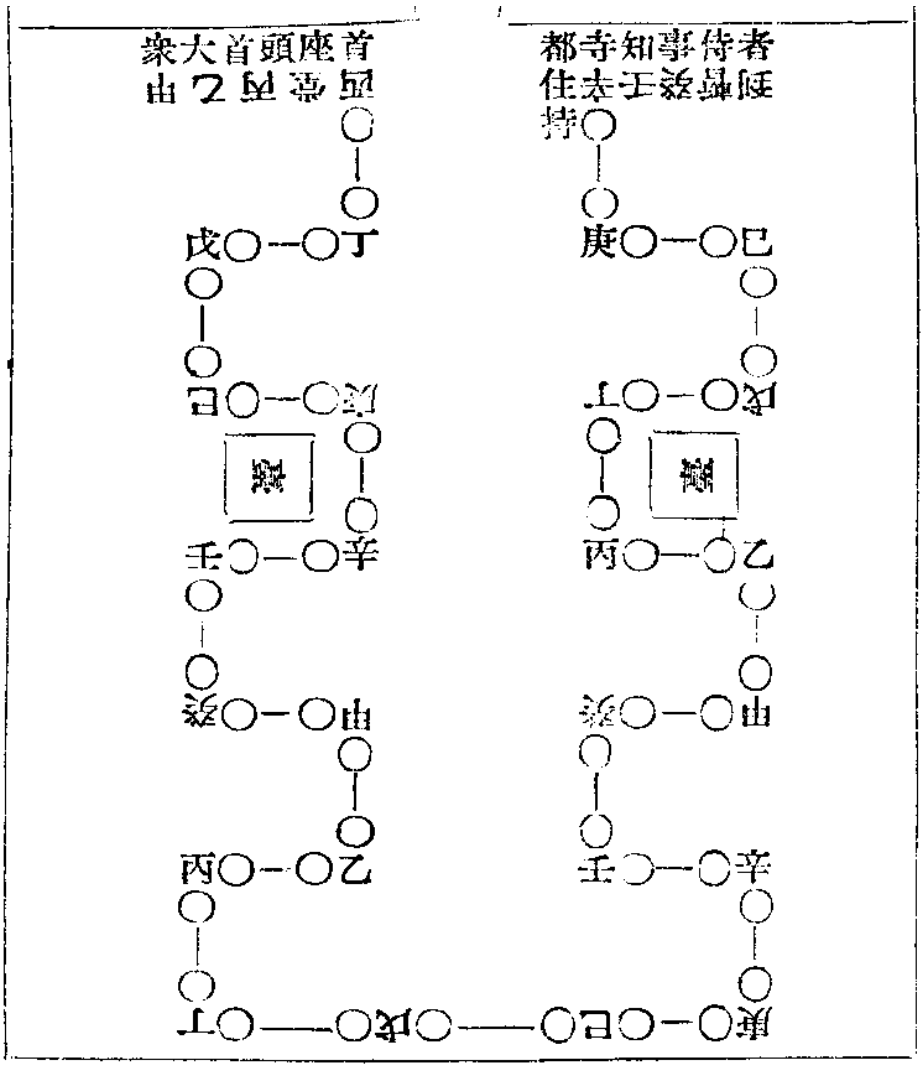
入室者。乃師家勘辨學子。策其未至。擣其虛亢攻其偏重。如烹金爐鉛汞不存。玉人治玉碱砆盡廢。不拘昏曉不擇處所。無時而行之。故昔時衲子小香合常隨身。但聞三下鼓鳴。即趨入室(今時以三八入室者。備故事也)遇開室時粥前侍者令客頭行者。僧堂前諸寮掛入室牌。寢堂設達磨像。前列香燭拜席。敷設室內秉燭裝香。拜席設左側。粥罷下堂客頭即緩擊鼓三下。住持至達磨前炷香。同侍者三拜入據室坐。侍者問訊班左立。行者問訊班右立。頭首領眾。達磨前各炷香三拜。聯接而至室前。後至者依次炷香展拜接排而立次第相趲不許攙先亂序。侍者燒香問訊。出外揖首座入。入先左足。仍以左手上香。進前問訊至禪椅右側。立聽舉話。或下語。或不下語。隨意過禪椅左。問訊退步。觸禮一拜舉左足。出揖次人入。一出一入相向問訊聯接不絕。若首座是大方西堂。或名德入燒香。住持當下座揖讓送出。遇陞堂白眾特免(此亦近代循襲之儀。若古德當機。佛祖不讓。寧講世禮。顧師家何如耳)只後堂領眾。暫到皆當入室。侍者居眾後入室畢炷香。大展三拜。行者插香三拜。住持復出達磨前炷香。大展三拜而退。

念誦

古規初三。十三。二十三。初八。十八。二十八。今止行初八。十八。二十八。堂司依戒次寫圖(式見後)至日僧堂前灑掃。午後堂司行者報眾。掛念誦牌。至參前。檢點僧堂及諸殿堂香燭完備。覆住持兩序。先鳴方丈板照堂板。次巡廊鳴板住持出。緩鳴大板三下。眾集依圖立定。暫到於侍者下肩立。侍者隨住持。到祖堂土地堂。大殿燒香禮拜。鳴大鐘。兩序預集堂外。大板鳴方歸圖位。住持入堂供頭鳴堂前鐘。七下。聖僧前燒香。侍者捧香合。書狀侍者徑歸位。請客侍者即往西序問訊。請湯巡過。次請東序就歸位。住持出堂外中立。燒香侍者隨出歸位。維那先離位至門首向住持立。合掌念誦。上八中八云(皇風永扇帝道遐昌。佛日增輝法輪常轉。伽藍土地護法護人。十方檀那增福增慧。為如上緣。念清淨法身毘盧遮那佛。云云)大眾默念。每一號堂前輕應。鐘一聲。念畢疊一聲。下八云(白大眾。如來大師入般涅槃。至今大元重紀至元元年。已得二千二百八十四載。是日已過命亦隨減。如少水魚斯有何樂。眾等當勤精進如救頭然。但念無常慎勿放逸。伽藍土地護法護人。十方檀那增福增慧。為如上緣。念清淨法身十號云云)畢歸位。住持入堂。前堂首座入次。名德西堂插入。歸聖僧板頭立。頭首領眾。三人一引。聖僧前問訊。轉身住持前問訊。合掌巡堂。順左肩轉依圖位立。暫到侍者隨眾入。只巡半堂至聖僧後。侍者向後門立。暫到向侍者立。次知事入堂聖僧前問訊。轉身住持前問訊。合掌巡堂出。暫到接侍者後隨出。堂司行者往首座前覆云(放參)從聖僧後轉出堂。供頭鳴堂。前鐘三下。眾普同和南。各出全單而散(住持出兩序。隨出至堂前謝湯。住持止之下八赴湯。寢堂鳴板侍者燒香。行禮如常式。湯罷藥石。古法三八皆有湯。上八中八則免藥石。其日不坐參至晚坐禪如常式)。

念誦巡堂之圖





巡寮

古規住持巡寮。僧堂前掛巡寮牌報眾。各寮設位備香茶湯。伺候住持至。鳴板集眾。於門外排立問訊。隨住持入寮。寮主燒香同眾問訊而坐。住持詢問老病。點檢寮舍缺之。敘話而起。眾當展坐具謝臨訪。免則問訊相送。或旦望巡行(則不掛牌)今惟以四節報禮為巡寮。餘日不講。能復古者當行之。

僧祇云。世尊以五事故。五日一按行僧房。一恐弟子著有為事。二恐著俗論。三恐著睡眠。四為看病僧。五令年少比丘觀佛威儀生歡喜故。

肅眾

大藏經內載。宋翰林學士楊億推原百丈立規之意。略曰。有或假號竊邢混于清眾。別致喧撓之事。即當維那撿舉。抽下本位掛搭。擯令出院者。貴安清眾也。或彼有所犯。即以拄杖杖之。集眾燒衣鉢道具。遣逐偏門而出者。示恥辱也。詳此一條制有四益。一不污清眾。生恭敬故。二不毀僧形。循佛制故。三不擾公門。省獄訟故。四不泄於外。護宗綱故。然百丈創規。折衷佛律五篇七聚。弘範三界。梵檀擯治自恣舉過。以肅其眾。國朝累聖戒飭僧徒。嚴遵佛制。除刑名重罪。例屬有司外。若僧人自相干犯。當以清規律之。若鬪諍犯分。若污行縱逸。若侵漁常住。若私竊錢物。宜從家訓。母揚外醜。蓋悉稱釋氏。准俗同親。恪守祖規隨事懲戒。重則集眾箠擯。輕則罰錢罰香罰油。而榜示之。如關係錢物則責狀追陪。惟平惟允使自悔艾。古規繩頌云(盜財并鬪諍。酒色污僧倫。速遣離清眾。容留即敗群)又云(犯重焚衣鉢。應當集眾人。山藤聊示恥。驅擯出偏門)大惠禪師住育王時。榜示堂司。僧爭無明決非好僧。有理無理並皆出院。或議有理而亦擯。疑若未當。蓋僧當忍辱。若執有理而爭者。即是無明故。同擯之息諍於未萌也。

訓童行

凡旦望五參上堂罷。參頭行者令喝食行者報各局務。行堂前掛牌報眾。昏鐘鳴。行堂前鳴板三下。集眾行者。先佛殿。次祖堂。僧堂。前前堂寮(喝參)方上寢堂排立。參頭入方丈請住持出就坐。參頭進前。插香退身歸位。緩聲喝云(參)眾低聲同云(不審)齊禮三拜。屏息拱聽規誨畢。又三拜。參頭喝云(珍重)眾齊低聲和。問訊而退。如住持他緣則喝食行者喝云(奉方丈慈旨晚參)眾云(不審)次長聲喝云(放參)眾云(珍重)齊問訊退。

為行者普說

參頭預詣侍司插香禮拜。稟侍者。咨覆住持。如允所請。參頭即鳴行堂前板集眾。排立寢堂。參頭隨侍者。入請住持出據坐。參頭同眾問訊進前。插香退身歸位。緩聲喝云(不審)眾低聲和畢。同禮九拜。參頭進云。(某等久思和尚示許。伏望慈悲開示因緣)轉身問訊而退。次日行堂掛普說牌報眾。設座香几燭臺。參頭報眾請兩序立班。副參領眾門迎兩序入堂。參頭堂主詣侍司同請住持。下行堂。眾迎入據坐。侍者問訊側立。兩序問訊畢。侍者燒香請法。參頭領眾雁立插香喝參三拜。退分東西序後雁立。拱聽開示畢。參頭領眾如前排立三拜。即出門外右立。揖送住持兩序。然後隨至寢堂。插大香一

片 。九拜而退。次詣侍司。插香三拜。參頭副參同住兩序前。一一拜謝。

受法衣

專使送法衣至。先相看知客通意。同上侍司煩通覆方丈。或即相接或在來早。侍者預令。客頭報請兩序至。專使插香如常禮相看。謝茶畢。再插香兩展三禮。免則觸禮。詞云(某人和尚法衣表信專此奉上)以柈袱托呈法衣信物。然後入座。兩序光伴。茶罷獻湯。湯罷兩序同送安下。侍者引巡寮。別日上堂法座左邊設住持位專使大展三拜。捧衣遞上。住持接衣有法語。披衣陞座或嗣法師已遷化。法堂右間設靈几。下座致祭諷經。如遺書至之禮。見後。

迎侍尊宿

尊宿相訪。須預掛接尊宿牌。鳴鐘集眾門迎。彼若尚簡則潛入寺。住持必於寢堂具香燭相接。仍令鳴僧堂鐘。客頭報首座。領眾插香問訊畢眾退。兩序勤舊就陪坐。燒香喫茶罷。侍者方插香禮拜。帶行侍者行者人僕轎從參拜。方丈執局及參頭領眾行者人僕轎番。以次參拜。侍者復燒香點湯湯罷。兩序勤舊同送客位。客頭令備轎。住持同引巡寮報禮。侍者隨侍。若以下諸山則侍者引巡寮。請客侍者具狀。詣客位。插香拜請特為湯。稟云(方丈拜請和尚。今晚就寢堂。特為獻湯。伏望慈悲降重)稟訖呈狀(式見後)畢客頭覆云(請和尚湯罷就座藥石)寢堂釘掛帳幕。排照牌。設特為光伴位。鳴鼓行禮。揖坐揖香。勸湯湯罷。藥石並同常特為禮。客頭詣客位請云(方丈請和尚今晚湯果)仍請兩序光伴。侍者覆。來早上堂致謝。次早請湯。侍者燒香行者問訊。僕從聲喏。住持相陪喫粥。粥罷請茶。侍者再稟上堂。座右設位。半齋點心。如大尊宿則首座眾頭首稟住持。勸請為眾開示法要。住持先到客位陳意若允首座具狀。兩序大眾同詣客位。插香拜請。次請住持引座報眾掛牌。法座前左右排立。至時鳴鼓。住持同下法堂位前立。住持先引座。與常上堂同。下座兩序詣尊宿前問訊。尊宿往住持前問訊。歸中普問訊登座。侍者兩序出班問訊。住持問訊說法畢下座。住持前問訊。普與大眾問訊。住持兩序大眾隨詣客位。插香拜謝。請客侍者具狀。請特為管待。山門置食備賸。方丈備貼賸。行禮與常特為同。若諸山平交斟酌中禮可也。若法眷尊長至。先講諸山相見禮。送客位請居中座。住持插香禮拜。講法眷禮。方丈內坐當讓中位。迎送如前禮。獻湯躬行禮。客力辭。侍者行禮。若嗣法辦事法姪相訪。當躬至方丈。住持即今鳴僧堂鐘。

集眾人事。先請住持中坐。行弟子法眷禮。次講諸山禮。接送同前。但特為湯管待不具狀。請客侍者炷香陳請。又看年臘高低。臨時通變(請湯請管侍。請陞座。各有狀式。見後)。

當寺住持比丘某　右某輒以今晚就寢堂點湯特為。伏望　尊慈特垂　降重。謹狀

年　月　日具位狀

當寺住持比丘某　右某輒以來日就寢堂聊備水飯。伏望　尊慈特垂　降重。謹狀

年　月　日具位狀

當寺首座比丘某　右某輒以來日拜請　舉揚宗旨開示後學。伏望　尊慈俯垂　開允。謹狀

年　月　日具位狀

可漏子　狀請　某處堂頭和尚禪師　具位　謹封

施主請陞座齋僧

施主到門。知容接見引上方丈。獻茶湯。送安下處。若官貴大施主。當鳴鐘集眾門迎。送安下處定。施主却請知事商議。同上方丈。炷香拜請陞座。至日鋪設法座。座前設施主位。掛上堂牌。報眾鳴鼓集眾。知客同施主。上方丈請住持。須備手爐燈幡鐃鈸如儀。迎至座前登座趺座。施主座前設拜。知客揖引入位聽法(但受禮坐則慢法也)下座拜謝。若齋僧須與知事議定齋料用費。維那具僧行數目。賙資隨數均俵。僧堂內設施主位。與住持分手齋畢。知事陪施主。僧堂前少立。待首座領眾出堂致謝。次住持知事到客位謝。或有寄錢齋僧。住持責付知事。須當盡數營辦供賙。慎勿互用。當思因果歷然。

人天寶鑑云。湖南雲蓋山智禪師夜坐丈室。忽聞焦灼氣枷鎖聲。即而視之。迺有荷火枷者。火猶起滅不停。枷尾倚於門閫。智驚問曰。汝為誰苦至斯極耶。荷枷者對曰。前住當山守顒也。不合互將檀越供僧物造僧堂。故受此苦。智曰。作何方便可免。顒曰。望為估直僧堂填設僧供。可免爾。智以己貲如其言為償之。一夕夢顒謝曰。賴師力獲免地獄苦。生人天中。三生後復得為僧。今門閫燒痕猶存。然顒公以供僧物作僧堂。皆僧受用。尚受互用之報。若此今叢林撥無因果。非唯互用。甚至竊常住為己有者。宜何如哉。

受嗣法人煎點

若法嗣到寺煎點。令帶行知事。到庫司會計。營辦合用錢物送納。隔宿先到侍司咨稟通覆。詣方丈插香展拜。免則觸禮請云(來晨就雲堂聊具菲供。伏望慈悲特垂降重)令客頭請兩序單寮諸寮。掛煎點牌。至日僧堂住持位嚴設敷陳。及卓袱襯幣之具。火板鳴。大眾赴堂。煎點人隨住持入堂揖坐。轉身聖僧前燒香叉手。往住持前問訊。轉聖僧後出。住持引手揖煎點人坐。位居知客板頭。行者喝云(請大眾下鉢)行食遍。煎點人起燒香下蹶問訊住持。及行眾蹶。厨司方鳴齋板就行飯。飯訖眾收鉢。退住持卓。煎點人燒香往住持前問訊。從聖僧後出爐前問訊。鳴鐘行茶遍。往住持前勸茶。復從聖僧後出。進住持前。展坐具云(此日薄禮屑瀆特辱附重。下情不勝感激之至)二展寒溫觸禮三拜。送住持出。煎點人復歸堂燒香上下間問訊。以謝光伴。復中問訊鳴鐘收盞。次詣方丈謝降重。住持隨到客位致謝。若諸山煎點候齋辦。請住持同赴堂。揖住持坐。住持當免行禮。揖煎點人歸位。持行食遍。起燒香往住持前。問訊下蹶。俵眾人蹶。燒火伴香。歸位伴食。茶禮講否隨宜斟酌。

嗣法師遺書至

專使持書到寺(禮儀詳見下遺書篇)方丈開書。兩序先慰住持。法堂中間設祭。座前拈香有法語。舉哀三拜。上湯復三拜。進食下蹶鳴鼓。講特為禮。三拜上茶鳴鼓三下。退座收坐具。維那舉楞嚴呪回向(與嗣法師忌同)兩序四寮江湖鄉人法眷小師辦事。皆有祭。住持居靈几之左(如有諸山及座下西堂法眷與師為行輩者。上祭則住持同專使答拜。以下則不答拜)祭畢諷大悲呪。回向云(上來諷經功德。奉為某寺某號大和尚增崇品位。十方三世一切佛。云云)首座領眾。慰住持云(法門不幸。令師和尚遷化。後學失依不勝悲悼。尚冀堪忍力行此道)。◎

勅修百丈清規卷第二

勅修百丈清規卷第三

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

◎

請新住持

發專使

凡十方寺院住持虛席。必聞於所司。伺公命下。庫司會兩序勤舊茶。議發專使修書(頭首知事勤舊蒙堂前資僧眾)製疏(山門諸山江湖)茶湯榜(專使署名)請書記為之。如缺書記。擇能文字者。分為之。用絹素寫榜。所請專使或上首知事。或勤舊或西堂首座。或以次頭首充之。若非知事充專使。亦須以下知事一人同去掌財議事。具須知一冊。該寫本寺應有田產物業。及迎接儀從。一切畢備。山門管待專使一行人從。至起程日。詣諸寮相別。鳴僧堂鍾集眾門送。三門下釘掛帳設。向裏設位。講茶湯禮。請兩序勤舊光伴。如上首知事去。則下首知事行禮。如頭首勤舊去。則上首知事行禮。揖坐燒香揖香歸位。相伴喫茶。再起燒香揖香歸位。相伴喫湯收盞。專使起謝上轎。

當代住持受請

專使到彼寺。先見知客。同到庫司接送安下。次見頭首及諸寮。詣侍司詳稟來歷。侍者通覆住持。候可否。如允請。然後令鋪設卓袱安疏帖報兩序至。入請住持出。專使問訊(請趺坐)住持中立。專使插香大展三拜進前云(某蒙山門使令。攀屈尊嚴得奉慈顏。下情不勝感激之至)又三拜。詞云(即日時令謹時共惟。新命堂頭大和尚。尊候起居萬福)復三拜收坐具。住持各答一拜。詞云(叨膺請命有玷宗風。且厪遠來不勝多感)專使呈疏帖書問。住持接置几上。開書疏看過。侍者揖坐(專使於住持對面坐。西堂權趲下一位。以讓遠客)喫茶畢。同兩序送客位。堂司行者鳴僧堂鍾。大眾詣方丈作賀。庫司備香。首座知事各插香初展。詞云(法門多幸。伏審榮遷歡動叢林。下情不勝喜躍之至)再展云(即日時令謹時共惟。新命某處堂上大和尚尊候起居萬福)觸禮三拜。住持答一拜。詞云(自揆疎謬偶膺此選。過厪稱賀不勝多愧)眾散知客引專使巡寮畢。次第呈納本寺須知

儀從什物。當晚特為湯藥石。至夜湯果皆請兩序勤舊。光伴庫司排辦。

受請陞座

受請已。次日陞座。侍者分付行者。預於法座下右邊。排列疏帖設位。專使預稟維那請宣疏帖人。侍者覆住持鳴鼓。如常上堂式。住持出至位立。進香卓。專使燒香呈疏帖。每呈一疏。則專使燒香遞上。住持逐一拈各有法語。宣畢專使仍炷香兩展三拜。或觸禮或免在住持意退卓。住持登座提綱敘謝結座。

專使特為新命煎點

專使先與新命議定齋覿。輕重合宜。兩序勤舊鄉人法眷辦事貼覿。齋料等費專使親送納庫司置辦。至日專使詣方丈插香拜請。初展云(今辰午刻。就雲堂特為煎點。伏望慈悲降重。下情不勝單污之至)再展云(即日時令謹時共惟。新命堂頭大和當。尊候起居萬福)觸禮三拜。住持答一拜。兩序單寮係方丈客頭。同專使行者。一一詣寮。稟請掛煎點牌報眾。於僧堂內鋪設主席。西堂板頭排專使位。茶湯榜張于堂外兩側。至齋時。專使僧堂前伺候住持入堂。問訊歸位揖坐。歸中問訊。揖眾坐。聖僧前燒香。次上下間。次堂外燒香。仍歸堂內。住持前上下間及外堂問訊。仍歸中問訊行食遍。燒香下住持覿。次行大眾覿畢歸位伴齋。俟折水出鳴鼓。專使再起。燒香行禮同前。行茶遍瓶出如前。問訊收住持盞。專使行禮。初展云(某聊備蔬飯。伏蒙慈悲降重。下情不勝感激之至)二展敘寒溫。觸禮三拜。送住持出。再歸堂燒香大展三拜。巡堂一匝。并堂外復歸內堂中間問訊收盞。鳴鼓三下退座專使隨上方丈致謝。次詣庫司謝辦齋。再詣方丈。請住持至晚藥石。至夜湯果皆請兩序勤舊光伴。

山門管待新命并專使

庫司會議管待供覿如儀。上首知事隔日詣新命前。插香拜請。次詣客位稟請專使。令庫司客頭請兩序勤舊光伴。弊覿當如禮。不可輕蔑。詞語行禮並與特為禮同。寢堂中敷住持高座。專使附位于右。兩序如常列左右。勤舊對面位侍者知事下位。遠接僕從管待外。當支犒勞。所至住持多因還赴他山。僧行懷其宿憤。動致唇吻。傳之官員士庶。因一人無知而使一寺蒙其惡名。老成耆宿外護隣峯。當戒戢之。然為住持者。凡事留遺愛可也。

新命辭眾上堂茶湯

至起離日。專使詣諸寮別。新命上堂。致謝兩序勤舊大眾。下座鳴鼓三下。向法座立。普與大眾觸禮三拜。從西廊出。鳴大鍾諸法器。大眾門送。行僕門外排立。山門首預釘掛帳設。中敷高座向內。首座向外攝居主位。西堂勤舊分手光伴。東西序兩邊朝坐。上首知事行禮揖坐。揖香歸位點茶收盞。再起燒香揖香歸位點湯。湯罷起謝上轎。兩序勤舊備轎遠送。住持當力免之。鳴大鍾住持轎遠方止。

西堂頭首受請

專使到寺先見知客。同到侍司。引見方丈。插香展拜。相看茶罷送客位。次詣諸寮人事畢。稟侍者同詣方丈。咨稟云(某寺今請某人住持)住持報兩序勤舊。同往受請人寮中。敷陳疏帖書問。專使插香行禮與請當代同。如不允。眾為勸請。受請後住持請新命及兩序勤舊茶。送新命歸客位。次第受賀。巡寮人事晚請新命專使。特為湯藥石湯果兩序光伴。

受請人陞座(名德西堂前堂首座方舉行此)

專使當隔宿懷香詣方丈。觸禮三拜。詞云(拜請和尚來日為新命和尚引座)次日粥罷。法座右邊排列椅卓。卓上安疏帖。座左亦設住持椅子。鳴鼓集眾。住持出陞座。與五參禮同。令請客侍者請新命趺坐。褒美新命為法而出。勸請舉揚慰眾渴仰。舉話有無不拘(松源為掩室引座。笑庵為松源引座。皆不舉話。石橋為簡常引座。息庵為復庵引座。皆舉話)下座住持歸座。左向外而立。專使同知客侍者。往新命前問訊畢。新命出住持前問訊。次與兩序大眾問訊。若新命是嗣法弟子。住持付法衣有法語。披衣了進前。請住持趺坐。大展三拜。不收坐具。進詞云(早蒙陶鑄仰媿先宗。來請既勤難逃公命。下情無任惶懼之至)又三拜。進詞云(即日時令謹時共惟。堂上本師大和尚。尊候起居多福)又三拜收坐具進前問訊。住持答云(斯道所寄一綵九鼎。不忝當仁惟冀保任)却歸座右立。專使度疏帖各有法語。若非法嗣。即出座前與住持問訊。次與兩序大眾問訊。徑歸座右拈衣拈疏帖。有法語。專使先稟維那請宣疏帖人。宣畢指座有法語。登座垂語問答提綱敘謝結座下座。到住持前兩展三禮。初展詞云(叨膺請命有玷宗風。仰蒙玉成。下情不勝感激之至)住持答云(喜慶人天之請。榮增佛日之光。下情不勝欣抃之至)再展云(即日時令謹時共惟。堂頭和尚尊候起居多福)觸禮三拜。或講或免。隨住持意次與兩

序。大眾問訊知客侍者引。巡寮致謝。如嗣法者下座先至住持前。大展三拜。退與大眾問訊。然後巡謝同前。如以次頭首西堂。臨時又在住持斟酌講行。

專使特為受請人煎點

專使詣親命前。議定方丈引座覿資眾覿宣疏帖人。及兩序勤舊江湖鄉人法眷等貼覿。至日粥罷。專使懷香詣方丈觸禮拜請云(今晨午刻就雲堂備蔬飯。特為新命和尚。伏望慈悲俯垂降重)復詣新命前拜請。同前禮。方丈客頭同專使行者。請諸寮各掛煎點牌。於僧堂內住持對面設新命位。堂外知客板頭設專使位。其茶湯榜張于堂外兩傍。至齋時覆新命。到僧堂前。俟住持同入堂問訊。專使隨入堂先揖住持歸位。次揖新命歸位。燒香行禮並同前。下食行覿茶畢。先收新命盞。專使進前兩展三禮。送新命出後門。專使入住持前兩展三禮。送住持出前門。復歸堂炷香大展三拜。巡堂一匝。并外堂歸中問訊。收盞鳴鼓三下退座。當晚湯果藥石光伴同前。

山門管待受請人并專使

就寢堂敷設住持主位。新命對面中位左設專使位。兩序勤舊光伴左右位。下覿行禮同前。

受請人辭眾陞座茶湯

受請人令侍者同專使。預詣方丈稟借法座。上堂辭眾。座不敷設。左設住持位鳴鼓集眾。住持出歸位。受請人徑往住持前問訊。次與大眾和南陞座舉揚畢下座。先辭住持觸禮三拜。次向法座立。辭眾普同觸禮三拜。門首向裏中設特位講茶湯。兩序勤舊光伴。上首知事行禮與當代同。鳴大鍾送。以次西堂頭首。則無辭眾上堂。臨行先同專使上方丈。插香觸禮三拜稟辭。次巡寮辭別。山門首茶湯禮同前。

入院

古人腰包頂笠到山門首下笠。入門炷香。有法語。就僧堂前解包。屏處濯足取衣披搭。入堂炷香。聖僧前大展三拜。參隨人同拜。掛搭已到佛殿。拈香有法語。大展三拜。次土地堂祖堂炷香各有法語。入方丈據室有法語。次第開堂祝。

聖今時新命到來。當看安下處近遠。近則首座領眾往迎。遠則兩序勤舊而已。專使預當計稟住持。必先發批免眾遠迎。若安下處近當辦湯果。兩序勤舊光伴擇日入院。庫司一一排辦。隔宿掛接住持牌報眾。至時鳴大鍾諸法器。大眾門迎由遠至近。兩行排立。行僕立大眾外。新命到門炷香舉法語。至佛殿炷香舉法語。大展三拜鳴僧堂鍾。大眾先歸鉢位立定。新命入堂炷香。參隨人同展三拜。維那當面問訊引。巡堂一匝。參隨人先出。兩序送新命歸鉢位。觸禮三拜。次至土地堂祖堂炷香。各有法語。入方丈據室。侍者進前炷香問訊側立候舉法語畢。行者進卓筆硯知事具狀(式見後)備牒袱捧呈寺印。新命看封付知事開封。新命視篆。訖就狀上先僉押。次題日子。使印於上。知事收狀。衣鉢侍者收印退卓。住持起身。知事全班進列上首插香兩展三禮。初展詞云(慈蒙和尚光據法筵。下情不勝喜躍之至)再展詞云(即日時令謹時共惟。新命堂頭大和尚尊候起居多福)觸禮三拜。諸山及頭首勤舊進前插香(香不受)草賀畢。客頭行者喝云(請諸山兩班勤舊。就座獻湯)湯罷。請官客諸山點心。若前代住持別遷未赴。或退居東堂。未據室前講交代禮。新命受草賀了。鳴僧堂鐘領眾。躬送前代。歸寮對觸禮一拜。次首座大眾作賀。行僕皆當參拜。

呈寺　當寺庫司比丘某甲寺印一顆
印狀　右謹申納　新命堂頭大和當伏候慈旨　年月日具位狀

山門請新命齋

上首知事候據室後人事稍畢備牒袱爐燭具狀(式見後)懷香詣方丈請齋兩。展三禮。初展云(午刻就雲堂備蔬飯祇迎。伏望尊慈特垂降重。下情不勝戰汗之至)再展敘寒溫。觸禮三拜。住持答一拜。知事呈狀。方丈客頭收。庫司客頭鋪設僧堂內住持位。行禮與特為管待同。

當寺庫司比丘　某甲　右某甲取午刻就
齋　雲堂備蔬飯祇　迎伏望　尊慈特垂降重
年　月　日具位　某甲狀
狀　可漏子狀請　新命云云尊座前　具位　謹
封

開堂祝壽

古之開堂朝命下。或差官敦請。或部使者。或郡縣遣幣禮請就某寺。或本寺官給錢料設齋開堂。各官自有請疏及茶湯等榜。見諸名公文集。近來開堂多是各寺自備。至時入院侍者分付行者。鋪設法座。報眾掛上堂牌。具寫官員諸山名目。預呈住持於座左設位。鋪

卓袱爐燭。排列疏帖。預先和會維那宣公文。首座宣山門疏。以次頭首。或諸山江湖名勝宣其餘疏。及預請諸山一人白椎。座前對面排官員位。侍者覆方丈鳴鼓眾集。侍者同專使。入請住持。出鐃鈸幡花挑燈迎引。至法堂位前立。如受請時未拈衣。當舉法語。披衣畢。專使進前插香行禮。初展云(即日伏蒙和尚先據法筵。下情不勝感激之至)再展敘寒溫畢。觸禮三拜。住持答一拜。先呈公文舉法語畢。接付維那宣白。次山門諸山江湖疏。一一遞上有法語分送宣讀。若見任官請開堂有疏。親自捧遞有法語宣畢。指法座有法語。登座拈香祝聖。次拈帝師省院臺憲郡縣文武官僚香。侍者逐一度香。惟法嗣香住持懷中拈出。自插爐中。斂衣趺坐。侍者燒香下座問訊。兩序出班問訊畢。侍者再登座燒香問訊。禮與旦望上堂同。諸山住持送入院者亦出問訊。住持當令侍者請官員坐。諸山上首出白椎鳴。椎一下云(法筵龍象眾。當觀第一義)住持垂語問答提綱。敘謝官員諸山云(此日開堂。端為祝聖。不敢多詞敘陳)專使兩序勤舊略提過。詳在小參時敘陳。結座白椎人復鳴椎一下白云(諦觀法王法。法王法如是)下座先受官員作賀畢。知事接送客位。客頭行者即進爐燭。一字排列座前。專使插香兩展三禮畢。堂司行者喝云(諸山人事)次喝云(西堂人事)展禮喝云(知事人事)兩展三禮。又喝云(首座大眾人事)勤舊蒙堂前資諸寮齊插香。同大眾兩展三禮畢。莊庫菴塔法眷鄉人。暫到展賀畢據座。侍者小師插香大展三拜。次執局行者插香禮拜。次參頭領眾行者。插香禮拜。次直廳轎番莊甲作頭老郎人僕參拜畢。住持即往客位。致謝官員諸山。次第巡寮。諸寮當陳香几爐燭坐位。各具威儀。於寮外伺住持至。寮主先於門前下首立。迎入請趺坐插香。住持答香。略敘寒溫致謝送出。蒙堂前資眾寮皆列門外下首。同迎同送。

山門特為新命茶湯

茶湯榜預張僧堂前上下間。庫司仍具請狀(式見後)備牀袱爐燭。詣方丈插香拜請。免則觸禮稟云(齋退就雲堂點茶特為。伏望慈悲降重)稟訖呈狀。隨令客頭請兩序勤舊大眾。光伴掛點(茶湯)牌報眾。僧堂內鋪設住持位(近時有齋時。聞長板鳴。知事入堂炷香展拜。巡堂一匝請茶。然特為住持陳賀。古規亦無巡堂請大眾之禮。免之為當)齋退鳴鼓集眾。知事揖住持入堂。歸位揖坐燒香一炷。住持前揖香。從聖僧後轉歸中問訊立。行茶遍瓶出。往住持前揖茶退身。聖僧後右出炷香展三拜。起引全班。至住持前兩展三禮送出。復歸堂燒香。上下間問訊收盞退座。湯與茶禮同。但無送住持出堂。湯罷就座藥石。

當寺庫司比丘　某　右某啟。取今晨齋退狀　晚刻就雲堂點茶湯用伸陳　賀之儀。伏望

尊慈特垂　降重
式　　年　月　日具　位狀
可漏子同齋狀式

當晚小參

齋罷侍者覆住持云(今晚小參)令客頭報眾掛小參牌。具寫專使兩序。勤舊蒙堂。前資諸寮。莊庫菴塔。暫到入院侍者。禪客參隨。或有相送官客諸山留宿者。逐一條列預用呈稟。昏鍾鳴侍者覆方丈鳴板後鳴鼓一通。眾集兩序歸位立定。住持出登座。垂語問答提綱畢敘謝。行者秉燭侍者呈目子。庶得詳盡。下座客頭行者喝云(方丈和當請諸山和尚兩班西堂勤舊蒙堂侍者禪客。即今就請堂獻湯)知事送官客。歸客位湯果。

為建寺檀越陞座

知事須隔宿覆住持。次早侍者令客頭掛上堂牌報眾。庫司差人嚴設祠堂。供養粥罷。特為上堂陳白事意畢。說法下座。集眾詣祠堂。炷香點茶湯上供。維那舉經回向。

管待專使

知事預稟住持。議專使宣疏帖人覿資輕重。方丈備貼賵。須令合節。至日寢堂釘掛鋪設位次。請兩序勤舊光伴。設特為位。請客侍者躬請。其餘人則方丈客頭稟請。禮與常特為同。

留請兩序

兩序伺管待專使畢。約詣方丈咨稟告退住持未可遽從。侍者令客頭行者備湯具柈袱爐燭。住持帶侍者詣庫司諸寮。勉留客額先報迎住持。入分手坐。侍者燒香點湯。盡禮勸留。若職過滿亦須寬耐。候住持稍暇。再稟辭退。

報謝出入

凡官員檀越諸山相送入院者。禮應報謝。郡縣官府亦合參見。如居山林遠出。令行者傳語庫司首座維那知會。出久則知事探伺歸期。令堂司掛接呼尚牌報眾。鳴鍾門迎。住持先令傳語免之。即往佛殿

土地堂燒香。首座領眾至方丈問訊。眾退留兩序勤舊。獻湯而散。侍者方丈執局行者插香禮拜。次參頭領眾行者禮拜畢。住持須巡寮報禮。若在城附郭朝莫出入無時。不必講行。或蜜回方丈。兩序勤舊皆當詣方丈問起居。無準和尚住徑山日。化緣多出入。每闕齋粥時。徑歸僧堂。伴眾食畢。方丈客頭候聖僧侍者鳴下堂椎。大眾將下地。喝云(大眾少立方丈和尚巡堂)住持燒香巡堂一匝出堂。又喝云(和尚傳語大眾不煩訪及)兩序勤舊亦當詣方丈問訊。

交割砧基什物

入院後須會兩序勤舊茶。詳細詢問山門事務砧基契書什物。逐一點對交割。計算財穀。簿書分明關防作弊。務在詳審。

受兩序勤舊煎點

至日首座知事勤舊詣方丈。插香拜請住持。次請侍者小師。鋪設住持寢堂中位。兩序勤舊位如常坐。侍者帶行小師問訊住持畢。兩序勤舊末坐。至時首座請住持出。揖坐行禮若免。只燒香進前問訊下覰。首座知事勤舊為首。三人問訊歸位坐。食畢首座起身燒香。如免禮則就坐喫茶。諸山道舊及辦事法眷小師等。請寢堂煎點禮同。但煎點人設位高下。臨時斟酌。

退院

住持如年老有疾。或心力疲倦。或緣不順自宜知退常住錢物。須要簿書分明。方丈什物點對交割具單目一樣兩本。住持兩序勤舊僉押。用寺記印。住持庫司各收一本為照。公請一人看守方丈。至退日上堂敘謝辭眾下座。撾鼓三下而退。若留本寺居東堂。相斷住持者。須當盡禮溫存。宋理宗以靈隱寺菜園。為閻妃建寺。住山癡絕冲公即日退院。躬荷包笠往遊廬山。遣使留之不回。高風千古孰能繼之。

遷化

示疾覺沈重。預請兩序勤舊點對。封收衣鉢行李。就留方丈。差公謹行僕看守。以俟估唱。或有標撥俵散物件。須要平允。毋令恩怨不均致後爭競。若衣鉢微薄。務從儉簡。遺戒小師不得披麻慟哭。請首座主喪。一切佛事並免。但舉無常偈云亡僧津送。毋費常住。

毋勞大眾。若住持有功山門。寺眾念其遺愛。或衣鉢稍豐。當如儀講行喪禮。有官員檀越諸山法眷遺書。即當遣送。

某寺住持某。世緣報謝風燭不停。所有隨

遺　身衣鉢檀信施利。非常住物。煩兩序抄箚。

端請某人主行喪事。餘俵眾僧看經每喪。

囑　毋致繁多侵用常住。幸察此。

意。伏希　悉及　年　月　日住山某押

遺書之式

尊宿　　旱忝　遊從。柰合離之有數。繼承推挽遂黽勉於微緣。電露我空　雲山益渺。

敢祈　保護以　壽斯文拜禱不歸。

鄰封　　住山無補。每依　鄰璧之光。夢境元空。幸謝世緣之幻。莫諧　面別惟切心馳。

冀　佛日以流輝。俾宗風而益振。伏惟。

珍重。

法眷　　叨濫住山。有媿　同門之有。因循抱疾。將為畢世之人。敬奉手書聊伸　面別。

光昭

先師之令德。道在　吾屬之力行。無任

傾勤。伏惟　珍重。

可漏子　書拜

某人稱呼某寺比丘某謹封

入龕

初示寂。侍者即令客頭行者下僧堂報眾。鳴椎一下。白云(堂頭和尚傳語大眾。風火相逼不及面達)又鳴椎一下。次報諸寮。堂司行者鳴僧堂鍾集眾。上方丈吊慰罷。首座同兩序勤舊商議。發訃狀(式見後)報諸山發書請人主喪。須諸山名德隣封老成。或法眷尊長。或只本寺首座。如有遺命遵行舉請。小師侍者親隨人安排洗浴。著衣淨髮入龕。遺偈貼龕左。維那領小師炷香請首座入龕佛事。安排寢堂。置龕爐燭几筵供養。至時鳴僧堂鐘集眾。舉佛事已。維那出。念誦云(切以。冥權妙密。示化迹於人天。至性圓明。契玄機於佛祖。恭惟。堂頭和尚皦然智月。光收萬頃之波。允矣悲心。式副十方之感。瞻顏無地披志有歸。是集真徒讚揚聖號。為如上緣。念清淨法身毘盧遮那佛。云云)舉大悲呪。回向云(上來念誦諷經功德。奉為堂頭和尚無生報地妙極莊嚴。十方三世云云)再舉楞嚴呪。回向云(諷經功德。奉為堂頭和尚增崇品位。十方三世云云)當夜集眾。念誦云(白大眾。堂頭和尚已歸真寂。眾失所依。但念無常慎勿放逸。為如上緣。念清淨法

身毘盧遮那。云云)回向同前。二時上粥飯。三時上茶湯。大眾諷經見職維那回向同前。近時風俗薄惡。僧輩求充莊庫執事不得。或盜竊常住。住持依公擯罰。惡徒不責己過。惟懷憤恨。一聞遷化。若快其志。惡言罵詈甚至。椎擊棺龕槍奪衣物逞其凶橫。主喪耆宿諸山檀越官貴士庶參學交遊。當為外護。人誰無死。況是座下參徒犯者必擯逐懲治。主喪執事若能預甲戒飾。早令悛格化惡於未萌。尤全外觀之美。

某寺喪司比丘　某　右某山門不幸　堂頭
狀　和尚今月某日遽爾歸真謹以計聞謹狀
年　月　日某寺喪司比丘　某狀
可漏子
式　訃告
某處堂頭和尚禪師　具位　謹封

請主喪

主喪人至鳴大鍾。集眾門迎。至龕前炷香首座大眾問訊。眾散兩序勤舊送客位。插香展禮。主喪人居主位。首座分手座定躬起燒香。復位獻茶。小師即列前插香。大展三拜。方丈執局及參頭領眾行者。相次插香禮拜。後方丈僕從參拜罷獻湯。送兩序出。庫司備點心。兩序光伴次第巡寮。凡主喪者須老成名德。如圓悟為開福寧和尚主喪。接月菴果公以嗣其法。可為標格。

請喪司職事

主喪人巡寮罷。兩序勤舊小師隨到客位。呈衣鉢簿遺墨等物。會茶議請喪司職事(書記維那知客侍真侍者)并一切佛事(資次見後)以次議請。除舉哀小參二佛事。係主喪人為之。分孝服(輕重見後)如無布絹。隨宜折錢俵之。主喪人須與首座計會所遺衣鉢多少。默作三分。一分准喪司孝服諷經燈燭之費。一分歸常住。陪貼供養。一分俵大眾。看經并佛事板帳等用。主喪人須存公正。不可徇私。帶行僧行不得干預執役。每日諷經俵糊奠茶湯。不拘兩序勤舊。各請一人掌財。庶絕浮議。聖僧侍者把帳喪司公。差庫子客頭茶頭一行人。管辦事。請見職維那同議。見職知客接外客。喪司合千人僕。排單揭示。

孝服

侍者小師(麻布裰)兩序(苧布裰)主喪及法眷尊長(生布裰)勤舊辦事鄉人法眷諸山(生絹腰帛)檀越(生絹巾腰帛)方丈行者(麻布巾裰)眾行者(苧布巾)方丈人僕作頭(麻布巾衫)甲幹莊客諸僕(麻布巾)。

佛事

入龕　移龕　鎖龕　法堂掛真　舉哀　奠茶湯　對靈小參　奠茶湯　起龕　山門首真亭掛真　奠茶湯　起龕　提衣　起骨入塔　入祖堂　全身入塔　撒土(如衣鉢豐厚。每日奠茶湯。添轉龕轉骨等佛事)。

移龕

入龕三日揜龕。鋪設法堂上間。掛幃幕設床座椸架。動用器具陳列。如事生之禮。中間法座上掛真。安位牌。廣列祭筵。用生絹幃幕。以備上祭。下間置龕。用麻布幃幕。前列几案爐瓶素花。香燭不絕。二時上茶湯粥飯。供養諷經仍備桃燈鐃鈸花幡。鳴僧堂鍾。集眾請移龕佛事。罷移龕。下法堂請鎖龕佛事。

掛真舉哀奠茶湯

移龕就法堂鎖龕已。請掛真佛事畢。如有親書遺言。侍者捧呈主喪人及首座大眾云(堂頭和尚臨終遺言。呈似首座大眾)主喪人躬接遞與首座。以所書香爐上熏。授維那讀過。喪司行者貼法堂中間上手幕上。主喪白云(堂頭和尚歸寂理合舉哀)舉佛事罷。舉哀三聲。大眾同哭。小師列幕下哀泣。舉奠茶湯佛事。小師列真前禮拜歸幕下。主喪炷香禮真。兩序勤舊大眾以次炷香禮真。小師真左答拜。主喪人幕下吊慰。小師隨禮主喪人三拜。次慰兩序大眾云(法門不幸堂頭和當遽戢化權。敢冀大眾力為維持後事)首座答云(尚賴和尚力賜主張)兩序大眾慰小師云(山門不幸和尚歸真。旦望節哀以終大事)小師夜守龕幃。喪司列排祭次(見後)貼法堂下間幕上。凡祭文皆喪司書記為之。每日或兩次三次。上祭無拘。蓋檀越諸山來有先後隨時。若法眷門人上祭到門。知客接已即報喪司。隨送孝服。然後上祭所有賻儀用餘。當歸常住。補犒諸山人從支費。喪司集兩序勤舊。將抄劄衣鉢議。從遺囑留送外。估定新舊短長價直高下。庶免唱衣臨時紛紜。

對靈小參奠茶湯念誦致祭

喪司維那同小師懷香詣客位請主喪人。大夜對靈。小參預設座。候昏鍾　鳴鼓集眾。兩序座下問訊(如常式)主喪人用帶行侍者燒香。無則聖僧侍者代之。小參下座。小師羅拜致謝。首座領眾。龕前上香立定。請奠茶湯佛事畢山門維那念誦云(白大眾。堂頭和尚入般涅槃。是日已過命亦隨減。如少水魚斯有何樂。眾等當勤精進如救頭然。但念無常慎勿放逸。恭裏大眾肅詣龕幃。誦持萬德洪名。奉為增崇品位。仰憑大眾念清淨法身毘盧遮那佛。云云)舉大悲呪畢。回向云(上來念誦諷經功德。奉為新示寂堂頭和尚。伏願不忘願力再現曇花。棹慈航於生死逝波。接群迷於菩提彼岸。再勞大眾。念十方三世一切諸佛。云云)畢山門知客舉楞嚴呪(上來諷經功德。奉為新示寂堂頭和尚大夜之次增崇品位。十方三世一切云云)次第一一上祭末舉大悲呪(回向同前)行僕參拜諷經畢。喪司行者喝云(請首坐大眾就座湯果)眾散。小師方丈行僕終夜守靈。

祭次

知事　頭首　主喪　西堂　勤舊　蒙堂　江湖　前資　老宿　眾寮　辦事　舊侍者　鄉人　法眷　諸菴塔　小師　師孫　方丈　行者　六局行者　行堂　方丈人僕　轎番　老郎　莊甲　火客　修造局　諸色作頭。

出喪掛真奠茶湯

庫司喪司相關。提調喪儀香亭。真亭幢幡唄樂。龕前傘椅。湯爐挑燈。竹篦主丈拂子。香盒法衣等物。小師隨龕後。鳴大鍾諸法器送喪。起龕念誦云(金棺自舉。遶拘尸之大城。幢旆搖空。赴茶毘之盛禮。仰憑大眾。稱念洪名。用表攀違。上資覺路。念清淨法身毘盧遮那佛云云。若全身入塔。則云卦難提之盛禮)喪司維那進燒香。引小師拜請。起龕佛事。龕至山門首。請奠亭掛真奠茶湯。俱有佛事。兩序大眾門列俟龕出已。山門維那向內合掌中立。舉往生呪。或四聖號。大眾齊念。主喪領眾。兩兩分出。左右俵散雪柳。齊步並行。毋得挨肩交語。各懷悲感。都寺押喪喪司維那知客聖僧侍者俵行喪矚。

茶毘

喪至涅槃臺。喪司維那俟都寺上香茶了。進前燒香。引小師拜請秉炬佛事。山門維那念誦云(是日則有新示寂。堂頭和尚化緣既畢遽返真常。靈棺遍遶於拘尸。性火自焚於此日。仰憑大眾。資助覺靈。南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。十念眾和畢。上來稱揚聖號恭贊化儀。體格先宗。峻機不容於佛祖。

用開後學。悲心仍攝於人天。收幻化之百骸。入火光之三昧。茶傾三奠。香爇一爐。頂戴奉行和南聖眾)舉大悲呪。回向云(上來念誦諷經功德。奉為堂頭和尚茶毘之增崇品位。十方三世一切云云)山門知客舉楞嚴呪。回向同前。次鄉人舉經。大眾同諷畢。首座領眾。歸寺赴齋。小師鄉人法眷守化收骨。齋罷鳴僧堂鍾集眾。仍備儀從。迎骨回寢堂安奉。請安骨佛事。掛真供養諷經。二時上粥飯。三時上茶湯。或十日半月。大眾諷經靈骨入塔則止。

全身入塔

龕至塔所。都寺上香茶畢。喪司維那進燒香。引小師拜請入塔佛事畢。山門維那念誦云(切以。雙趺示相。紹靈鷲之遺規。隻履顯宗。表少林之垂範。全機隱顯盛法始終。仰憑大眾資助覺靈。南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。十念畢。上來稱揚十念資助往生。惟願。慧鏡無邊慈雲廣布。四生界內。示不生不滅之因。六趣道中。說無我無人之法。茶傾三奠。香爇一爐。頂戴奉行和南聖眾)其舉經諷誦次第。並與涅槃臺同。但回向則云(入塔之次)候掩壙一切畢備。然後請撒土佛事。迎真回寢堂供養。主喪炷香禮真。次諸山兩序大眾小師禮真畢。小師插香大展三拜。謝主喪。次兩序大眾謝主喪詞云(山門不幸先堂頭和尚示寂。極荷主盟後事)主喪答云(仰荷匡扶得無曠敗)主喪同喪司一行人。巡寮致謝。次小師巡寮拜謝。山門維那送見職侍者侍真侍者。歸眾寮。每日三時上茶湯集眾諷經。俟迎牌位入祖堂則止。或待新住持至。方入祖堂有佛事。

唱衣

至期僧堂前。或法堂上下間設大眾坐位。中間向裏裏安長卓。置筆硯大磬其上。鳴僧堂鍾集眾。首座與主喪分手。兩序大眾次第而坐。喪司維那知客聖僧侍者向主喪位坐。維那念誦云(留衣表信。乃列祖之垂規。以法破慳。稟先達之遺範。今茲估唱用表無常。仰憑大眾念。清淨法身毘盧遮那佛。云云)畢開籠出衣鉢。依號排席上。請提衣佛事畢。維那鳴磬一下。白云(扶唱衣之法蓋稟常規。新舊短長自宜照顧。磬聲斷後不得翻悔。謹白)若法衣多添留遺囑。次第呈衣。維那拈唱喪司合干人貴在公心主行。維那定價打磬。行者瞻顧前後。唱定名字。知客寫名上單。侍者依名發標。唱衣畢。結定鈔數主喪僉單。交鈔取衣不得徇私減價。主喪力主其事。今多作鬮拈甚息喧爭。其法用小片紙。以千字文次第書字號。每一號作三段。寫於上仍用印記關防。量眾多少。與喪司合干人封定。至期呈過主喪。兩序首座開封知客分俵堂司行者捧盤隨侍者。侍者剪取其半。置盤內畢。以盤置首座側。安

水盆於下抖勺。維那拈衣唱價訖。首座臨時呼一童行。信手拈盤中半鬮。遞與首座。開看字號分曉。說與堂司行者。喝某字號。眾人各開所執半鬮。字號同者即應。如不願唱此號衣物則不應。三唱不應。首座以半鬮投水盆中。再令撮起半鬮。復唱起。應者堂司行者往收半號。到首座處對同。報與維那稱云。某物唱與某人。鳴磬一下。知客上單。侍者發標。供頭行者遞與唱得人。衣物仍舊入籠次第唱畢。維那鳴磬一下。回向云(上來唱衣念誦功德。奉為示寂堂頭和尚增崇品位。十方三世云云)眾散各自照價持標取衣。三日後不取者依價出賣。造單帳。唱衣古法(見大眾章)。

單式　尚頭和尚示寂謹具衣物。估唱鈔數。收支于後。

　一收鈔若干(係某件唱到)

　一收鈔若干(係某項收到)

　一支鈔若干(係某項用度)

　一支鈔若干(係某項支使　逐一列寫)

已上共收鈔若干

　共支鈔若干

除支外見管鈔若干(准齋七追修僧行經資用)

　右具如前

　年　月　日喪司行者　某　　具

　呈　把帳執事人兩序典喪各書名僉押

靈骨入塔

至期隔宿准備儀從。正日鳴鍾眾集。都寺上香畢。請起骨佛事。送至塔所。請入塔佛事。其舉經諷誦回向並與全身入塔語同。迎真歸寢堂供養及謝主喪人等禮並同。

下遺書

喪事畢。主喪請侍者辦事人。充專使。分路馳送諸山法眷檀越官員遺書。唯尊宿相見下語。須擇能事人充專使。至彼寺首到客司相見。知客引見侍司。預備袢袱盛書物。侍者詣方丈通覆。住持當即相接令請兩序同開書專使進前問訊云(請和尚趺坐)若住持垂語。須下語插香展禮。住持免則觸禮如常相看。燒香喫茶罷。待兩序至。專使起爐前謝茶。再插大香一片。展禮稟云(某處和尚某月某日歸寂。遺書遺物令某馳送)即呈書物住持云(法門衰落不勝哀感)兩序進問訊。首座分手就坐。專使住持對面退一位坐。茶罷起身。住持白云(法門不幸某處和尚歸寂不勝哀感)侍者備書剪托書物。侍者度書與住持。接就爐上熏

付侍者。送與維那。行者度剪開緘宣讀已。侍者揖專使上住持對面位坐(西堂權趲向下位坐讓客)侍者燒香點湯送專使歸安下處。先住持問訊。次侍者兩序問訊。知客引巡寮。先庫司次頭首寮蒙堂四寮侍者稟請特為湯湯。罷藥石。至晚湯果大方遺書至。兩序光伴以次。兩序上首維那侍者光伴。請書記作祭文。方丈祭文或住持自作江湖法眷辦事皆當備香致祭。侍者一一提點。次早方丈請茶。法堂下間設靈几排祭。侍者覆上堂。行者報眾掛上堂牌。座下備卓袱盛書物。座左排住持位。鳴鼓眾集。住持出法座下位前立。鼓絕進香卓。知客引專使。住持前行禮插香。初展云(輒持遺墨仰萬尊慈下情不勝惶恐之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)觸禮三拜呈遺書。住持接書爐上熏付侍者。遞維那宣讀。專使問訊住持畢。歸知客班後立。住持陞座下座詣靈几前。住香點湯上祭點茶展拜。專使座右還拜。維那出班揖住持。燒香侍者捧香盒。兩序上香畢。住持兩序展拜維那宣祭文。住持復展拜專使答拜。舉楞嚴呪。回向云(上來謹經功德。奉為某處和尚僧崇品位。十方三世云云)兩序四寮江湖辦事鄉人皆致祭。專使答拜。以下法眷小師辦事專使不答拜畢。舉大悲呪回向。專使出靈前兩展三禮謝住持。免則觸禮次巡寮致謝。然後山門管待專使。請兩序光伴。若前住持本寺。一併入祖堂。諷經了。就便迎牌。到祖堂住持拈香安牌有法語安已。專使即拜謝住持。若當代入祖堂。寢堂安骨諷經三日。待新住持入祖堂。或無遺書遺物與當代住持。其徒自為入祖堂者。初到寺見侍者。引見住持。插香展拜相看燒香喫茶起身稟意畢。送安下處。次到頭首庫司單寮蒙堂諸處。相看擬日。辦供俵賜。法堂致祭。諷經牌入祖堂住持有法語禮與前同。

管待主喪。及喪司執事人

山門當備供賜高下一一如儀。仍請兩序勤舊。光伴首座攝居主席。就方丈坐。排照牌。都寺行禮與常特為同。茶畢鳴鍾集眾。門送主喪人。

議舉住持

兩序勤舊就庫司會茶。議請補處住持。仍請江湖名勝。大眾公同選舉。須擇宗眼明白德劭年高。行止廉潔堪服眾望者。又當合諸山輿論。然後列名僉狀。保申所司請之。若住持得人。法道尊重寺門有光。為勤舊知事者。不可以鄉人法眷阿黨傳會。不擇才德。惟從賄

賂致有樹黨徇私。互相攙奪寺院廢蕩。職此之由。切宜慎之。切宜慎之。

明教大師曰。教謂住持者。何謂也。住持也者。謂藉人持其法。使之永住而不泯也。夫戒定慧者。持法之具也。僧園物務者。持法之資也。法也者。大聖之道也。資與具待其人而後舉善其具。不善其資不可也。善其資而不善其具不可也。皆善則可以持而住之也。昔靈山住持大迦葉統之。竹林住持以身子尸之。故聖人之教盛。聖人之法長存。聖人既隱其世數相失。茫然久乎。吾人儌倖乃以住持名之。勢之利之。天下相習沓焉紛然。幾乎成風成俗也。聖人不復出。其孰為之正。外衛者不視不擇。欲吾聖人之風不衰。聖人之法益昌 。不可得也。悲夫。吾何望也。

住持章終

勅修百丈清規卷第三終

勅修百丈清規卷第四

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

兩序章第六

兩序之設為眾辦事。而因以提綱唱道。黼黻宗猷。至若司帑庾歷庶務。世出世法無不閑習。然後據位稱師臨眾馭物。則全體備用所謂成己而成人者也。古猶東西易位而交職之。不以班資崇卑為謙。今岐而二之非也。甚而黨鬬。強弱異勢至不相容者有矣。惟主者申祖訓以戒之。欲其無爭。必慎擇所任。使各當其職人無間言可也。

西序頭首

前堂首座

表率叢林人天眼目。分座說法開鑿後昆。坐禪領眾謹守條章。齋粥精粗勉諭執事。僧行失儀依規示罰。老病亡歿垂恤送終。凡眾之事皆得舉行。如衣有領如網有綱也。雖大方尊宿。若住持能以禮致之。亦請充此職。謂之退位為人。如文殊為七佛師。猶助釋迦揚化為眾上首。吾宗睦州於黃檗。雲門於靈樹。光昭前烈詒訓後來。名位之重可輕任耶。

祖庭事苑云。首座即古之上座。梵語悉替那。此云上座。一耆年。二貴族。三先受戒。及證道果　今禪門所謂首座者。必擇其己事已辦眾所服從德業兼修者。充之。

後堂首座

位居後板輔贊宗風。軌則莊端為眾模範。蓋以眾多故分前後。齋粥二時過堂及坐禪。則後門出入。如缺前堂。住持別日上堂白眾請轉前板。插單唱食。其坐禪坐參。只眾寮前第三下板即入堂。不必鳴首座寮前板。餘行事悉與前堂同。

書記

即古規之書狀也。職掌文翰。凡山門榜疏書問祈禱詞語悉屬之。蓋古之名宿多奉朝廷徵召。及名山大剎凡奉。
聖旨勅黃。住持者即具謝表。示寂有遺表。或所賜所問俱奉表進。而住持專柄大法無事文字。取元戎幕府署記室參軍之名。於禪林特請書紀以職之。猶存書狀。列於侍者使司方文私下書問。曰內記云。而名之著者。自黃龍南公始。又東山演祖以是職命佛眼遠公。欲以名激之使兼通外典助其法海波瀾。而先大慧亦嘗充之。凡居斯職者。宜以三大老為則可也。

知藏

職掌經藏兼通義學。凡看經者初入經堂。先白堂主同到藏司相看。送歸按位對觸禮一拜。此古規也。今各僧看經多就眾寮。而藏殿無設几案者。然充其名當盡其職。函帙目錄常加點對缺者補完。蒸潤者焙拭。殘斷者粘綴。若大眾披閱則藏主置簿。照堂司所排經單列名。逐函交付。看畢照簿交收入藏。庶無散失。推原吾宗既曰教外別傳。猶命僧專司其藏者何也。以佛之所言所行為教律。而僧有不遵佛之言行乎。特吾之所證所得不溺於文字。而超乎言行之表。以見夫自性之妙焉。又祖之意。欲吾徒遍探諸部與外之百氏。期以折衝外侮應變無窮。所謂不即不離者是也。後以眾多列東西藏。

知客

職典賓客。凡官員檀越尊宿諸方名德之士相過者。香茶迎待隨令行者通報方丈。然後引上。相見仍照管安下去處。如以次人客。只就客司相款。或欲詣方丈庫司諸寮相訪。令行者引往。其旦過寮床帳什物燈油柴炭。常令齊整。新到須加溫存。維那在假。則攝其行事。僧堂前檢點行益客僧粥飯。遇亡僧同侍者把帳。暫到死主其喪。雪竇在大陽。禪月在石霜。皆典此職毋忽。

知浴

凡遇開浴。齋前掛開浴牌。寒月五日一浴。暑天每日淋汗。鋪設浴室。掛手巾 。出面盆拖鞋脚布。參頭差行者直浴。齋罷浴頭覆維那首座住持畢。鳴鼓三下。浴聖桶內皆著少湯。燒香禮拜想請聖浴。次第巡廊鳴板三下。遍鳴鼓第一通僧眾入浴。第二通末頭首入浴。第三通行者入浴。此時住持方入。以屏風遮隔而浴。第四通人力入浴。監作行者知事居末浴。就彈壓之。併點視。令息竈中火及炭

煤。水洒乾淨有餘柴搬於遠處。其入浴資次當刊揭浴室外(今時謂住持殿頭首後浴。知事殿行者後浴。非也。如住持有故欲同頭首先浴。則不用設屏障。不入小閣內。只頭首板頭解衣)室內掛小板旁釘小牌。書云(鳴板一聲添湯。二聲添水。三聲則止。以此為節)如施主設浴。則課經回向能妙觸宣明。成佛子住則功不浪施矣。

知殿

掌諸殿堂香燈時時拂拭塵埃。嚴潔几案。或遇風起。須息爐內香火。及結起幡脚防顧使勿近燈燭。施主香錢不得互用。佛誕日浴佛煎湯供大眾。四齋日開殿門。以便往來瞻禮。

侍者(燒香書狀請客)

侍者之職最為近密。觀道德於前後。聽教誨於朝夕。親炙參扣。期法道底于大成。而禮節常宜恭謹。慶喜之侍瞿曇。香林之侍雲門。佛祖重寄其可忽諸。
凡住持上堂小參。普說開室。念誦放參。節臘特為。通覆相看。掛塔燒香行禮記錄法語。燒香侍者職之　凡住持往復書問製作文字。先具草呈。如關書記。山門一應文翰。書狀侍者職之　凡住持應接賓客管待尊宿。節臘特為具狀行禮。請客侍者職之。或維那知客俱不赴眾。或在假。其行事三侍者皆當攝之(或云書狀不當干涉餘事。無據)若住持久出則歸眾行立。暫出則不離班位。

衣鉢侍者(不立班)

先輩多以叢林老成之士為之。蓋能納忠救過羅致人才。內外庶事通變圓融。庶幾上下雍肅。如密菴有如侍者。而得松源世其家。東叟得昇首座。而家法益嚴。今諸方往往任後生晚輩。甚致敗德誤事。可不慎歟。

湯藥侍者(立班)

朝暮供奉方丈湯藥。左右應接。佐助衣鉢侍者。撫恤近事行僕。或暫缺侍者。客至通覆燒香。或缺人回向。皆宜攝行。須擇年壯謹愿者充之。

聖僧侍者(不立班在眾後行道堂外粥飯)

貴有道心。齋粥二時上供鳴下堂椎。朝夕交點被位。中夜剔燈。同維那交收亡僧唱衣錢。住持遷化把帳。頭首秉拂則為燒香。或代鳴椎。念佛職滿。在本山當預侍者名。退耕斷橋二老在眾時常充此職。以能結眾緣而勵志于道也。

東序知事

都監寺

古規惟設監院。後因寺廣眾多。添都寺以總庶務。早暮勤事香火。應接官員施主。會計簿書出納錢穀。常令歲計有餘。尊主愛眾。凡事必會議。稟住持方行。訓誨行僕不妄鞭捶。設當懲戒擯罰。亦須稟議量情示警。毋縱威暴激變起訟。差設莊庫職務必須公平。毋用私黨致怨上下。昔叢林盛時。多請西堂首座書記。以充此職。而都監寺亦充首座書記。否則必臘高歷事廉能公謹。素為眾服者充之。既無取於公。而道福殊勝上下美留。雖連年不易。或數請再充。又何傷焉。故所在單寮勤舊不滿五六人。副寺以下非歷三次。不歸前資。監寺非三次。不歸蒙堂。都寺非三次不得居單寮。再請出充者。公界封鑰元房。以避嫌疑。齋粥二時必赴堂。則行僕行益自然整肅。如楊岐之輔慈明。石窓之輔宏智。可為法則。

僧史曰。知事三綱者。若網罟之巨繩提之則百目正矣。梵語摩摩帝。此云寺主。即今之監寺也。又大集經云。僧物難掌。我聽二種人掌三寶物。一阿羅漢。二須陀洹。更復二種。一能持淨戒識知業報者。二畏後世罪有諸慚愧者。

維那

綱維眾僧曲盡調攝。堂僧掛搭辨度牒真偽。眾有爭競遺失。為辨析和會。戒臘資次床曆圖帳。凡僧事內外無不掌之。舉唱回向以聲音為佛事。病僧亡僧尤當究心。每日二時赴堂。堂前鍾鳴離位。入堂聖僧前左手上香。退兩步半。問訊合掌而入椎邊立。先看逐日回看神示名位。鍾鼓絕鳴椎一下。眾展鉢已再鳴椎一下。合掌默回向當日神示。左手按砧。舉云(仰憑大眾念。清淨法身毘盧遮那佛。圓滿報身十號云云)右手鳴椎。高不過五寸。聲絕方下椎。急緩合度。俟首座唱食至第三句將畢。轉身退至立僧板頭立。俟行食遍。進前鳴椎一下。合掌至聖僧前問訊。出堂歸鉢位。若施主齋僧行賧遍食。椎後從聖僧後轉。左邊朝首座問訊。復鳴椎一下而出。為請施財也。或有他緣。或暫假出入。將戒臘簿假簿堂司須知簿。親送過客司令攝之。

寄歸傳云。維那。華梵兼舉也。維是綱維。華言也。那是梵語。羯磨陀那刪去三字從略。此云悅眾也。又十誦律云。以僧房中無人知時。打揵(巨寒切)椎(音地)又無人塗治掃洒講堂食處。無人相續鋪床。眾亂時無人彈壓等。佛令立維那。又聲論翻為次第。謂知僧事之次第也。

副寺

古規曰庫頭。今諸寺稱櫃頭。北方稱財帛。其實皆此一職。蓋副貳都監寺分勞也。掌常住金穀錢帛米麥出入。隨時上曆收管支用。令庫子每日具收支若干僉定飛單呈方丈。謂之日單。或十日一次結算。謂之旬單。一月一結一年通結有無見管。謂之日黃總簿。外有米麪五味各簿皆當考算。凡常住財物雖毫木。並是十方眾僧有分。如非寺門外護官員檀越賓客迎送慶吊合行人事。並不可假名支破侵漁。其上下庫子須擇有心力能書算。守己廉謹者為之。病僧合用供給之物。即時應付。如倉庫疎漏雀鼠侵耗米麥。蒸潤一切物色。頓放守護有不如法者。並須及時照管處置。

典座

職掌大眾齋粥。一切供養務在精潔。物料調和檢束局務。護惜常住不得暴殄。訓眾行者循守規矩。行益普請不得怠慢。撫恤園夫。栽種及時。均俵同利。二時就厨下。粥飯食不異眾。粥飯上桶。先望僧堂焚香。設拜然後發過堂。

直歲

職掌一切作務。凡殿堂寮舍之損漏者。常加整葺。動用什物常閱其數。役作人力稽其工程黜其游墮。毋縱浮食蠹財害公。田園莊舍碾磨碓坊。頭匹舟車。火燭盜賊。巡護防警。差撥使令賞罰惟當。並宜公勤勞逸必均。如大修造則添人同掌之。

列職雜務

寮元

掌眾寮之經文什物。茶湯柴炭。請給供需。洒掃浣濯。淨髮楪巾之類每日粥罷。令茶頭行者門外候眾至。鳴板三下。大眾歸寮。寮長

分手。寮主副寮對面左右位。副寮出燒香歸位。茶頭喝云(不審)大眾和南遇旦望點湯。鳴板集眾。燒香行湯如常禮。

寮主副寮

凡安眾處寮元照戒次。自下而上。請充之。寫定名字。預貼牌上。十日一替。佐寮元辦事。旦暮僧眾歸堂。巡視經案。或有遺忘什物者。眼同收拾付還。及交點本寮什物。提調香燈茶湯。毋容外人止宿及寄賣物件。猶預定望寮一名。使以次挨補副寮。若寮主遇滿從維那請交代。副寮遇滿從寮元請交代。

延壽堂主

看視病僧。湯藥油燭炭火粥食五味常備供須。公界倘缺。若自己豐裕結緣應付。或勸化施主措辦。床席衣被狼籍穢污。為其洗浣毋生憎嫌。八福田中直病為第一也。

淨頭

掃地裝香。換籌洗廁。燒湯添水。須是及時。稍有狼籍隨即淨治。手巾淨桶點檢添換。凡供此職皆是自發道心。將交替時。堂司預出小榜云(下次淨頭缺人如有結緣請留芳名)願結緣者收榜白堂司。然後覆住持請充之。

化主

凡安眾處常住租入有限。必籍化主。勸化檀越隨力施與。添助供眾。其或恒產足用。不必多往干求取厭也。

園主

不憚勤苦。以身率先。栽種菜蔬及時灌溉。供給堂厨。毋使缺乏。

磨主

兼主碓坊米麪。供眾極有關系。須擇有道心人。諳曉舂磨等事者充之。

水頭

五更燒湯。供大眾頮盥。手巾面盆燈燭牙藥。毋令缺少。冬月烘焙手巾須早起鋪排。勿致臨時動眾念。

炭頭

預備柴炭以禦寒事。或化施主。或出公界。須令足用。

莊主

視田界至修理莊舍。提督農務撫安莊佃。些少事故隨時消弭。事關大體申寺定奪近時叢林凋弊百出。而莊中尤甚。略舉其三。諸方通害初爭莊職。安能遍及。搆怨住持上下不睦一也。一充其職離寺相遠。靡所不為。致爭起訟。供眾錢糧盡皆耗費。復積逋負以累于後。因而紀綱不振。莊佃生侮租課不還。其弊二也。縱使老成能事充之。而州縣應酬。吏胥管幹。鄉都職役。隣里富豪。皆合追陪。既啟其端。稍有不及。便生釁隙。雖不明支。而巧立除破公私無益。故莊中之費或半於寺。其弊三也。只如大家業產巨富不聞分遣子弟。遍居莊所。蓋耕種有佃。提督則有甲幹。收租之時自有監收僧行。此外縱有輸納修圩依糧等項。只臨時分委勤舊知事。限期使辦。事畢旋歸。非唯省費。有補常住而消禍未萌。公私攸濟。今諸方之廢如逃亡家。住持勤舊能恤念寺門。欲撙費救弊汰除濫冗。請自此始。其初例有當重難。而應充莊職者別議酬補之。

諸莊監收

古規初無莊主監收。近代方立此名。此名一立其弊百出。為住持私任匪人者有之。因利曲徇者有之。為勤舊執事人連年佔充者有之。托勢求充者有之。樹黨分充者有之。角力爭充者有之。蠹公害私不可枚舉。雖欲匡救末如之何。倘得廉正勤舊輔佐住持。公選區用。或對眾鬮拈之充。充此職者當克己為念奉眾為心。毋苛取佃戶。毋虧損常住。則自他俱利矣。

請立僧首座

其事嚴重不可輕舉。如大方西堂名德首座。行解素為眾所推服者。委曲陳情。如有允意。特為上堂言。此間多眾。宜得當人相與建立

法幢開大爐韝。山中幸有某人。知見高明慧命所寄。少刻下座。同兩序大眾拜請。為眾開室。伏望慈悲特垂開允。下座方丈行者以柈袱盛入室普說二牌。即於座下同大眾拜請。詞云(大眾傾心久思示誨。伏望慈悲特賜開允)受請人隨詣方丈炷香觸禮拜謝。詞云(某甲幸獲依棲貴圖藏拙。既蒙見舉不敢有違)答云(佛法寄重仰乞垂情)謝已。堂司行者鳴僧堂鍾。大眾同送歸寮。住持對觸禮一拜送出。次與大眾問訊。維那詣寮。議請侍者一人。掛普說牌。預鋪設照堂禪椅拂子主丈爐燭。鳴鼓一通。眾集立定。立僧歸位。維那出班燒香。同大眾再下拜伸請。立僧趺座兩序問訊。住持問訊。立僧普說竟。維那同大眾再下拜伸謝。立僧即懷香詣方丈致謝。兩展三禮。詞云(既蒙使令勉顏承當。慈悲包荒不勝愧悚)仍往庫司諸寮舍問訊。方丈備草飯。請特為湯藥石。至晚湯果兩序光伴。立僧侍者預席。次日住持請僧堂特為茶。請客侍者具茶榜(式見後)詣寮插香拜請禮與特為新首座同。立僧當特為首座大眾茶。與前堂特為後堂大眾禮同。別日方丈管待請兩序光伴。

請名德首座

住持須預稟露。如有允意。方丈先請茶。兩序光伴即鳴鼓陞座。更不報眾。住持委曲致懇。下座與大眾同伸拜請。鳴鍾送歸寮。茶湯管待禮與前同。進退不混兩序無交代也。

榜　堂頭和尚今晨齋退。就雲堂點茶。特為新命
　　首座。聊旌陳　賀之儀。仍請
　　諸知事　大眾同垂　光伴
式　　今月　日侍司　某敬白

兩序進退

頭首務擇才德相當者為之。而近之庸流責以飲食延接為事。使守貧抱道之士愈甘退藏。叢林何由歆艷。住持當革其弊可也。知事古規只列監院維那典座直歲庫頭五員而已。職滿鳴椎白眾告退歸堂隨眾。初無單寮榻位。故叢林鼎盛。近來諸方大小勤舊動至百數。僕役倍之。而僧堂閒無一人。泰定間脫歡丞相領行宣政院。分上中下三等寺院。額定歲請知事員數正為此也。宜遵行之。凡職事將滿。預詣方丈稟退。如擇進退日定。住持令行者報兩序。知當晚昏鍾鳴。舊知事一班。詣方丈插香告稟。觸禮一拜。納庫記鑰匙而退。就中或有再留者。住持隨送到庫司。侍者燒香點湯勉留。次早五更鍾鳴。頭首一班懷香詣方丈。觸禮一拜告退。或有留者。亦同前

禮。點湯留之。住持以擇定人名目子。并西堂勤舊。令客頭行者請粥罷會茶。其舊知事一班候僧堂行粥遍。從後門入。上首鳴椎一下云(白大眾。某等昨蒙堂頭和尚慈旨。令歸庫。今來心力疲倦。告退歸堂隨眾。謹白)再鳴椎一下。從聖僧左出住持前。兩展三禮。初展云(某等昨蒙甄錄。自愧匪才。下情無任愧懷之至)再展敘寒溫畢。觸禮三拜退身。從聖僧右出聖僧前。大展三拜。轉身從首座板起。巡堂一匝 。中間問訊而退。粥罷行者守請新人至寢堂。獻茶畢。住持躬起。燒香一炷。歸位白云(前兩序告退。此務不可缺人。拜請某人充知事。某人充頭首。逐一標名白訖)住持出就爐前立。侍者揖請新人至住持前。對觸禮一拜。新知事同進前。兩展三禮。初展云(某等乍入叢林。諸事生疎過蒙使令。下情不勝恐懼之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)觸禮三拜。住持答一拜。新頭首進前兩展三禮。致訶同前。轉位獻湯(咸淳規揖坐揖香揖湯。至今諸方行之。或謂當晚有特為此可免。講不講在住持意)湯罷謝禮。或展或免。供頭鳴僧堂鐘。大眾歸鉢位立定。住持入堂。先送前堂首座。以次頭首隨歸鉢位。各觸禮一拜。次送後堂對。觸禮一拜。新知事一班預立於西堂板頭。住持歸位。維那往住持前問訊側立(如維那已退。則知容侍者代行禮)住持付目子與之。當面問訊。從聖僧後轉鳴椎一下云(白大眾。前知事告退。此務不可缺人。適奉堂頭和尚慈旨。請某人某職。某人允某職職。謹白)復鳴椎一下。侍者即揖請新知事一班。住持持前觸禮一拜。維那白云(請知事訖)又鳴椎一下。知事一班兩展三禮(致詞並與前同)知事轉聖僧後。右出聖僧前排立。大展三拜。維那引巡堂一匝 。歸中問訊。橫退過西堂板頭立。堂司行者喝云(大眾禮賀新知事)普同觸禮一拜畢。又喝云(新知事禮謝大眾)普同觸禮一拜畢。又喝云(大眾送新知事歸庫司)供頭行者鳴僧堂鍾。住持送入對觸禮一拜。送住持出。與舊人交代。互轉身對。觸禮一拜。送舊人出。侍者先賀。次頭首領眾賀畢。行者喝云(大眾送新首座歸寮)再鳴鍾送賀畢。喝云(大眾送新維那歸堂司)又鳴鍾送賀畢。逐一喝云(兩班勤舊送新後堂首座書記藏主知客歸寮)送賀交代禮並同前。又各喝云(大眾送舊首座都寺歸寮)亦鳴鍾送賀畢。各喝云(兩班勤舊送以次舊頭首知事歸蒙堂前資)禮亦如前。送住持出。寮主先相接。交互轉身對。觸禮一拜。不送出。然後受賀俱畢新舊人各懷香。即詣方丈拜謝。新人香係庫司備謝畢。新舊人同巡寮方丈請半齋點心。齋時草飯仍請西堂勤舊。光伴列職雜務待請兩序了。別日詣堂司告退。次第擇人交替。

掛鉢時請知事

有處住持不先和會。默擇人定。預分付堂司行者。於僧堂。早粥罷掛鉢時。喝云(大眾少立請新知事)維那入聖僧前燒香巡堂一匝 。至住持

前問訊側立。住持付所請人名目子。接訖當面問訊。從聖僧後轉。鳴椎一下云(白大眾。適奉堂頭和尚慈旨。請某人充某知事)逐一白訖。侍者揖請新人至住持前受職。與前禮同。曰方丈會茶。請頭首禮並同前。

侍者進退

請兩序畢。舊侍者隨住持上方丈咨稟云(某等久侍和尚。今欲告退隨眾辦道。伏望慈悲)插香大展三拜而退。住持批下堂司。請新侍者。維那令行者照批請。仍請寮元勸請。同就堂司茶揖入。燒香點茶畢。起身再燒香。入云(適奉堂頭和尚慈旨令請某甲上座充某侍者)逐一白訖。揖受請人。進前普觸禮一拜轉位。維那行禮揖坐揖香歸位坐。獻湯畢。引上方丈。住持出。維那進前稟云(適奉慈旨。令請某人充某侍者。今引炷香禮拜)住持據坐。新侍者插香大展三拜畢。維那送歸寮。對觸禮一拜。侍者送出。却與舊人交代頭首禮同(咸淳規載。亦有住持自送侍者歸寮。侍者當觸禮一拜送出。至大規載。若名德之士。住持躬送入寮。對觸禮一拜。維那攸賀而已。勿視為常)方丈行者直廳轎番拜賀。堂司行者引新舊侍者。同巡寮畢。新侍者再上方丈炷香拜謝。舊侍者早晚伺同新侍者。方丈問訊。三日後住持批下堂司送歸眾寮。與維那交互對觸禮一拜。送維那出。次與寮元問訊畢。仍上方丈。炷香拜謝。聖僧侍者係維那。擇人和會充職。後引上方丈禮拜。隨例茶湯點心管待。

寮舍交割什物

寮舍什物常住置辦不易。往往職事人視為傳舍。臨進退時。鄉人各自搬移蕩然一空。使新入寮者茫無所措。未免具數。到庫司需索不至。因此上下唇吻不安。設若應副重費常住。庫司當置總簿。具寫諸寮什物。住持知事僉定。仍分置小簿付諸寮。兩相對同。新舊相沿交割。損者公界修補。缺者本寮陪償將進退。數日前副寺帶行者。賚簿到各寮。預先點對分曉。責在本寮人僕。毋得走失。違者陪償。或有增添數目。隨即同附簿。庶可稽考也。

方丈特為新舊兩序湯

請客侍者令客頭行者備牀褥爐燭。詣新舊前堂首座處。炷香觸禮一拜。稟云(堂頭和尚請參前就寢堂持為獻湯)次新舊都寺前炷香無拜。詞語同前。以次新舊兩序。令客頭請。并請勤舊光伴釘掛寢堂。鋪設坐位。光伴分手。新頭首一出。新知事二出。舊頭首三出。舊知事四

出。餘勤舊預光伴者。列主伴兩邊。西序居左。東序居右。燒香侍者預排照牌。至時鳴鼓。客集同請客侍者行禮(小座湯禮同)至晚湯果次日粥罷。請新舊人茶。庫司亦請茶。然不及赴。赴方丈茶罷。却往致謝。半齋庫司點心仍提調。送舊人粥飯三日。

堂司特為新舊侍者茶湯

草飯罷。維那令堂司行者。請新舊侍者。并聖僧侍者。參前就寮獻湯。堂司設位排照牌。請寮元。光伴鳴寮前板。接入揖坐(禮與庫司同)當在方丈特為湯之先。庶不相妨行禮。候方丈特為新首座茶罷。則堂司亦請新舊侍者特為茶。次日當專致謝。

庫司特為新舊兩序湯藥石

草飯罷。令客頭行者備盤袱爐燭。上首知事詣新舊首座舊都寺處。炷香詞云(今晚方丈湯罷。就庫司特為獻湯。伏望降重)客頭隨後請云(湯罷就坐藥石)及請新舊大小職事。仍請西堂勤舊。光伴設位排照牌。位分四出。新頭首一出。舊頭首二出。舊知事三出。莊庫四出。新知事亦依班排位。獨維那就座。光伴勤舊如方丈排位。候方丈湯罷。庫司鳴板。各依照牌立定。都寺巡座揖坐畢。燒香揖香。依坐位出頭巡問訊。歸中燒光柈香歸位坐進湯。湯罷起身出。詣爐前謝湯畢。抽衣就坐藥石。

堂司送舊首座都寺鉢位

維那於兩序進退三日後。未開靜時。分付堂司行者。引人力排燈。請舊首座都寺。就堂司獻湯。維那接入。炷香喫湯畢。白云(清職既滿山門禮合。延送鉢位)引至僧堂。從後門入。先送首座。次送都寺歸各板頭。各觸禮一拜。當日掛鉢赴堂。

方丈管待新舊兩序

住持特為上堂一一標名。敘謝畢。新舊人就座下拜謝。請客侍者令客頭行者。備柈袱爐燭香合。詣新舊首座都寺前。炷香陳請云(方丈和尚午刻請就寢堂管待)客頭請以次新舊人并勤舊。光伴寢堂設位排照牌。客集報住持。出接各入座依照牌。立定燒香。侍者與請客侍者巡揖坐畢。燒香進卓。侍者一班列住持前問訊入位。行湯下食畢。

至行飯時燒香。侍者離位燒香。下匙飯畢退卓。鳴鼓講茶禮(與特為湯禮同)鳴鼓三下退座。新舊人兩展三禮拜謝。

方丈特為新首座茶

管待了。次早燒香侍者覆住持。令客頭行者備牀袱爐燭香合。請客侍者寫茶榜(式見前名德首座同)詣首座寮。炷香觸禮一拜。稟云(堂頭和尚齋退。就雲堂特為點茶。伏望降重)客頭報眾掛點茶牌仍請知事大眾。光伴排照牌。侍者行禮(並與四節特為禮同。惟四板頭不安香几。無巡堂請茶)禮畢。先收首座住持盞。首座直趨住持前行禮。初展云(此日特蒙煎點禮意過勤。下情不勝媿感之至)再展敘寒溫畢。觸禮三拜。首座從聖僧後右出堂前。住持相送復位執盞。侍者燒光伴香畢收盞。鳴鼓三下退座。首座仍於法堂下間。候住持謝茶。

新首座特為後堂大眾茶(無後堂則以次頭首)

方丈特為茶了。次早新首座懷香詣方丈。拜請云(齋退特為後堂首座大眾。就雲堂點茶。伏望慈悲降重)具狀(式見後)備盤袱爐燭。詣後堂首座寮。炷香拜請云(今晨齋退就雲堂點茶特為伏望降重)呈納狀訖。特為人令本寮茶頭。遞付供頭貼僧堂前下間。封皮粘狀前。次令堂司行者報眾掛點茶牌。長板鳴。僧堂內巡請茶(鳴鼓集眾行禮並與常特為禮同)。

前堂首座比丘　某　右某今晨齋退就
狀　雲堂點茶一鍾特為　後堂首座大眾仍請
諸　知事同垂光降
今月　日具位　某　狀
式　可漏子
狀請　後堂首堂大眾　具位　某謹封

住持垂訪頭首點茶

茶湯禮畢。住持齋罷。往諸頭首寮點茶。從容溫存點檢缺乏。隨令庫司措辦。

兩序交代茶

伺方丈特為新首座茶畢。次第新職事具威儀。懷香躬詣各受代人處。插香對觸禮一拜。請云(齋退拜屈尊重就寮獻茶)隨令茶頭請兩序各一人。東西序勤舊各一人光伴(西序請茶。則知事分手坐。於同列頭首中。

請肩下一人光伴。如肩上人赴坐位相妨。東序請茶。則頭首分手坐。如維那位居東序。請茶時肩下副寺一人赴)寮中向內設特為位。主席分手位。左右光伴人位。齋退鳴寮前板。接受特為人。次接光伴人。入位揖坐燒香揖香燒光伴香。入座下茶。茶畢。受代人起將元請香插爐中。觸禮拜謝而退。次日令堂司行者請交代點心。名勝一人。光伴前堂首座。則請西堂勤舊各一人光伴。若庫司一班。請西堂勤舊頭首光伴。庫司釘掛。向裏設特為位。左右排光伴位。頭首與主席分手。同序隨班位。次日點心坐位同前。西序止於知客。東序止於維那。凡侍者交代茶與點心。當請維那光伴(設位行禮皆同)近時點心因而請客請鄉曲非禮也。

入寮出寮茶

入蒙堂者白寮主。掛點茶牌。牌左小紙貼云(某拜請合寮尊眾齋退就上寮)齋罷備香燭普同問訊。揖寮主居主位。點茶人居賓位。略坐起身燒香問訊。復坐點茶收盞。寮主起爐前相謝　自蒙堂出充頭首者。點交代茶畢。別日令茶頭報寮主掛點茶牌。齋退鳴寮中小板。點茶人門外右立揖眾入。爐前問訊。寮主主位點茶人分手位。略坐起身燒香問訊。復坐獻茶了。寮主與眾起身爐前致謝。送點茶人出　自眾寮出充頭首者。令茶頭預報寮主掛點茶牌。齋退鳴板。先到眾寮門外右立揖眾。入位立定。問訊揖坐。進中間上下間燒香。復中間上下間問訊。仍中央問訊寮元揖點茶人。對面位坐。行茶畢。寮元出爐前致謝送出　入眾寮者點茶(禮與出寮茶同)但寮元寮長分賓主位。自不可入位坐。

頭首就僧堂點茶

伺點出寮茶畢。具茶榜(式見後)令茶頭貼僧堂前下間。具威儀請方丈請茶。諸寮掛點茶牌報請。預令供頭燒湯出盞。庫司備茶燭。齋畢就坐。點茶頭首入堂炷香行茶(與旦望禮同)。

某寮舍湫隘不敢坐　邀。今晨齋退就雲堂
榜　點茶一中。伏望　眾慈同垂　降重
今月　日具位　某拜請
式　本山辦事禪師　江湖名勝禪師
鄉曲道舊禪師　合堂尊眾禪師

兩序出班上香

凡出班上香行香鳴鈸。維那出爐前向外偏立。揖住持上香(侍者捧合)次揖兩序。相朝而出。轉身問訊住持(謂之借香)然後上香(若聖節佛祖嗣法師忌。無借香問訊。有立班西堂。當先上香。或謂首座已出世。當先上香者非。蓋必與都寺同出班故也)。
西序章終

大眾章七

歸虛之水鄧林之木。以聚者眾也。今夫大方居眾千百。倒廩而炊赭山而爨。亦其所聚也。而四方之來如歸。若已所固有者果何為哉。蓋佛以人之流轉三界出沒生死。惟明道悟性。以超于妙覺。則群生異類咸資其善而訓其徒。以肖己為然。故人人待其徒猶待其師。雖摩肩接踵而至。惟恐奉之不及。不以其眾而少怠也。不然則有以尺地斗粟而相訟者多矣。豈其獨愚。甘委其貲以廣吾居。輟其飧以食吾徒。吾徒之食于斯居于斯。果何為哉。果何為哉。◎
勅修百丈清規卷第四(終)

勅修百丈清規卷第五

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

◎

沙彌得度

凡行者初受度牒。以袂袱托呈本師兩序各處。插香禮三拜。選日設旛剃頭(按律。選處設座。令於露地香水洒之。周匝七尺四角懸旛。今時多大殿須向佛。或相對設座。若法堂中須設像花香燭如儀。今僧堂中為眾多便床坐也)先稟維那和會。戒師并作梵闍梨。引請闍梨。選日既定。則隔宿剃頭。頂心留髮(名曰周羅。梵語周羅。此云小結也)設戒師座几。與住持分手。几上安香燭手爐戒尺。設作梵闍梨座几于聖僧右。與戒師對。几上安磬。聖僧案前置袈裟直裰度牒於上。自行堂鳴鈸引剃頭人出。土地堂祖堂佛殿各處。炷香禮三拜。序立僧堂前。鳴鍾集眾。頭首住持俱入堂訖。戒師二闍梨始入堂。大展三拜。各歸位。大眾齊坐定。引請闍梨至戒師前。大展三拜。胡跪合掌。戒師問云(僧集否)答云(已集)問云(和合否)答云(和合)　戒師云(僧今和合何所作為)答云(為行者剃頭受戒)戒師云(可爾)引請收坐具。起鳴手磬。引剃頭人入堂。聖僧前三拜。次戒師前三拜了就跪。作梵闍梨鳴大磬。作梵云(神仙五通人。作者於呪術。為彼慚愧者。攝諸不慚愧。如來立禁戒。半月半月說。以說戒利益。稽首禮諸佛)云何梵(云何於此經。究竟到彼岸。願佛開微密。廣為眾生說)作梵訖。復白云。為剃頭受戒者說。戒師起座大眾俱立。戒師秉爐白云。戒香定香慧香解脫香解脫知見香。光明雲臺遍法界。供養十方無量佛。十方無量法。十方無量僧。見聞普熏證寂滅。一切眾生亦如是。即將今晨剃頭受戒開啟功德。先願。
皇帝萬歲臣統千秋。天下太平法輪常轉。伽藍土地增益威光。護法護人無諸難事。十方施主福慧莊嚴。合道場人身心安樂。師長父母道業超隆。剃頭沙彌修行無障。三途八難咸脫苦輪。九有四生俱登覺岸。仰憑大眾念(清淨法身毘盧遮那佛云云。十號畢)大眾復坐。引請秉爐。教沙彌云(請師言句汝合自陳。汝若不能隨我聲道。凡稱某甲處。當稱自己名)復唱念云。大德一心念　我某甲　今請大德　為剃頭受戒阿闍梨　願大德　為我作剃頭受戒阿闍梨　我依大德故　得剃頭受戒慈愍故　剃頭人禮一拜。再稱慈愍故禮二拜。三稱慈愍故禮三拜。就胡跪合掌。戒師云。善男子。沙彌(應喏)　戒師云。心源湛寂法

海淵深。迷之者永劫沈淪。悟之者當處解脫。欲傳妙道無越出家。放曠喻如虛空。清淨同於皎月。修行緣具道果非遙。始從剋念之功。畢證無為之地。所以大覺世尊捨金輪之寶位。子夜踰城。脫珍御之龍衣。青山斷髮。容鵲巢於頂上。掛蛛網於眉間。修寂滅而證真常。斷塵勞而成正覺。三世諸佛不說在家成道。歷代祖師阿誰行染度人。所以佛佛授手。祖祖相傳。不染世緣方成法器。故得天魔拱手外道歸心。上酬四重之恩。下濟群生之苦。所以云。流轉三界中。恩愛不能捨。棄恩入無為。真是報恩者。出家之後禮越常情。不拜君王不拜父母。汝今可離此座。想念國王水上之恩。父母生成之德。專精拜辭後不拜也。沙彌就禮一拜引請。鳴手磬引出堂外。望北三拜謝恩。復三拜謝父母恩。即更僧衣。引入聖僧前三拜。轉戒師前一拜。胡跪合掌。戒師用淨瓶灌頂。以指滴水於頂上。勢刀剃頭。仍舉偈。眾同誦云(善哉大丈夫。能了世無常。棄俗趣泥洹。希有難思議)三誦訖。沙彌退禮一拜。引請領沙彌。至本師前。胡跪合掌。本師執刀云(最後一結謂之周羅。唯師一人乃能斷之。我今為汝除去。汝今許否)答云(可爾)有垂示法語。仍舉落髮偈云(毀形守志節。割愛辭所親。出家弘聖道。誓度一切人)三舉大眾同聲和。沙彌就禮三拜。仍胡跪合掌。本師持袈裟。亦有垂示法語。付袈裟置沙彌頂上。復舉偈云(大哉解脫服。無相福田衣。披奉如來戒。廣度諸眾生)三舉眾亦同聲和畢。沙彌披袈裟。禮本師三拜。禮聖僧三拜。禮戒師三拜。胡跪合掌。戒師云。善男子。法如大海漸入漸深。汝既出家當先受三歸五戒。方得近事大僧。次受沙彌十戒。乃可同僧利養。事在專誠。不得慢易。我今為汝召請三寶。證明佛事。秉爐云　一心奉請　無邊佛寶　海藏經文　十地三賢　五果四向　同垂感降　共作證明　三請訖。乃云。善男子。欲求歸戒。先當懺滌愆瑕。如人浣衣然後加色。汝今至誠隨我懺悔。舉云(我昔所造諸惡業。皆由無始貪嗔癡。從身口意之所生。一切我今皆懺悔)三舉眾三和沙彌三拜。胡跪合掌。戒師云。善男子。法既淨治身口意業今當歸依佛法僧寶。乃舉唱云　歸依佛　歸依法　歸依僧　歸依佛無上尊　歸依法離欲尊　歸依僧眾中尊　歸依佛竟　歸依法竟　歸依僧竟　如來至真等正覺　是我大師　我今歸依　從今以往　稱佛為師　更不歸依邪魔外道　慈愍故。沙彌隨聲念。眾皆和(自歸依佛起至慈愍故。通誦三遍。如慈愍故。次則再疊之。三則三疊之)每誦一遍沙彌隨禮一拜。二遍二拜。三遍三拜。就胡跪合掌。戒師云。善男子。汝既捨邪歸正。戒已周圓。若欲識相護持應受五戒。

盡形壽　不殺生
不偷盜
不婬欲　是五戒相。汝能持不。答云。能持。
不妄語

不飲酒

上來五支淨戒一一不得犯。汝能持不。答云。能持。是事如是持。沙彌三拜胡跪合掌。戒師云。善男子。五戒為入道之初因。出三途之元首。次受沙彌十戒。形備法儀。此稱勤策。依師而住。受利同僧。是為應法沙彌。應當頂受。

不殺生
不偷盜
不婬欲
不妄語
不飲酒

盡　壽　　是沙彌戒相。汝能持不。答云。能持。

不坐臥高廣大床
不花鬘瓔珞香油塗身
不歌舞作倡故往觀聽
不捉金銀錢寶
不非時食

上來十支淨戒一一不得犯。汝能持不。答云。能持。是事如是持。沙彌三拜胡跪合掌。善男子。汝今受戒之後當須頂戴奉持。不得違犯所持戒律。供養三寶勤種福田。於和尚阿闍梨。一如法教於上中下座。心常恭敬精進行道。報父母恩。衣取蔽形不以文彩。食取支命不得嗜味。花香脂粉無以近身。好色邪聲一無視聽。徐言持正。勿宣人短。倘有爭者兩說和合。男女有別草木無傷。非賢不友非聖不宗。法服應器常與人俱。非時不食非法不言。精勤思義溫故知新。坐則禪思起則諷誦。閉三惡道開涅槃門。於比丘法中增長正業菩提心而不退。般若智以長明。廣化眾生祈成正覺。用心如此。真佛弟子。沙彌禮三拜胡跪合掌。戒師起身秉爐。回向云。上來剃頭受戒功德。奉祝護法天龍伽藍真宰。各展威靈安僧護法。堂頭和尚。常為苦海之津梁。執事高人。永作法門之柱石。合堂清眾。同乘般若之舟。剃頭沙彌。共至菩提之岸。四恩總報三有齊資。法界有情同圓種智。十方三世一切諸佛諸尊菩薩摩訶薩摩訶般若波羅蜜。戒師仍就坐。作梵閣梨鳴磬云。處世界如虛空。如蓮花不著水。心清淨超於彼。稽首禮無上尊。

佛　得菩提　道心常不退
歸依法　薩般若　得大總持門
僧　息諍論　同入和合海

上來剃頭受戒功德無限殊勝良因。散周沙界和南聖眾。

引請闍梨候作梵闍梨舉處世界如虛空時。即鳴手磬。引沙彌禮戒師三拜。轉身禮聖僧三拜畢問訊。出堂外下手立。戒師二闍梨聖僧

前。大展三拜而出。堂司行者鳴堂前鍾三下。住持出堂。大眾下床。首座領眾。隨詣方丈禮賀。如眾多住持當就法堂上受賀。客頭行者仍預排列香燭爐瓶罘罳椅子。伺候先戒師二闍梨行禮。初展云(蒙差授戒勉強祇承。人事荒疎有淹尊重。下情不勝惶恐之至)住持答云(沙彌剃頭有勞神用)再展敘寒溫畢。觸禮三拜。住持答一拜。次首座大眾進前插香。或展或觸禮。或免。次侍者小師插香。大展三拜。不收坐具。進云(沙彌得度舉眾同歡仰對尊嚴。下情不勝欣躍之至)又三拜進敘寒溫退三拜。收坐具次沙彌插香。大展三拜。不收坐具。進云(某等叨圓頂相幸掛田衣。不受塵勞永離愛網。下情不勝欣感之至)又三拜進云(即日時令謹時恭惟。堂頭本師大和尚尊候起居多福)退三拜收坐具。住持巡寮報禮。沙彌一一詣寮禮謝。秖就沙彌寮安下。俟他時登壇受戒。謝戒詞云(某等獲登戒品。濫廁僧倫。仰荷庇庥。特此拜謝)答云(宿承佛記。僧戒圓成。堅忍受持。力扶宗教)。

新戒參堂

得度受沙彌戒已。覆住持。於何日參堂。次稟首座維那。至期早粥遍食椎後。新戒參頭領眾入堂。聖僧前列問訊插香。大展三拜。不收坐具進云(某等獲廁僧倫攀附清眾此日參堂。下情不勝戰汗之至)又三拜進云(即日時令謹時恭惟。堂頭本師大和尚。首座尊眾大禪師。尊候起居多福)退三拜收坐具。轉身住持前列問訊。從首座板。起巡堂至外堂。復歸內堂中間。問訊而出。然後歸堂。插單隨眾禪誦。

登壇受戒

三世諸佛皆曰出家成道。歷代祖師傳佛心印盡是沙門。蓋以嚴淨毘尼。方能弘範三界。然則參禪問道戒律為先。若不離過防非。何以成佛作祖。受戒之法應備三衣鉢具并新淨衣物。如無新者浣染令淨。入壇受戒一心專注。慎勿異緣像佛形儀。具佛戒律。得佛受用。此非小事豈可輕心。若借借衣鉢雖登壇受戒。並不得戒若不曾受。一生為無戒之人。濫廁空門虛消信施。既受聲聞戒。應受菩薩戒。此入法之漸也。

護戒

受戒之後常應守護。寧有法死不無法生。如小乘四分律云。四波羅夷。十三僧伽婆尸沙。二不定。三十尼薩耆。九十波逸提。四波羅提提舍尼。一百眾學。七滅諍。大乘梵網經十重四十八輕。並須讀

誦通利善知持犯開遮。但依金口 聖言。莫擅隨於庸輩。如不應食(謂酒葷腥也。葱韭蒜薤園荽曰葷。諸肉味曰腥。並不應食)不非時食(如非粥飯二時皆非時食)並宜服禁。財色之禍甚於毒蛇。尤當遠離。慈念眾生猶如赤子。語言真實心口 相應。讀誦大乘資發行願尸羅清淨佛法現前。皮之不存毛將安付。故經云。精進持淨戒。猶如護明珠。

辦道具

將入叢林。先辦道具。中阿含經云。所蓄物可資身者。即是增長善法之具。菩薩戒經云。資生順道之具。

三衣

蓋法衣有三也。一僧伽黎(即大衣也)二欝多羅僧(即七條也)三安陀會(即五條也。此是三衣也。若呼七條偏衫裙為三衣者非也)又三品大衣(上品二十五條。二十三條。二十一條。中品十九條。十七條。十五條。下品十三條。十一條。九條)田衣緣起。僧祇律云。佛住帝釋石窟前。見稻田畦畔分明。語阿難云。過去諸佛衣相如是。從今依此作衣相。增輝記云。田畦貯水生長嘉苗。以養形命。法衣之田潤以四利之水。增其三善之苗。以養身法慧命也。

坐具

梵云尼師壇。此云隨坐衣。根本毘奈耶云。尼師但那唐言坐具。五分律云為護身護衣護僧床褥故。蓄坐具。僧祇云。律應量作長佛二磔手。廣一磔手半(佛一磔手長二尺四寸。此合長四尺八寸。廣三尺六寸)。

偏衫

古僧衣律制只有僧祇支(此云覆膊衣。亦名掩腋衣)此長覆左膊及右腋。蓋[月*親]三衣故。即天竺之儀也。竺道祖魏錄云。魏宮人見僧袒一肘不以為善。乃作偏袒。縫於僧祇支上相從。因名偏衫(今開脊接領者是。蓋魏遺制也)。

裙

西域記云。泥縛些羅(些桑箇切)唐言裙。諸律舊譯或云涅槃僧。或云泥洹僧。或譯為內衣。或云圌衣(圌音船。即貯米圓器。似圌而無蓋。取圓

儀故云)。

直裰

相傳前輩見僧有偏衫而無裙。有裙而無偏衫。遂合二衣為直裰。然普化索木直裰。大陽傳革履布裰。古亦有矣。

鉢

梵云鉢多羅此云應量器。今略云鉢。又呼云鉢盂。即華梵兼名。佛本行集經云。北天竺有二商主。一名帝利富婆。二名跋利迦。奉世尊麨酪密揣。世尊思惟。往昔諸佛悉皆受持鉢器。我今當以何器受商主食。時四天王疾共持四金鉢奉上。世尊不受。以出家人不合蓄此。彼四天王更將四銀鉢。玻琍鉢。瑠璃鉢。赤珠鉢。瑪瑙鉢。[王*車]琛鉢奉上。悉皆不受。時北方毘沙門天王告三天王言。我念往昔。青色諸天將四石器來奉我等。可用受食。時別有一天子名毘盧遮那。白言。仁等慎勿於此石器受食。但供養如來。當有如來號釋迦牟尼出世。宜將此四石鉢奉彼如來。時四天王共將四石鉢奉佛。世尊念。四天王以信淨心奉我四鉢。若我於一人邊受。餘各有恨。我今總受四鉢。持作一鉢。次第相重安置左手右手按下。合成一鉢。外有四唇。而說偈言。我昔功德諸果滿。以發哀愍清淨心。是故今四大天王清淨牢固施我鉢。

錫杖

梵云隙棄羅。此云錫杖。錫杖經云。佛告比丘。應受持錫杖。過去未來現在諸佛皆執故。又名智杖。又名德杖。彰顯智行功德本故。迦葉白佛。何名錫杖。佛言。錫者。輕也。依倚是杖除煩惱出三界故。錫明也。得智明故。錫醒也。醒悟苦空三界結究故。錫疏也。謂持者與五欲疏斷故。二股六環是迦葉佛製。四股十二環是釋迦佛製。

主杖

十誦律云。佛聽蓄杖。其[矛*(替-曰+貝)]用鐵為堅牢故。斯蓋行李之善助也。又毘奈耶云。佛聽蓄主丈。有二因緣。一為老瘦無力。二為病苦嬰身故。

拂子

律云。比丘患草蟲聽作拂子。僧祇云。佛聽作線拂列氍拂芒拂樹皮拂。若描牛尾馬尾并金銀裝柄者。皆不可執。

數珠

牟尼曼陀羅經云。梵語鉢塞莫。梁云數珠。系念修業之具也。木槵子經云。昔有國王名波流黎。白佛言。我國邊小我常不安。法藏深廣不得遍行。願示法要。佛言。若欲滅煩惱。當貫木槵子一百八箇。常自隨身。志心稱南無佛陀。南無達摩南無僧伽名。乃過一子。如是漸次乃過至千萬。能滿二十萬遍。身心不亂。捨命得生炎摩天。若滿百萬遍當除百八結業。獲常樂果。王言。我當奉行。

淨瓶

梵語捃雉迦。此云瓶。常貯水隨身以用淨手。寄歸傳云。軍遲有二。若甕瓦者是淨用。若銅鐵者是觸用。

濾水囊

增輝記云。為器雖小其功甚大。為護生命故。中華僧鮮有受持。准律標示。根本百一羯磨云。水羅有五種。一方羅(用絹三尺或二尺。隨時大小。作絹須細密不透虫者。若用踈絹薄紗紵布者。無護生之意)二法瓶(陰陽瓶也)三軍遲(以絹繫口。以繩懸沈於水。待滿引出)四酌水羅。五衣角羅(言衣角者。非袈裟角也。但取密絹一方磔手。或繫瓶口。或安鉢盂中。濾水用也)慈覺大師賾公集經律凡三十一偈。文多不錄。末謂世云。濾羅難安多眾。宗賾崇寧元年於洪濟院厨前井邊。安大水檻。上近檻唇。別安小檻穿角傍出。下安濾羅。傾水之時全無迸溢。亦五大眾沾足。浴院後架倣此。僧行東司亦皆濾水。出家之本道也。後住長蘆。諸井濾水二十餘處。常住若不濾水。罪歸主執之人。普冀勉而行之。

戒刀

僧史略云。戒刀皆是道具。表斷一切惡故。

裝包

古者戴笠。笠內安經文茶具之類。衣被束前後包。插祠部筒戒刀。今則頂包裝包之法。用青布袱二條。先以一條收拾衣被之屬。仍用油單裹於外。復用一條重包於外。四角結定用小鎖鎖之。仍繫包鈎於上。度牒有袋懸胸前。袈裟以帕子縛定。入腰包繫於前。下裳鞋襪有袋繫於後。右手携主杖。途中雲水相逢。彼此叉手朝揖而過。如遊山到處將及門。下包捧入旦過。安歇處解包取鞋襪。濯足更衣。搭袈裟與知客相看。

遊方參請

稟辭師長。慕有道尊宿處。依棲求掛搭(准律云。比丘有法有食處應住。有法無食處亦應住。無法有食處不應住)古規首到客司相看。次往堂司掛搭。送單位經案定。然後到侍司通覆。詣方丈禮拜。今時遊方掛搭初到旦過。推熟於叢林能事者一人為參頭。領眾至客司具威儀。列門首右。白云(暫到相看)知客即接入。詞云(即日恭惟。知賓尊長禪師尊候起居多福。久欽此譽復奉瞻際。下情不勝感激之至)答云(山門多幸特荷遠臨)揖坐燒香喫茶略詢來歷。即起謝茶歸旦過。知客尋往回禮。參頭接入。普同問訊。知客詞云(移刻恭惟。諸位尊長禪師尊候起居多福適承降重特此拜謝。下情不勝感激之至)答云(禮合拜看何勤降重)參頭自送出門。若欲禮拜住持。則放參後詣侍司相看如前禮。起身稟云(某等特來禮拜和尚。敢勞侍者通覆)侍者揖再坐。詳詢來由。或鄉人法眷辦事分明。侍者云(且回安下處容某通覆)即上方丈咨覆。如允次早鍾鳴。侍者令客頭報相看。如未暇。侍者挑燈詣安下處報禮。善言安慰。相看之禮粥罷。參頭領眾。詣寢堂候住持出。侍者接入。參頭進前云(請和尚趺坐)轉身左手插香。退身同眾。初展云(某等久聞道風。此日獲奉尊顏。下情不勝喜躍之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭大和尚尊候起居多福)觸禮三拜。如入室弟子法眷則云(久承慈廕)別插香行禮就座。侍者燒香喫茶。住持問鄉里名諱及夏在何處。各須實答。不可多語。起身爐前謝云(重承降接特此拜謝)住持送出。參頭云(和尚尊重)隨至侍司致謝云(有煩神用特此拜謝)歸旦過外下手排立。候住持回。禮同問訊接入。詞云(移刻恭惟。堂頭大和尚尊候起居多福。某等適來分合禮拜過蒙降重。下情不勝感激之至)住持云(安下不便幸望款留)眾送出。參頭轉上手接侍者入。同眾問訊云(移刻恭惟。高侍禪師道體起居多福。禮合詣寮拜看返辱降重。下情不勝感激之至)侍者云(山門多幸特荷遠臨。報謝稽遲下情多愧)今遊方者多不入旦過。到處輒尋鄉曲頭首寮舍安泊。古禮漸至無聞。住持遇名勝相看。就送客位回禮。上座相看。就法堂下間。迎伺住持回禮。免煩降重。而五山大方則不回禮。半齋請點心。當晚特為湯披衣赴。住持接入。爐前通寒溫。就坐侍者燒香揖湯。湯罷起就爐前謝湯。須兩展三禮

抽衣就坐藥石。如住持不暇。請頭首代相陪。時當自起燒香。住持自伴湯乃盡禮也。次日粥罷請茶。參頭領眾。排立寢堂前。候住持至。即趨前問訊云(經宿恭惟。堂頭和尚尊候起居多福。某等重承寵呼。下情不勝感激之至)入座侍者燒香喫茶。起至爐前兩展三禮謝茶。初展云(某等重承煎點特此拜謝。下情不勝感激之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)退身觸禮三拜。住持送出兩三步。如求掛搭。參頭領眾回身。進住持前。稟云(某等生死事大無常迅速。久聞道風特來依附。伏望慈悲收錄)稟訖不伺允否。即普觸禮一拜云。(謝和尚掛搭)當先掛搭參頭。其餘不拘早晚。不擇處所。各知進退。伺候住持求住。方丈近事人母得呵禁。如允仍觸禮一拜。就求帖子。到侍司附名云(適奉方丈慈旨。令就上寮附名)侍者次第發榜頭下堂司維那令行者請新到。喫茶畢出。度牒上床歷(詳具大掛搭歸堂)候送歸堂。或有故出入。須守堂儀。半月方可請假。古云。請假遊山者常將半月期。過期重掛搭。依舊守堂儀。如迫師長父母疾病喪死者。不在此限。

凡寢堂中必設參椅示尊師道也。新到相看。住持當居中位。令其插香展禮。側坐受茶於禮無損。今北方猶行之所。時新學沙彌才方入眾。便與大方宿德分坐抗禮視為故常。循習成弊。至於獵等犯分以啟外侮。師道蕩然。能尊師則尊法。尊法則叢林紀綱振矣。若西域諸師其徒奉之。猶君父之尊。惟恐不及可為法也。

大相看

大方多眾。又尊宿嚴重。無汎常數見之禮。新到須候人多。各預詣侍司。附名作一起相看。侍者稟定。或九月初或冬前年節。眾推辦事名勝。或熟於叢林者為參頭。至日領眾至寢堂排立。侍者請住持出。參頭進云(請和尚趺坐)住持垂語參頭下語已。退步同眾問訊。插香展禮。次謝侍者。次早赴方丈茶求掛搭。候發榜(式見後)下堂司。送歸堂並與前同。住持併在謝掛搭時回禮。

榜式　奉方丈慈旨掛搭一僧某甲上座某甲上座

今月　日侍司　某報

大掛搭歸堂

堂司承侍司報榜。即令行者請新到茶。各懷度牒。參頭預備小香合。準歸堂時用。領眾詣堂司對。觸禮一拜敘寒溫。入座受茶畢。起稟云(某等適奉方丈慈旨。令依附左右。伏望甄錄)維那答云(多幸喜得同守寂寥)參頭與眾各取度牒遞付維那。仍對觸禮一拜。逐一上床曆訖付還。只留參頭度牒。行者喝云(請眾首座歸堂掛搭)參頭領眾。前門右手

入堂。至聖僧前排立。參頭燒香同眾。大展三拜。巡堂一匝。自上堂至下堂。仍如前排立問訊。從班尾先移步。退聖僧板頭立。維那入堂燒香上間立。堂司行者用盤袱托度牒。維那付還。參頭同眾對。觸禮一拜。參頭送維那出(齋前後門齋後前門)參頭不出門限。維那發諸寮報榜(式見後)行者引至眾寮鳴內板三下。寮主相接入門對。觸禮一拜。敘寒溫畢。分手坐獻空盞。便起身於香爐前。問訊謝畢云(某等適奉維那慈旨。令歸上寮依棲左右。敢望慈悲)寮主云(茲來多幸。且喜同守寂寥)即各觸禮一拜。新掛搭人轉東邊。寮主轉西邊。又觸禮一拜。寮主引掛搭人排列。朝觀音問訊。引巡案一匝。復朝觀音問訊而退。不須送出。行者引見寮元。對觸禮一拜云(即日恭惟坐元禪師尊候起居多福。茲蒙方丈慈旨。令某等依附左右敢望垂慈。下情不勝感激之至)次詣諸頭首寮庫司。各觸禮一拜敘寒溫畢送出。今多不相接止傳語。或謂止首座處有拜皆非法。蓋謝掛搭時兩序回禮通有答拜也。

榜　掛搭　一僧某甲上座某州人氏某戒
　　某甲上座　　今月　日堂司　某報
　　報侍司曰申尊住持也前堂首座侍司眾寮
式　必具戒次州名餘皆不具

小掛搭歸堂

方丈許掛搭。侍司發榜下堂司。請茶上床曆畢。送入眾寮。維那居上間對。觸禮一拜。轉下間。又對觸禮一拜。掛搭人詞云(茲者多幸重辱溫存。下情不勝感激之至)答云(寮舍不便幸乞寬處)參頭送維那出眾寮外右立。堂司行者鳴寮內小板三下。寮主相接。禮並同前。

西堂首座掛搭

如大方名德欲作住計。語次露意。住持度有單寮可處。及行坐位次上下安順則留之。次日赴茶畢稟云(某為生死事大特來依棲)即觸禮一拜或別日或即時。會兩序勤舊茶。住持躬起燒香復位立白云(某處西堂首座不棄來此同守寂寥。煩兩序勤舊同送歸寮)受送人即進前云(特來依棲重荷收錄)住持同兩序勤舊送歸寮。對觸禮一拜。送住持出。受送人居主位。揖侍者入問訊送出。揖兩序。勤舊入問訊畢即懷香。詣方丈拜謝。堂司行者引詣兩序勤舊處。回禮方丈。別日特為管待講茶禮。旦望請茶。並與勤舊列。

諸方名勝掛搭

凡欲求掛搭。次日赴茶。罷稟云(某等為生死事大。特來依棲伏望收錄)普觸禮一拜。住持如允則會首座知事維那茶畢。住持躬起燒香白送意如前。受送人進云(某等重蒙收錄。只歸僧堂隨眾)答云(山門禮合延送)隨職名高下。送蒙堂前資。對觸禮一拜。送住持出。與寮主問訊。詞云(宿生多幸得依左右)答云(多生緣熟且喜同居)受送人轉主位揖侍者人問訊送出。與兩序問訊畢。即懷香詣方丈。拜謝榻位。堂司行者引至庫司諸頭首寮回禮。或方丈發榜頭煩首座。請送則首座令堂司行者。請知事一人維那侍者及受送人。同至寮首座燒香獻茶。白住持發批山門相送之意。送入門時。首座居主位。代住持觸禮一拜。受送人歸主位。首座轉居客位與知事維那同。問訊餘禮並同前。

法眷辦事掛搭

不拘時訪侍者說來歷。通覆住持。插香展禮。若以下法眷曾執侍者。住持皆當受禮。隨職名高下延送同前。

拋香相看

新到或迫緣故來不及時。或止掛搭不得通覆。不拘處所。纔迎見住持即拋香于前云(暫到禮拜和尚)觸禮一拜。隨自收香伺求掛搭。如住持許容則侍司發榜下堂司。禮同前。若圖帳已定。則詣堂司稟添名入圖。或人多列戒次後。

謝掛搭

古規掛搭歸堂者。即時謝掛搭。後以冬節歲節夏前三次謝掛搭。自佛照和尚由育王赴徑山。權孤雲為入院侍者。時佛照以禮繁併在夏前。近時衲子到處坐席未溫。移單東西多致不謝掛搭。既曰經冬過夏。折中當在冬前夏前兩期報謝。侍者先期。取堂司戒臘簿。檢看新掛搭戒臘在上者一人為參頭。一人為副參(舊以諸方侍者為參頭。往往以寺門高下爭競不安。原夫侍者皆在眾寮掛搭。既曰隨眾。當依戒臘。依戒佛制也。況諸圖帳。及眾寮戒臘牌不以名字分高下。一遵佛制。二免爭競。三得眾和同居。惟住持力主行之)參頭當具小圖習儀。三人一引每引一人為小參頭。須詳記詞語進退折旋合度。免致臨時參差。堂司行者具名數。率香錢寫小榜云(新歸堂首座各率錢若干買香。謝掛搭　堂司行者　某取覆)貼眾寮前。收香錢足交侍者納方丈。就稟擬定何日謝掛搭。出榜報眾云(新歸堂兄弟來日粥罷。詣　方丈謝掛搭　今月　日　侍司　某報)至日就寢堂。或法堂設住持位。排列香几鑪瓶燭臺。侍者付大香一片與參

頭。交副參收領眾依圖位排立。參頭隨同侍者。請住持出。歸位立。參頭同眾齊問訊畢。參頭進住持前稟云(請和尚趺坐)退左足側轉身。於香几右手空處出行過復位。齊問訊畢。副參袖中取香捧遞。參頭接藏懷中小問訊叉手。進爐前左手插香。仍從空處過。復位齊問訊。本引三人一展坐具。住持展手約免之即收起。參頭進前云(某等宿生慶幸獲遂依棲。下情不勝喜躍之至)仍如前退身。香几右手轉歸位問訊。再展坐具住持復如前約免。收坐具再進前云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)仍如前轉歸位問訊。觸禮三拜。住持答一拜。第一引問訊。過左邊接班尾。次第三人趲上。詞禮並同。參頭立於侍者下肩。伺各各禮畢。副參趲到初立處。參頭歸元位。領眾齊問訊而退。副參領眾先行。參頭居末。至眾寮門外下手立。副參引眾從右邊入寮內下間。旋轉量眾多寡。不拘行數。副參趲向前接聯參頭肩次。伺住持至。與眾俱迎問訊轉入寮內。眾當前後相顧成行進退步趨。參頭轉身至爐前對。觸禮一拜。詞云(移刻恭惟。堂頭和尚尊候起居多福。某等重荷收錄。禮合拜謝茲蒙降尊。下情不勝感激之至)眾同送出。參頭門外轉上手立。副參仍引眾旋轉居上間。出聯參頭肩次。揖侍者入。詞云(某等多幸獲依左右。茲沐降重不勝感激之至)參頭一人送侍者出。次揖兩序入對。觸禮一拜。詞云(即刻恭惟。座元都總諸位禪師尊候多福。某等獲遂依附廼承降重。下情不勝感激之至)參頭送兩序出。復歸上間立。副參引眾自觀音後轉出爐前。仍顧班尾。俱立定對參頭。觸禮一拜。詞云(某等適間甚勞神用。特此拜謝)其儀亦當預習。當日侵早。方丈客頭堂司行者各寫回禮。榜帖眾寮前。方丈榜貼上問。兩序榜貼下間(式見後)。

堂頭和尚粥罷回禮

榜　新歸堂首座　今月　日客頭行者某

式　承准頭首知事粥罷回禮

新歸堂首座　今月　日堂司行者某　拜覆

方丈特為新掛搭茶(庫司頭首附見)

請客侍者照戒臘雙字名寫茶狀(式見後)至日侵晨洗面時備卓子筆硯列照堂。請客於名下書云(某甲謹拜尊命)如掛搭諸方名勝亦依戒寫。入茶狀內。隔日方丈客頭先持狀請僉名。侍者令客頭依戒列名寫特為牌或作四出六出。首座光伴。諸方名勝必與住持對面位。若有異議。則於名勝內推戒最高者坐之。參頭與光伴對面位。蓋受送者先謝榻位。此同赴茶耳。至日齋罷鳴鼓集眾。侍者揖入。住持相接問訊。次與光伴人問訊。各依照牌歸位立定。燒香侍者請客侍者分左右位頭。行禮巡揖坐。揖香揖茶燒光伴香。鳴鼓退座。並與四節小

座湯禮同。受特為人引眾排立謝茶。初展云(某等此日重蒙煎點。特此拜謝。下情不勝感激之至)再展云(即日時令謹時恭惟堂頭和尚尊候起居多福)退身觸禮三拜而退。次日庫司客頭行者依戒單字名。具茶狀。列眾寮前請僉名。書云(某甲敬依來命)庫堂排位。首座光伴鳴庫堂板。上首知事與維那行禮。又次日首座眾頭首具狀請僉同前。照堂排位。都寺光伴鳴照堂板。全班行禮。或四人六人分巡問訊。如三人五人。首座燒香只居中立。古法三日講行。令諸方多併作一日。就方丈借座及鼓。頭首知事空住持一位。互為主伴位次。行禮並同(但謝茶必當齊離位轉身問訊致謝。近習只位頭起謝。非禮也)。

新掛搭　某甲上座列名　堂頭和尚今晨
茶　齋退就寢堂點茶　特為伏希　雲集　今
月　日侍司某拜請庫司頭首則云　新掛
狀　搭　某上座列名　右某等今晨齋退就庫
司點茶一中　特為伏望　眾慈同垂降重
式　今月　日庫司比丘某等拜請
頭首當列名止於知客就照堂餘同前

坐禪

每日粥罷。堂司行者先覆首座。僧堂前眾寮前。俱掛坐禪牌報眾。令供頭僧堂內裝香點燈。先鳴眾寮前板一聲。大眾歸堂向裏坐。次第俱集。覆眾頭首鳴板第二聲。候入堂少緩。鳴板第三聲。副寮閉眾寮門。鳴首座寮前板三聲。初聲出門。二聲約到半途。三聲入堂。首座聖僧前燒香巡堂。自下間至上間一匝。就歸被位坐。次覆住持。鳴方丈板三聲。住持入堂燒香覆堂。自上間至下間一匝歸位坐定。久之僧眾方可次第起身抽解。又須看上下肩起止急緩。免見成連單位空缺。或有留被在堂不隨眾者。或有暫來隨眾留袈裟在被位於外放逸者。皆當檢舉懲罰。頭首大眾並從出入板往來。唯前堂首座許從住持前出入。堂司行者候齋次第覆首座放禪轉從聖僧後右出。撐簾下牌。輕撼作聲。住持頭首出堂。堂司行者右邊側立。伺候問訊。或山門有迎接祈禱普請看誦送亡。及眾寮淨髮洗衣。則不坐禪。亦不坐參。參後坐禪如常。住持首座仍巡堂。堂中有直堂牌。刻云(輪次直堂周而復始。住山押兩面刻)照依被位資次。每日五更鍾絕後。交下次人。終日看守。或有開櫃插單下鉢抽被者。皆當白直堂人知。至放參鍾鳴時。交付聖僧侍者看管。至晚則眾僧皆守被位矣。牌則在次早交過。近時直堂成群相陪。分俵果核聚談戲笑習以為常。惱亂禪寂住持首座力戒違者示罰。

坐禪儀

夫學般若菩薩起大悲心發弘誓願。精修三昧誓度眾生。不為一身獨求解脫。放捨諸緣休息萬念。身心一如動靜無間。量其飲食調其睡眠。於閒靜處厚敷坐物。結跏趺坐。或半跏趺。以左掌安右掌上。兩大拇指相拄。正身端坐。令耳與肩對。鼻與臍對。舌拄上腭唇齒相著。目須微開。免致昏睡。若得禪定其力最勝。古習定高僧坐常開目。法雲圓通禪師呵人閉目坐禪。謂黑山鬼窟。有深旨矣。一切善惡都莫思量。念起即覺。常覺不昧不昏不散。萬年一念非斷非常。此坐禪之要術也。坐禪乃安樂法門。而人多致疾者。蓋不得其要。得其要則自然四大輕安。精神爽利。法味資神寂而常照。寤寐一致生死一如。但辦肯心必不相賺。然恐道高魔盛逆順萬端。若能正念現前。一切不能留礙。如楞嚴經天台止觀圭峯修證儀。具明魔事。皆自心生非由外有。定慧力勝魔障自消矣。若欲出定徐徐動身安詳而起。不得卒暴。出定之後常作方便。護持定力。諸修行中禪定為最。若不安禪靜慮。三界流轉觸境茫然。所以道探珠宜靜。浪動水取應難。定水澄清心珠自現。故圓覺經云。無礙清淨慧皆依禪定生。法華經云。在於閒處修攝其心。安住不動如須彌山。是知超凡越聖必假靜緣。坐脫立亡須憑定力。一生取辦尚恐蹉跎。況乃遷延將何敵業。幸諸禪友三復斯文。自利利他同成正覺。◎

勅修百丈清規卷第五(終)

勅修百丈清規卷第六

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

◎

坐參

齋罷。堂司行者覆首座。僧堂眾寮前各掛坐參牌。將晡時僧堂內裝香點燈。鳴眾寮前板。先一聲大眾入堂。二聲以次頭首入。三聲首座入(不鳴首座寮前板。若大坐參時却鳴三下)却覆住持鳴方丈板。與坐禪同。有處不披袈裟非法也。堂司行者候晚粥熟。覆首座云(放參)轉聖僧後右出下牌。鳴堂前鍾三下。眾就位普同和南。住持頭首次第出堂。眾下床各出半單前輩住持頭首亦同歸眾寮藥石。蓋古者每晚必參住持。以求開示。故率眾齊集坐。待鼓鳴而往參之。名曰坐參。因汾州地寒昭公罷之。遂有放參之說。

大坐參

今時叢林有多眾處。猶特講晚參以存古意。謂之大坐參。與常坐參同。但首座入堂不燒香。便歸位待住持入堂坐定。堂司行者鳴首座寮前板三下。大眾轉身向外坐。首座下地從後門出。復轉從前門入。聖僧前燒香如常。巡堂歸被位坐少定。若住持晚參則不鳴堂前鍾。方丈客頭鳴法鼓三下。住持出堂。首座領眾隨至法堂。或寢堂住持據座。侍者兩序東西堂各出班。問訊開示畢。眾散歸寮藥石。若不晚參則堂司行者進首座前問訊云(堂頭和尚今晚放參)轉聖僧後。右出令喝食行者中立問訊長聲喝云(放參)鳴堂前鍾三下。大眾下地普同和南。首座先出堂。次住持出。頭首出眾。各出全單歸眾寮藥石。若講行時須講一參一免使後學知之。每日如有緣故不坐參時。供頭行者代首座出半單與大眾同。至晚眾寮前鳴板三下。眾出寮歸堂。昏鍾鳴(如居城市則候鼓鳴)頭首入堂。首座待鍾鳴。入燒香巡堂。次住持入燒香巡堂。候定鐘鳴。住持出堂。次頭首出。如坐再請禪住持後門入。歸位不巡堂。頭首隨眾。或抽解者即歸被位。更深住持出。聞首座開枕響。眾方偃息。在道兄弟不以此拘。次早三下板鳴眾起。聖僧侍者牽堂內手巾轆轤。驚酣眠者。起洗面眾歸堂已。首座入燒香巡堂。次住持入燒香巡堂。四鼓鳴住持出。鍾鳴首座

出。以次頭首與大眾暫從後門出。換衣換頭袖抽解即歸守被位。或首座再入堂巡被位。鍾絕開靜板鳴眾方摺被。惟首座被係供頭摺。眾各隨意出堂。禮念亦兼修也。

請益

凡欲請益者先稟侍者。通覆住持。某甲上座金晚欲詣方丈請益。如允所請定鍾後詣侍司。候方丈秉燭裝香。侍者引入住持前問訊插香。大展九拜。收坐具進云(某為生死事大無常迅速。伏望和尚慈悲方便開示)肅恭側立諦聽垂誨畢。進前插香大展九拜。謂之謝因緣。免則觸禮。次詣侍司致謝。

赴齋粥

早晨聞開靜板。後齋時候巡火板鳴。先歸鉢位。入堂時聖僧前問訊訖。合掌歸位。上床時問訊隣位。先以右手斂左邊衣袖腋下壓定。復以左手斂右邊衣袖。然後兩手按床。兩足撥鞋入床下。先縮左足。次收右足。竦身上床近裏一尺許正坐。敷袈裟蓋膝上。不得露內衣。不得垂衣床緣(詳見日用軌範)都監寺維那直歲侍者等位。在外堂上問。知客知浴知殿化主堂主等位。在外堂下間。古規每日住持赴堂。早粥時先於堂外坐。待堂前鳴鍾即入堂。大眾齋下床普同問訊就坐。近時諸方住持大鍾鳴時。先入堂坐。至堂前鍾鳴。方下地普同問訊。只遇五但望講行一次。新入眾者不知所自。先輩嘗議。下床問訊者。謂諸寮與大眾普同問訊也。以此論之。凡有眾處。必當日日早晨下床問訊為允。

赴茶湯

凡住持兩序特為茶湯禮數勤重。不宜慢易。既受請已依時候赴。先看照牌明記位次。免致臨時倉遑。如有病患內迫不及赴者。托同赴人白知。惟住持茶湯不可免。慢不赴者不可共住。

普請

普請之法蓋上下均力也。凡安眾處有必合資眾力而辦者。庫司先稟住持。次令行者傳語首座維那。分付堂司行者報眾掛普請牌。仍用小片紙書貼牌上云(某時某處)或聞木魚或聞鼓聲。各持絆膊搭左臂

上。趨普請處宣力。除守寮直堂老病外。並宜齊赴。當思古人一日不作一日不食之誡。

日用軌範

無量壽禪師述序曰。脫塵離俗圓頂方袍。大率經歷叢林。切要洞明規矩。舉措未諳法度。動止不合律儀。縱有善友良朋。詎肯深錐痛箚。循習成弊改革固難。致令叢席荒涼。轉使人心懈怠。屢見尋帝目前過患。遂集百丈成規楷模。原始要終從朝至暮。要免頭頭敗闕。直須一一遵行。然後敢言究己明心了生達死。世間法即是出世間法。行脚人可貽未行脚人。庶幾不負出家身心。抑亦同報佛祖恩德。謹列于后。

入眾之法睡不在人前。起不落人後五更鍾未鳴輕輕撻身先起將枕子安脚下未要拗恐驚隣單。抖擻精神將身端坐。不得扇風令人動念。覺困來將被推脚後。取手巾轉身下地。巾搭左手念偈云(從朝寅旦直至暮。一切眾生自回互。若於脚下喪身形。願汝即今生淨土)輕手揭簾出後架。不得拖鞋咳嗽作聲。古云(揭簾須垂後手出堂。切忌拖鞋)輕手取盆洗面。湯不宜多。右手蘸齒藥揩左邊。左手蘸揩右邊。不可再蘸。恐牙宣口氣過人。漱口須低頭。吐水以手引下直腰吐水。恐濺隣桶。不得洗頭。有四件自他不利(一污桶。二膩巾 。三枯髮。四損眼)不得鼻內作聲。不得噴水撲面。不得高聲嘔吐。不得以唾涕污面桶。古云(五更洗面本為修行。嘔吐拖鞋喧堂聒眾)拭面不得爭扯手巾 。不得以巾拭頭。用畢須攤掛。或焙火上。在上堂左足先入。在下堂右足先入。上被位。眠單收一半坐定。若換直裰須將新者覆上抽去舊裰。不得露白不得扇風。若欲燒香禮拜。宜於鍾鳴時。將袈裟藏袖內。出後門外披。平常亦離被位披袈裟。合掌頂戴。想念偈云(善哉解脫服。無相福田衣。我今頂戴受。世世常得披。唵悉陀耶娑訶)摺袈裟先摺搭手處後解環。不得以口銜袈裟。不得以頷勾袈裟。摺了亦當問訊而去。如殿堂禮拜不得占 中央妨住持人來。不得出聲念佛。不得行禮拜人頭邊過。須行後面空處。五更鍾鳴。想念偈云(願此鍾聲超法界。鐵圍幽暗悉皆聞。三途離苦罷刀輪。一切眾生成正覺)住持并首座坐堂時。不得從前門出入。開小靜方摺被拘枕子。摺被之法先尋兩角以手理伸向前。先摺一半。次摺身前一半。不得橫占隣單。亦不得抖擻作聲。不得以被扇風。或歸眾寮喫湯藥。或茶堂經行次第歸鉢位。以上肩順轉(謂左肩也)若前門從南頰入。不得行北頰并中央。蓋尊住持也。木魚響不得入堂。或令行者取鉢。堂外坐。或歸眾寮打給入堂歸鉢位。須低頭問訊上中下座。若已先坐上中下座來須合掌。古云(不敬上中下座。婆羅門聚會無殊)聞木魚後長板鳴。下鉢撻身正起立定。然後轉身。亦

要順上肩合掌方取鉢。一手解鉤左手提鉢。轉身令正蹲身放鉢。免將腰背撞人。堂前鍾鳴下床為迎住持入堂大眾普同問訊。不得以手左右搖曳。下床時須近前問訊。莫令袈裟搭床緣。仍須低細。上床不得頓身取鉢安座前。聞椎聲想念偈云(佛生迦毘羅。成道摩竭陀。說法波羅柰。入滅拘絺羅)展鉢之法先合掌想念偈云(如來應量器。我今得敷展。願共一切眾。等三輪空寂)然後解袱帕展淨巾覆膝。帕摺轉三角。莫令出單外。先展鉢單。仰左手取鉢安單上。以兩手大拇指。迸取鎮子。從小次第展。不得敲磕作聲。仍護第四第五指為觸指不得用。鉢拭摺令小。并匙筯袋近身橫放。入則先匙出則先筯。手把處為淨頭。向上肩。鉢刷安第二鎮子縫中。出半寸許盛生飯。不得以匙筯出生飯。不過七粒。太少為慳食。凡受食則用出生。或不受食。却不可就桶杓內撮飯出生。維那念佛合掌。手指不得參差。須當胸高低得所。不得以手托口邊。古云(參差合掌不當胸。兩手交加插鼻中。挖履揭簾無疑細。嘔聲泄氣逞英雄)兩手捧鉢受食想念偈云(若受食時。當願眾生。禪悅為食。法喜充滿)或多或少則以右手起止之。聞遍食椎看上下肩。以面相朝揖食。不得正面以手搖曳兩邊。揖罷作五觀想念云(一計功多少量彼來處。二忖己德行全缺應供。三防心離過貪等為宗。四正事良藥為療形枯。五為成道業故應受此食)次出生想念偈云(汝等鬼神眾。我今施汝供。此食遍十方。一切鬼神供)喫食之法不得將口就食。不得將食就口。取鉢放鉢并匙筯不得有聲。不得咳嗽。不得搐鼻噴嚏。若自噴嚏當以衣袖掩鼻。不得抓頭。恐風屑落隣單鉢中。不得以手挑牙。不得嚼飯啜羹作聲。不得鉢中央挑飯。不得大摶食。不得張口待食。不得遺落飯食。不得手把散飯食。如有菜滓安鉢後屏處。不得以風扇隣位。如自己怕風。即白維那於堂外坐。不得以手枕膝上。隨量受食。不得請折。不得將頭鉢盛濕食。不得將羹汁於頭鉢內淘飯喫。不得挑菜頭鉢內和飯喫。食時須看上下肩不得太緩。未再請不得刷鉢盂。不得吮鉢刷作聲。食未至不得坐煩惱。古云(獃獃四顧起悲嗔。念食吞津咳嗽頻。摝粥啜羹包滿口。開單展鉢響諸隣)洗鉢以頭鉢盛水。次第洗鎮子。不得頭鉢內洗匙筯并鎮子。仍屈第四第五指。不得盥漱作聲。不得吐水鉢中。不得先以熟水洗鉢未折鉢水。不得先收蓋膝巾。不得以膝巾拭汗。不得以餘水瀝地上。折水想念偈云(我此洗鉢水。如天甘露味。施與鬼神眾。悉令得飽滿。唵摩休羅細娑婆訶)收鉢以兩手大指。迸定次第而入複畢。合掌想念食畢。偈云(飯食已訖色力充。威震十方三世雄。回因轉果不在念。一切眾生獲神通)寮前板鳴歸寮。問訊不歸位。為輕侮大眾。入門歸位如僧堂之法。立定候寮主燒香畢。門訊上下。若有茶就座不得垂衣。不得聚頭笑語。不得隻手揖人。不得包藏茶末。古云(登床宴坐。不得垂衣。隻手揖人。是何道理。私藏茶末。取笑傍觀。時中隣案道人。切忌交頭接耳)茶罷或看經。不得長展經(謂三面也)不得手托經寮中行。

不得垂經帶。不得出聲。不得背靠板頭看經。古云(出聲持誦[阿-可+少]梁稠人。背靠板頭輕欺大眾)須預先出寮。莫待打坐禪板。若抽脫古例披五條(即掛絡也)以淨巾搭左手。解絛繫笊竿上。脫五條直裰令齊整。以手巾繫定作記認。不得笑語。不得在外催促。右手提水入廁。換鞋不得參差。安靜桶在前鳴指三下。驚嗽糞鬼。蹲身令正。不得努氣作聲。不得涕唾。不得隔壁共人語話。古云(戶扃只合輕彈指。人擁那堪亂作聲。入廁用籌分觸淨。出時脫履忌縱橫)不得以水澆兩邊。左手洗淨護大指第二第三指。不得多用籌子。古云(浴湯少使籌子休拈)有者使了。以水洗之安廁邊空處。人多則妨眾。不宜長久。淨桶安舊處。以乾手安內衣入袴。以乾手開門。左手提桶出。不得濕手拏門扇并門頰上。右手挑灰後挑土。不得以濕手拏灰土。不得吐唾和泥。洗手然後用皂角。洗至肘前須一一念呪。按大藏纓絡經云。夫登溷者不念此呪。假使以十恒河水洗至金剛際。亦不能淨。凡登殿堂瞻禮並無利益。奉勸受持每誦七遍。是故鬼神常相拱護。入廁(唵根魯陀耶娑訶)洗淨(唵賀曩密栗底婆訶)淨手(唵主伽囉耶娑訶)淨身(唵室利曳娑醯娑訶)去穢(唵[口*友]折囉曩伽吒娑訶)末用。水盥漱律中小遺亦洗淨。仍嚼楊枝歸堂坐禪火板未鳴不得先歸寮。齋前不得洗衣。粥前齋前放參後不得開函櫃。如有急切白主事人。寮中白寮主。僧堂白聖僧侍者。齋罷不得僧堂內聚頭說。話。不得在僧堂中看經看冊子。不得上下間行道穿堂直過。不得席上穿錢。不得床上垂脚坐。床前一尺為三淨頭。一展鉢。二安袈裟。三頭所向。不得床上行。不得跪膝開函櫃。不得脚踏床緣下地。草履五條。遊山不得經行佛殿法堂。古云(衩袒登溷草履遊山。莫踐法堂回互耆舊)不得赤脚著僧鞋。不得把手共行說世諦是非。古云(別了雙親棄本師。訪尋知識擬何為。不曾說著宗門事。白首無成過在誰)不得殿堂倚靠闌干。不得猖狂急走。古云(行須緩步習馬勝之威儀。語要低聲學波离之軌範)不得佛殿閑行。古云(無事不須登佛殿。等閑莫向塔中行。不因掃地添香水。縱有河沙福也傾)齋後漿洗衣服。不得衩袒。不得傾瓶湯泡衣。竹竿熨斗使了安元處。洗脚板鳴不得爭奪脚桶。有瘡疥則隨後洗。或屏處洗之。各行方便免動眾念。莫待打板。次第歸堂坐參了。各出半單下地。講大放參。首座寮前板鳴。即時轉身向外。須當及時赴堂。板鳴後不得入堂。亦不得堂外立。住持首座出堂。開單下床問訊歸寮。藥石各就案位。不得先起盛食。不得高聲呼索粥飯鹽醋之類。食罷出寮。不得出三門。不得入小寮。不得衩袒歸僧堂并廊下行。不得候打板出寮。昏鐘鳴即合掌默念。偈云(聞鐘聲煩惱輕。智慧長菩提生。离地獄出火坑。願成佛度眾生)須先歸單位坐禪。不得床上抓頭。不得床上弄數珠作聲。不得與隣單語話。隣單生疎當以善言誘喻。不得生嫌惡心。打定鐘後不得於前門出入。候首座開枕後。困重者就寢。睡須右脇。不得仰臥。仰

為屍睡。覆為[泳-永+(瑤-王)]睡多惡夢。以被巾裹袈裟安枕前。今人多安脚後於理不便。如開浴浴具携右手。入下間門內問訊歸空處揖左右人畢。先以五條手巾。掛笊竿上。展浴袱取出浴具放一邊解上衣。未卸直裰。先脫下面裙裳。以脚布圍身。方可繫浴裙將裩袴捲摺安袱內。次第脫直裰與五條作一處。將手巾繫之。古云(三通鼓響入堂時。觸淨須分上下衣)其所脫衣作一袱覆轉方換拖鞋不得赤脚入浴。須於下間空處待次而浴。不得占頭首老宿坐處(謂上間也)不得以湯水濺人身上不得桶內泡脚。不得室內小遺。不得架脚桶上不得笑語。不得槽上揩脚。不得舀水。不得起身裰桶澆身上。前後有人須當遮護。脚布不得離身。有脚不入桶者。不得多用湯。或有瘡。或洗灸瘡。或使疥藥。宜後入浴。不得攙先。不得以兩邊公界手巾拭頭面。公界手巾係著衣後淨手拭之以披五條也。出浴揖左右。上床面壁少坐。先著上衣并直裰。都遮了下地。却著下裳。解浴裙以脚布摺浴裙內。恐濕浴袱。手巾携左手揖左右出。看設浴施主名字。隨意課誦經呪回向。寒月向火先坐爐圈上。然後轉身正坐。揖上下肩。不得弄香匙火筯。不得撥火飛灰。不得聚頭說話。不得煨點心等物。不得炙鞋焙屨烘衣裳。不得攬起直裰露袴口。不得吐唾并彈垢膩於火內。如前所集。一日事件眾中威儀。非敢聞於老成聊以誘於初學。升堂入室小參諷經念誦巡寮解結人事裝包頂笠送亡唱衣應係微細軌則清規既已具載。尊宿各有明文。不再備陳徒為贅語。

龜鏡文

慈覺大師賾公述。夫兩桂垂陰一華現瑞。自爾叢林之設要之本為眾僧。是以開示眾僧故有長老。表儀眾僧故有首座。荷負眾僧故有監院。調和眾僧故有維那。供養眾僧故有典坐。為眾僧作務故有直歲。為眾僧出納故有庫頭。為眾僧典翰墨故有書狀。為眾僧守護聖教故有藏主。為眾僧迎待檀越故有知客。為眾僧請召故有侍者。為眾僧守護衣鉢故有寮主。為眾僧供侍湯藥故有堂主。為眾僧浣濯故有浴主水頭。為眾僧禦寒故有炭頭爐頭。為眾僧乞丐故有街坊化主。為眾僧執勞故有園頭磨頭莊主為眾僧滌除故有淨頭。為眾僧給侍故有淨人。所以行道之緣十方備足。資身之具百色現成。萬事無憂一心為道。世間尊貴物外優閑。清淨無為眾僧為最。迴念多人之力。寧不知恩報恩。晨參莫請不舍寸陰。所以報長老也。尊卑有序舉止安詳。所以報首座也。外遵法令內守規繩。所以報監院也。六和共聚水乳相參。所以報維那也。為成道業故應受此食。所以報典座也。安處僧房護惜什物。所以報直歲也。常住之物一毫無犯。所以報庫頭也。手不把筆如救頭然。所以報書狀也。明窓淨案古教照

心。所以報藏主也。韜光晦迹不事追陪。所以報知客也。居必有常請必先到。所以報侍者也。一瓶一鉢處眾如山。所以報寮主也。寧心病苦粥藥隨宜。所以報堂主也。輕徐靜默不昧水因。所以報浴主水頭也。緘言拱手退己讓人。所以報炭頭爐頭也。忖己德行全缺應供。所以報街坊化主也。計功多少量彼來處。所以報園頭磨頭莊主也。酌水運籌知慚識愧。所以報淨頭也。寬而易從簡而易事。所以報淨人也。是以叢林之下道業惟新。上上之機一生取辦。中流之士長養聖胎。至如未悟心源。時中亦不虛棄。是真僧寶為世福田。近為末世之津梁。畢證二嚴之極果。若或叢林不治法輪不轉。非長老所以為眾也。三業不調四儀不肅。非首座所以率眾也。容眾之量不寬愛眾之心不厚。非監院所以護眾也。修行者不安敗群者不去。非維那所以悅眾也。六味不精三德不給。非典座所以奉眾也。寮舍不修什物不備。非直歲所以安眾也。畜積常住減剋眾僧。非庫頭所以贍眾也。書狀不工文字箋裂。非書狀所以飾眾也。几案不嚴喧煩不息。非藏主所以待眾也。憎貧愛富重俗輕僧。非知客所以贊眾也。禮貌不恭尊卑失序。非侍者所以命眾也。打疊不勤守護不謹。非寮主所以居眾也。不閑供侍惱亂病人。非堂主所以恤眾也。湯水不足寒暖失宜。非浴主水頭所以浣眾也。預備不前眾人動念。非爐頭炭頭所以向眾也。臨財不公宣力不盡。非街坊化主所以供眾也。地有遺利人無全功。非園頭磨頭莊主所以代眾也。懶墮併除諸緣不具。非淨頭所以事眾也。禁之不止命之不行。非淨人所以順眾也。如其眾僧輕師慢法取性隨緣。非所以報長老也。坐臥參差去就乖角。非所以報首座也。意輕王法不顧叢林。非所以報監院也。上下不和鬪諍堅固。非所以報維那也。貪婪美膳毀訾麁飡。非所以報典座也。居處受用不思後人。非所以報直歲也。多貪利養不恤常住。非所以報庫頭也。事持筆硯馳騁文章。非所以報書狀也。慢易金文看尋外典。非所以報藏主也。追陪俗士交結貴人。非所以報知客也。遺忘召請久坐眾僧。非所以報侍者也。以已方人慢藏誨盜。非所以報寮主也。多嗔少喜不順病緣。非所以報堂主也。桶杓作聲用水無節。非所以報浴主水頭也。身利溫暖有妨眾人。非所以報爐頭炭頭也。不念修行安然受供。非所以報街坊化主也。飽食終日無所用心。非所以報園頭磨頭莊主也。涕唾牆壁狼籍東司。非所以報淨頭也。專尚威儀宿無善教。非所以報淨人也。蓋以旋風千匝尚有不周。但知舍短從長。共辦出家之事。所冀獅子窟中盡成獅子。旃檀林下純是旃檀。令斯後五百年再覩靈山一會。然則法門興廢繫在僧徒。僧是福田所應奉重。僧重則法重。僧輕則法輕。內護既嚴外護必謹。設使粥飯主人一期王化。叢林執事偶爾當權。常宜敬待同袍。不得妄自尊大。若也貢高我慢私事公酬萬事無常。豈能長保。一朝歸眾何

面相看。因果無差恐難迴避。僧為佛子應供無殊。天上人間咸所恭敬。二時粥飯理合精豐。四事供需毋令缺少。世尊二千年遺蔭蓋覆兒孫。白毫光一分功德受用不盡。但知奉眾不可憂貧。僧無凡聖通會十方。既曰招提。悉皆有分。豈可妄生分別輕厭客僧。旦過寮三朝權住盡禮供承。僧堂前暫爾求齋。等心供養。俗客尚猶照管。僧家忍不逢迎。若無有限之心。自有無窮之福。僧門和合上下同心。互有短長遞相蓋覆。家中醜惡莫使外聞。雖然於事無傷。畢竟減人瞻仰。譬如獅子身中蟲自食獅子身中肉。非天魔外道所能壞也。若欲道風不墜。

佛日長明。壯祖域之光輝。補
皇朝之聖化。願以斯文為龜鏡焉。

病僧念誦

凡有病僧。鄉人道舊對病者榻前。排列香燭佛像。念誦贊佛云(水澄秋月現。懇禱福田生。惟有佛菩提。是真歸依處。今晨則為在病比丘某甲。釋多生之冤對。懺累劫之愆尤。特運至誠仰投清眾。稱揚聖號蕩滌深殃。仰憑尊眾念。清淨法身毘盧十號云云)回向云(伏願。一心清淨四大輕安。壽命與慧命延長。色身等法身堅固。再勞尊眾念。十方三世云云)如病重為十念阿彌陀佛。念時先白贊云(阿彌陀佛真金色。相好端嚴無等倫。白毫宛轉五須彌。紺目澄清曰大海。光中化佛無數億。化菩薩眾亦無邊。四十八願度眾生。九品咸令登彼岸。今晨則為在病比丘某甲。釋多生之冤對。懺累劫之愆尤。特運至誠仰投清眾。稱揚聖號蕩滌深殃。仰憑尊眾念。南無阿彌陀佛一百聲。觀世音菩薩大勢至菩薩。清淨大海眾菩薩各十聲)回向云(伏願在病比丘某甲。諸緣未盡早遂輕安。大命難逃徑生安養。十方三世云云)當念佛時眾宜攝心清淨。不得雜念攀緣。

抱病僧某。右某本貫某州某姓幾
口　歲給到某處度牒為僧。某年到某
寺掛搭。今來抱病。恐風火不定。所
有隨身行李合煩公界抄劄。死後
詞　望依叢林清規津送。
年　月　日抱病僧　某甲口詞

亡僧

抄劄衣鉢

凡有僧病革。直病者即白延壽堂主。稟維那請封行李。堂司行者覆首座頭首知事侍者。同到病人前抄寫口詞。直病者同執事人。收拾

經櫃函櫃衣物。抄劄具單。見數一一封鎖外。須留裝亡衣服(直綴掛絡內外衣裳數珠香合脚絣鞋篾淨髮巾收骨綿子等)合用之物併作一處包留。延壽堂主同直病者收掌。或病者不能分付。維那首座力當主行。無行李者亦須盡禮津送。單帳鎖匙封押納首座處所封行李。首座維那知客侍者四寮人力擡歸堂司。若單寮勤舊行李多者封起。只留本房庫司差人看守。亡僧非生前預聞住持兩序勤舊。及無親書不可擅自遺囑衣物(大川和尚住淨慈時。首座維那偽作亡僧遺囑衣物。嘗被擯逐)如病僧瞑目。延壽堂主即報維那。令堂司行者報燒湯。覆首座知客侍者庫司。差人擡龕浴船。安排浴亡浴畢。淨髮拭浴衣被。酌量俵浴亡人。手巾與淨髮人。維那提督著衣入龕。置延壽堂中鋪設椅卓位牌。牌上書云(新圓寂某甲上座覺靈。或西堂則書前住某寺某號某禪師之靈。餘隨職稱呼書之)備香燈供養。現前僧眾諷大悲呪。回向安位。夜點長明燈。堂司行者預造雪柳幡花。直靈行者每日上粥飯。知事三時上茶湯。燒香齋粥殿堂諷經罷。及放參罷。堂司行者即鳴手磬前引。首座領眾至龕前。住持燒香畢。維那舉大悲呪。回向云(上來諷經功德奉為新圓寂某甲上座莊嚴報地十方三世云云)次鄉人舉呪。鄉長出燒香。每日三時禮同。除公界回向稱雙字名。餘只稱單字名。回向同前。如遇旦望及景命日免諷經。未可出喪。

請佛事

秉炬必請住持舉佛事。其餘鎖龕起龕起骨入塔佛事。維那稟首座。商量依資次。輪請頭首為之。仍用小片白紙。寫帖子云(新圓寂某甲上座某州人　秉炬　佛事　堂頭和尚堂司比丘云某　拜請　其餘佛事並准此寫)若亡者是西堂單寮勤舊衣鉢稍豐。則添奠茶湯轉龕轉骨等佛事。輪請單寮西堂首座及本山江湖名勝。維那備盤袱爐燭香一片。帶行者詣方丈。插香觸禮一拜。稟云(某甲上座圓寂某日茶毘。拜請和尚秉炬)呈納帖子而退。請頭首禮同。堂司置佛事簿。以備稽考輪請。

估衣

維那分付堂司行者。請住持兩序侍者就堂司。或就照堂對眾呈過包籠。開封出衣物。排地上席內。逐件提起呈過維那。估直首座折中知客侍者上單。排字號就記價直。在下依號寫標。貼衣物上入籠。仍隨號依價。逐件別寫長標。以備唱衣時用。方丈兩序諸寮舍。並不許以公用為名分去物件。常住果有必得用者。依價於抽分錢內准。或亡僧衣鉢稍豐。當放低估價利眾以薦冥福。

大夜念誦

來早出喪。隔日午後堂司行者覆住持兩序報眾。掛念誦牌。預報庫司造祭食差人。鋪排祭筵。鄉人法眷作祭文納庫司錢回祭。備小香三片。上祭用。若亡僧是大方名德。西堂單寮勤舊。有功山門。住持兩序有祭。維那讀祭文。放參罷。鳴僧堂鐘集眾。龕前念誦知事先燒香上茶湯。住持至燒香居東序上首立。維那出燒香請鎖龕佛事。受請人出班燒香退身問訊。次住持前問訊。轉東序前問訊。巡至班末問訊。次西序前問訊。然後與大眾普同問訊。從西序末過。若見職頭首。各依本位空處過至龕右側立。堂司行者以牌托鎖候。舉佛事畢。行者以鎖鎖龕畢。住持覆位。維那出几前左邊揖住持兩序。上香畢。維那向龕念誦云(切以。生死交謝寒暑迭遷。其來也電擊長空。其去也波停大海。是日則有新圓寂某甲上座。生緣既盡大夢俄遷。了諸行之無常。乃寂滅而為樂。恭裒大眾肅詣龕幃。誦諸聖之洪名。薦清魂於淨土。仰憑大眾念清淨法身毘盧云云)舉大悲呪。回向云(上來念誦諷經功德。奉為新圓寂某甲上座。伏願。神超淨域業謝塵勞。蓮開上品之花。佛受一生之記。再勞大眾念十方三世一切云云)知客平舉楞嚴呪。回向云(上來諷經功德。奉為新圓寂某甲上座莊嚴報地。十方三世云云)住持仍歸東序上首立。江湖道舊鄉人法眷次第設祭。末舉大悲呪。回向與知客同。

送亡

凡出喪庫司預分付監作行者。辦柴化亡。差撥行僕。鐃鈸鼓樂幡花香燭擡龕喪儀一切齊備。堂司行者隔宿覆住持兩序。掛送亡牌。次早行粥遍食椎後再鳴椎一下云(白大眾。粥罷普請送亡。除守寮直堂外並當齊赴。謹白)又鳴椎一下出聖僧前問訊。次住持前問訊畢。從首座板起巡堂一匝。至外堂歸內堂問訊而出。如遇。
聖節內。不可白椎。堂司行者徑覆住持兩序。粥罷報堂云(請首座大眾。聞鐘聲延壽堂諷經)鳴僧堂鐘眾集維那念誦。宜略緊念云(欲舉靈龕赴茶毘之盛禮。仰憑大眾誦諸聖之洪名。用表攀違上資覺路。念清淨法身毘盧遮那佛)畢住持轉東序上首立。維那出燒香請起龕佛事舉畢。行者鳴鈸擡龕出山門首。若奠茶湯轉龕。龕則向裏安排香几。首座領眾兩行排立。維那炷香請佛事。候舉佛事而行。如不轉龕。徑出門外維那向裏合掌而立。舉往生呪。大眾同念。兩兩次第合掌而出。各執雪柳。行者排立門外。低頭合掌。待揖僧眾行盡。亦隨後送。維那隨龕。都寺押喪。

茶毘

喪至涅槃臺。知事燒香上茶。次住持上香歸位。維那出燒香請住持秉炬佛事。直歲問訊度火把。候舉佛事畢。維那向龕念誦云(是日則有新圓寂某甲上座。既隨緣而順寂。乃依法以茶毘。焚百年弘道之身。如一路涅槃之徑。仰憑尊眾資助覺靈。南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛。十聲罷。上來稱揚十念資助往生。惟願。慧鏡分輝真風散彩。菩提園裏開敷。覺意之花。法性海中蕩滌塵心之垢。茶傾三奠香爇一爐。奉送雲程。和尚聖眾)　知事候念茶傾香爇時。躬出傾爇。表山門禮。維那就行之非禮也。舉大悲呪。回向云(上來念誦諷經功德。奉為新圓寂某甲上座茶毘之次莊嚴報地。十方三世一切云云)知客平舉楞嚴呪。回向同前(但無念誦二字)鄉人法眷諷經回向(亦同)。

唱衣

茶毘後堂司行者覆住持兩序侍者。齋罷僧堂前唱衣。仍報眾掛唱衣牌。候齋下堂排辦僧堂前。住持首座分手位兩序對坐。入門向裏橫安卓橙。卓上仍安筆硯磬剪掛絡合用什物。地上鋪席俱畢。堂司行者覆住持兩序侍者鳴鐘集眾。維那知客侍者同入堂歸位向裏列坐。堂司行者供頭喝食眾行者一行排列。向住持兩序問訊。轉身向維那知客侍者問訊畢。扛包籠住持兩序前。巡呈封記。於首座處請鎖匙呈過。開取衣物照字號。次第排席上。空籠向內側安。維那起身鳴磬一下。念誦云(浮雲散而影不留。殘燭盡而光自滅。今茲估唱用表無常。仰憑大眾奉為某甲上座資助覺靈往生淨土。念清淨法身毘盧遮那佛云云)十號畢鳴磬一下云(夫唱衣之法蓋稟常規。新舊短長自宜照顧。磬聲斷後不許翻悔。謹白)再鳴磬一下。拈度牒。於亡僧名字上。橫剪破云(亡僧本名度牒一道對眾剪破)鳴磬一下。付與行者。捧呈兩序。維那解袈裟安磬中。却換掛絡。堂司行者依次第拈衣物。呈過遞與。維那提起云。某號某物一唱若干。如估一貫。則從一伯唱起。堂司行者接聲唱眾中應聲。次第唱到一貫。維那即鳴磬一下云(打與一貫)餘號並同。或同聲應同價者行者喝住云(雙破)再唱起鳴磬為度。堂司行者問定某人名字。知客寫名上單。侍者照名發標。付貼供行者。遞與唱得人。供頭行者仍收衣物入籠。一一唱畢鳴磬一下。回向云(上來唱衣念誦功德。奉為圓寂某甲上座莊嚴報地。再勞尊眾。念十方三世云云)近來為息喧亂。多作鬮拈法(見住持章)衣物過三日不取者照價。出賣造板帳。

增輝記云。佛制分衣意。令在者見其亡物分與眾僧。作是思惟。彼既如斯。我還若此。因其對治息貪求故。今不省察。翻於唱衣時爭價喧呼。愚之甚也。

入塔

茶毘後執事人鄉曲法眷同收骨。以綿裹袱包函貯封定迎。歸延壽堂(位牌上去新字)三時諷經。第三日午後出板帳於僧堂前。令眾通知(如不合成式及有侵欺。許以禮覆上下覆實改。若無實迹不得紊繁。違者合擯罰。為住持及執事者。須公廉平允。以身率先服眾。可也)出板帳畢。堂司行者預報眾掛送灰牌。至期鳴鐘集請起骨佛事送至塔所請入塔佛事。入畢知事封塔。維那舉大悲呪。回向云(上來諷經功德。奉為圓寂某上座入塔之次莊嚴報地。十方云云)知客平舉楞嚴呪。鄉人諷經回向並同。◎

勅修百丈清規卷第六終

勅修百丈清規卷第七

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訴奉　勅校正

◎

板帳式

今具估唱亡僧某甲稱呼衣鉢鈔收支下項。

一收鈔一千貫文(係唱衣鈔收到。或別有收鈔名目。逐一列寫)

支鈔九十一貫文(係板帳支行)開具內一十五貫文(回龕)

三貫文(回祭)　三貫文(設粥)

一貫文(龕前燈油)　十貫文(筆紙造單幡花雪柳)

一貫文(淨髮)　二貫伍伯文(移龕擡亡)

伍伯文(燒浴湯)　二貫文(浴亡)

一貫文(直靈上粥飯)　伍伯文(庫司客頭報造祭)

伍伯文(釘掛祭筵)　伍伯文(管計出椀楪)

伍伯文(庫子出給造祭)　伍伯文(監厨造食)

伍伯文(庫司茶頭上茶湯)　伍伯文(參頭差撥行者)

二貫文(堂司行者報眾)　伍伯文(監作差撥又力)

伍伯文(方丈聽叫捧香合)　十貫文(行堂諷經)

一貫文(貼堂司行者鳴廊板)　二貫文(四寮茶頭供應)

一十伍貫文(舁龕)　一貫文(打鈸)

三貫文(鼓樂)　三貫文(扛香卓挑幡燈六人)

伍伯文(俵雪柳柴枝)　一貫文(化亡)

三貫文(方丈一行人僕送喪)　一貫文(四寮人力扛橙卓)

伍伯文(貼堂司行者呈衣)　伍伯文(堂司行者唱衣)

伍伯文(貼供頭遞唱衣標)　伍伯文(供頭收衣)

伍伯文(唱食行者撮鬮)　伍伯文(收骨)

一貫文(擡灰函)　一貫文(直塔)共支行

支鈔二伯七十貫文(係板帳支行外三七抽分歸常住。計上件支行)

支鈔一伯三十伍貫文(佛事錢)

開具內二十貫(秉炬)

一十貫(貼秉炬佛事)　四十貫(鎖龕起龕起骨入塔)

二十貫(貼上四項佛事)　三十貫(維那山頭佛事知客侍者把帳)

一十伍貫(貼上三項佛事)　共支行

支鈔一十伍貫文(首座主喪。都寺押喪。維那主磬。各伍貫文。計上件支行)
支鈔九貫文(知客舉經侍者捧香。合各三貫。聖僧侍者收唱衣錢二貫。直歲度火把一貫計上件支行)
支鈔一十伍貫文(方丈兩序堂司行者。抄劄估衣造單三次次點心方丈雙分。計上件支行)
支鈔二十貫文(方丈兩序僉單。方丈雙分。計上件支行)
支鈔四伯四十四貫伍伯文(係俵眾經錢觀音大士聖僧方丈雙分。僧眾約四百員。各一貫文。堂司行者隨僧臘在假并暫到。約七十九人半分。各伍伯文。共支行)
除支外見管鈔伍伯文(收堂司公用)
右具如前

年　月　日堂司行者　某　具
把帳　侍者　某押　知客　某押
直歲　知殿
典座　知浴
副寺　藏主
維那　藏主
副寺　書記
監寺　首座
都寺　首座　某押(兩序並同)
住持　押

板帳之設。蓋古者凡立成式必書諸板。示不可移易也。故叢林亡僧有板帳焉。凡僧亡以其所有衣物。對眾估唱懲貪積也。估唱得錢必照板帳。支用外其錢作三七。抽分歸常住(百貫抽三十貫。不滿百貫則不抽分)餘則均俵僧眾。經資一伯則佛事一貫。方丈倍之。以一千貫為率條列于前。約其成式多則增而上之。少則降而殺之。臨時又量眾。隨宜以斟酌之(或勤舊有田地米穀房舍床榻卓橙當盡歸常住。仍量唱衣錢寡多。則排日俵臘諷經看經添奠茶湯轉龕骨等佛事)。

大眾章終

節臘章第八

僧不序齒而序臘以別俗也。西域三時以一時為安居。出入有禁止。凡禪誦行坐依受戒先後為次。而制以九旬策勳于道。以三旬營資身之具。使內外均養身心俱安也。剋期進修不捨寸陰。護惜生命行兼慈忍。旨哉聖訓萬世永遵。而五竺地廣暑寒霖潦氣候之弗齊。故結制有以四月五月十二月。然皆始以十六日。所謂雨安居者。因地隨時惟適之安。或曰坐夏或曰坐臘。戒臘之義始此。如言驗蠟人氷以坐臘之人。驗其行猶氷潔。或謂埋蠟人於地。以驗所修之成虧者。

類淫巫俚語庸非相傳之訛耶。且吾所修證聖不能窺。豈外物可測其進退哉。今禪林結制以四月望。解以七月望者　若先一日講行禮儀而期內得專志於道故略繁文。亦隨方毘尼。或議不如法而不知其得法外意也。中土以冬為一陽之始。歲為四序之端。物時維新人情胥慶。禮貴同俗化在隨宜故。以結解冬年為四大節。周旋規矩。聳觀龍象之筵。主賓唱酬。兼聞獅子之吼。禮文秩猗歟盛哉。

夏前出草單

叢林以三月初一日。出草單。見後方丈止掛搭。堂司依戒臘牌寫僧數。令行者先呈首座。次呈住持。兩序掛僧堂前。備卓子列筆硯于下。凡三日皆齋後出。或有差誤請自改正。蓋防初上床曆。一時恐有錯亂。又眾多或致漏落。將寫圖帳故先具草單。各當自看本名戒次高下。近來好爭作鬧者。往往恃強挾私。爭較名字。是非互相塗抹。喧譁撓眾犯者合擯。果有冒名越戒者。惟當詳稟。維那首座。覆住持處置。

草單式(戒次朱書名字墨書)

清眾戒臘　威音王戒　陳如尊者
堂頭和尚　至元幾戒　元貞幾戒
某甲上座　某甲上座　大德幾戒
至大幾戒　某甲上座　某甲上座

右具如前。恐有差誤請自改正。伏幸眾悉。

今月　日　堂司　某　具

新掛搭人點入寮茶

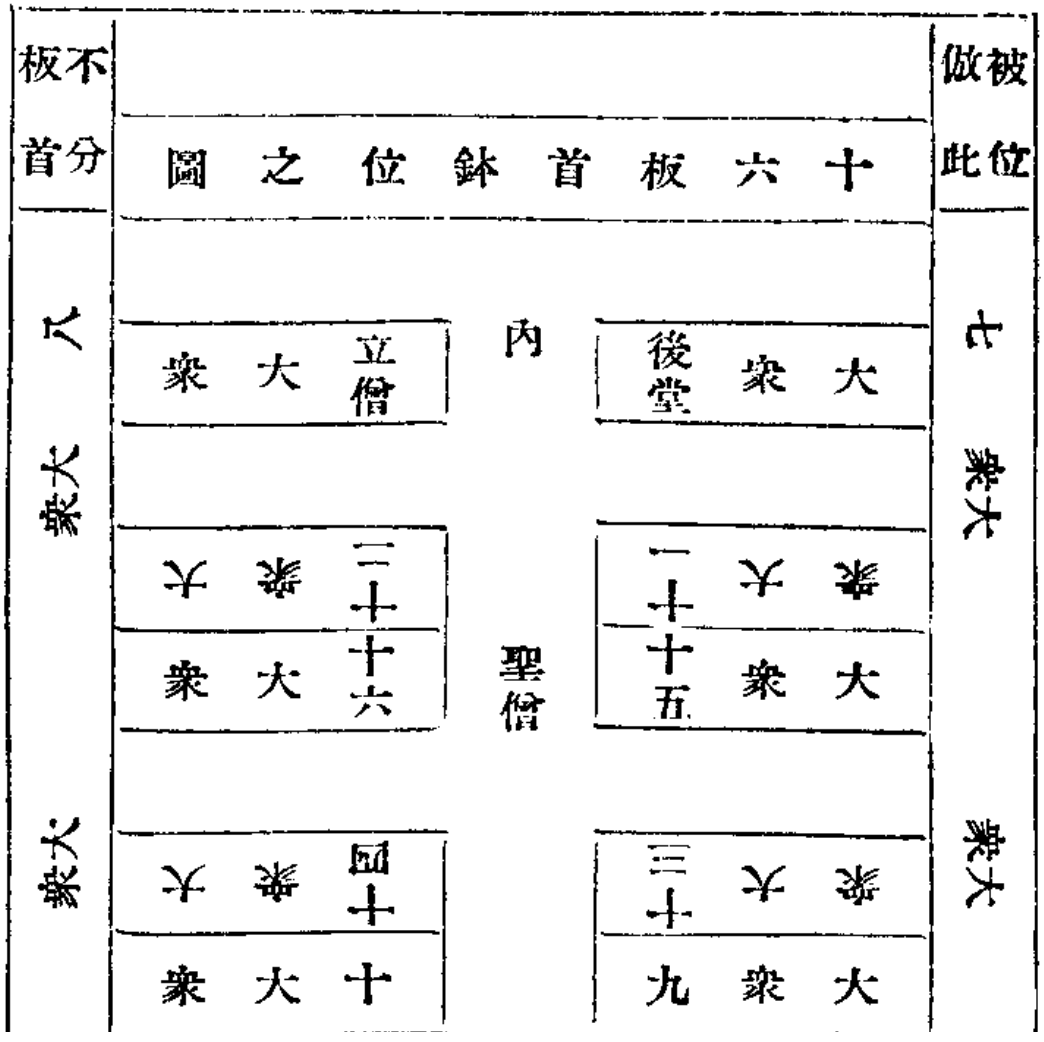
新掛搭人入寮後。照列納陪寮錢若干。候寮元輪排。當在何日。掛點茶牌報眾。書云(今晨齋退某甲上座某甲上座列寫或三人六人九人為度)須各備小香合具威儀。預列眾寮前右邊立候眾下堂。茶頭即鳴寮前板。眾至揖迎歸位立定。點茶人列一行問訊。揖坐坐畢。分進中爐上下間爐前。燒香人多不過九人。則三三進前退步。轉身須相照顧詳緩。列一行問訊仍分進爐前問訊退。仍一行列問訊而立。謂之揖香。鳴寮內小板二下。行茶遍。瓶須從穿堂入。仍如前進前問訊復退作一行。問訊謂之揖茶。鳴小板一下收盞眾起立定。寮元出爐前對點茶人代眾謝茶。眾人就位同時合掌謝畢。寮元復位。點茶人復一行列問訊。再各分進鑪前問訊。謂之謝眾臨。仍退作一行問訊。鳴寮前板三下。大眾和南而散。寮元隨令茶頭請點茶人獻茶。候點入寮茶畢寮(元逐日衣戒具名點戒臘茶。行體並同前)。

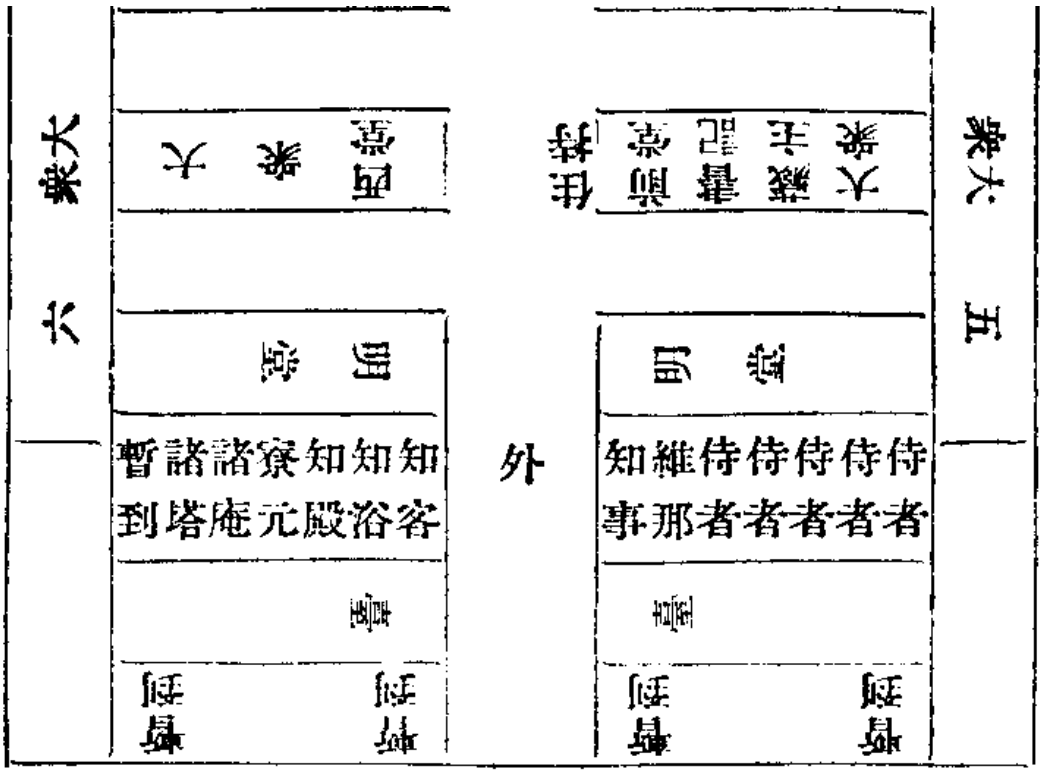
出圖帳

草單已定。堂司依戒臘寫楞嚴圖念誦巡堂圖被位圖鉢位圖(式前後互見)戒臘牌。惟鉢位圖當分十六板(餘隨僧堂大小不拘)除單寮西堂首座勤舊。排板頭外。其餘並依戒臘。舊以送蒙堂者排副鉢。後因爭競不排。悉依戒次具草本。呈首座。次呈住持看定方寫諸圖。正本再呈。惟鉢位圖(遍呈單。寮浴佛日並鋪大殿前。被鉢位圖叉當預出。書小榜報眾云。粥罷排被鉢位)(伏幸　悉眾今月日堂司某白)貼僧堂前後門。

眾寮結解特為眾湯(附建散楞嚴)

四月初待眾詣方丈謝掛搭罷。堂司圖帳已定。寮元依戒排經櫃圖。茶湯問訊圖。清眾戒臘牌。入寮資次牌淨髮牌。夏中行茶湯瓶盞圖(兄弟結緣隨意書名)圖成大眾和南時俱出於穿堂。十二日午後堂司行者覆住持兩序。諸寮掛諷經牌報眾寮元洒掃眾寮預具狀見後。貼寮前下間。請合寮尊眾。特為湯鋪設照牌。觀音前設供養。上下間排香爐燭臺。預煎湯寮元親送方丈。令茶頭分送諸寮。俱畢鳴寮內小




寮大 五
大 藏 書 前 住持
寮 主 記 堂
侍 巡
侍侍侍

(來晨粥罷各俱威儀詣大殿啟建楞嚴會諷經)就掛諸寮諷經牌。次日粥罷。候殿上排辦畢。覆兩序次覆住持。自眾寮前鳴板。起巡廊鳴遍。鳴方丈板。住持出。鳴庫堂前大板三下。鳴大鍾僧堂鍾殿鍾。住持至佛前燒香上茶湯畢歸位行者鳴鈸。維那揖住持兩序出班燒香(大眾無拜此舊規所載近時有。謂大眾同展三拜。住持跪爐。並與聖節佛誕禮同。不知何所祖述。原夫大眾拜與住持跪爐。宣疏者以祝聖壽報佛恩。當嚴其禮以示特重。楞嚴會乃祈保安居。於禮可殺。不若從舊為允)白佛宣疏畢。楞嚴頭唱。楞嚴眾和畢。仍作梵音。唱念經首序引畢。方舉呪。呪畢唱摩訶。眾和畢。維那回向云(上來諷經功德。回向真如實際莊嚴無上佛果菩提。四恩總報三有齊資。法界有情同圓種智。十方三世一切云云)每日粥罷少歇。伺眾更衣。堂司行者覆兩序。次覆住持。然後巡廊鳴板各三下遍。住持出則鳴大板三下。不出則不鳴。鳴僧堂鐘殿鐘不鳴大鐘。集眾諷呪畢。楞嚴頭舉普回向偈。大眾同聲念。如遇旦望則祝聖壽。係維那回向至七月(十三日。滿散禮同。但楞嚴頭唱念呪尾之末章維那回向而散)。

楞嚴勝會之圖

燭香燭　燭香燭　燭香燭

前

上來現前比丘眾　諷誦楞嚴祕密呪
回向護法眾龍天　土地伽藍諸聖造
普　三塗八難俱離苦　四恩三有盡沾恩
回　國界安寧兵革銷　風調雨順民康樂
向　一眾熏修希勝進　十地頓超無難事
偈　山門鎮靜絕非虞　檀信歸依僧福慧
十方三世一切佛　一切菩薩摩訶薩
摩訶般若波羅密

疏語(啟建)金由淬礪之精其鋒莫挫。鏡假鍊磨之瑩則照不昏。故先聖顯抑揚之機　為眾生破微細之惑。摩登慶喜　妙協冥權　世尊文殊特彰化軌　闡一代教觀則有觀有教　示密因修證而無證無修　明真見而息諸塵。空花無蒂　居正定以制群動。止水不波。顧末裔之何知。誦　遺言而自警。伏願促恒河沙劫為一念。無間長期。會十方剎土以同居。咸成　正覺　(滿散)睠此林園宛爾　祇桓精舍　現前海眾儼然　一會靈山　括大千於微塵　融三際於當念。屬休夏之自恣。無犯無持。總萬象以交參。孰凡孰聖。人人妙覺。剎剎毘盧　示現千百億身　超越五十七位。以指喻指之非指。指亦俱亡。似空藏空而合空。空寧可餉　為憐幼穉　特獎愚蒙。遵　遺教以受持。賴　安居之無障。伏願奢摩寂靜具足諸塵勞門　大用繁興等入首楞嚴定。

戒臘牌

堂司侍司眾寮預依戒臘寫造。至十四日午後。堂司牌列僧堂前上間。侍司牌列法堂下間。眾寮牌列寮內。各備香几爐燭供養。大眾各炷香展拜畢。仍各收牌掛起。

方丈小座湯

四節講行按古有三座湯。第一座分二出。特為東堂西堂請首座。光伴第二座分四出。頭首一出。知事二出西序勤舊三出。東序勤舊四出。西堂光伴第三座位。多分六出。本山辦事。諸方辦事。隨職高下分坐。職同者次之。首座光伴侍司預備草圖。呈方丈議定。至日依名書照牌。午後備卓袱。作一二三座。陳列寢堂下間。東西堂前堂首座都寺係請客侍者。各詣寮觸禮拜請云。堂頭和尚請今晚就寢堂。特為獻湯。餘頭首辦事名勝方丈客頭行者請云。方丈和尚參前請就寢堂。特為獻湯。寢堂釘掛排位。秉燭裝香畢。客頭行者覆侍者。次覆方丈鳴鼓。初座客集侍者揖引。至住持前問訊依照牌入位

立定。燒香侍者請客侍者分往特為人前。巡問訊揖坐已。復位並立。燒香侍者進前燒香。仍歸位。與請客侍者同時轉身分巡問訊揖香。候鳴板二下行湯遍。仍巡揖湯畢。燒香侍者進燒光伴香。鳴板一下收盞鳴鼓五下退座。三座行禮並同。叢林以茶湯為盛禮。近來多因爭位次高下。遂寢不講。住持當力行之。江湖老成當力從臾之。庶將來知所矜式云。



四節土地堂念誦

凡遇節。先一日午後土地堂嚴設供養。排香燭臺凡爐瓶。堂司行者報眾掛念誦牌。巡廊鳴板與三八同。眾集相對雁立。住持先祖堂。次大殿炷香三拜。鳴大板三下。鳴大鍾。住持至(大眾俛首合掌為迎住持。侍者隨後。只當叉手而過)燒香歸位。行者鳴鈸維那出揖班上香畢。念誦回向(見後)。

切以。薰風扇野。炎帝司方。當法王禁足之辰
乃釋子護生之日。恭裒大眾肅詣靈祠。誦持
萬德洪名。回向合堂真宰。所祈加護得遂安
四　居。仰憑大眾念云云。
切以。金風扇野白帝司方。當覺皇解制之辰
節　是法歲周圓之日。九旬無難一眾咸安。誦持
萬德洪名。仰答合堂真宰。仰憑大眾念云云。
念　切以。時臨亞歲節屆書雲。當一陽來復之辰
乃萬彙發生之始。恭裒大眾肅詣靈祠。誦持
誦　萬德洪名。回向合堂真宰。仰憑大眾念云云。
切以。化工密運歲曆云周。咸忻四序之安。將
回　啟三陽之慶。恭裒大眾肅詣靈祠。誦持萬
德洪名。回向合堂真宰。仰憑大眾念云云。
向　上來念誦功德回。向當山土地列位護伽藍神
合堂真宰。所冀。神功叶贊。發揮有利之勛。
梵苑超隆。永錫無私之慶。再勞尊眾念十方
三世一切云云四節並同。

庫司四節特為首座大眾湯

念誦罷。就僧堂講禮。都寺預於齋退具湯榜見後。即令客頭行者備牀袱爐燭。詣前堂首座前。插香觸禮一拜。稟云(今晚就雲堂。特為首座大眾點湯。伏望慈悲特垂光降)以榜呈納首座。隨令本寮茶頭遞付供頭。貼僧堂前下間。庫司客頭隨覆云(拜請湯罷就座藥石)都寺懷香詣方丈。觸禮一拜請云(今晚就雲堂特為首座大眾點湯。伏望和尚慈悲特垂降重)仍分付客頭。請勤舊蒙堂諸寮。各掛點湯牌。逐一請已。僧堂前列照牌。設首座與住持對面位。上下間安大眾位。差行者專直特為人。念誦畢。即鳴齋鼓一通。大眾歸鉢位。頭首一班齊歸前板。都寺隨入揖首座離位。却揖以次頭首進板首。隨送首座歸位。從聖僧後。右出堂外。迎住持入堂。供頭緩鳴堂前鍾七下。送住持入位。仍往首座前揖坐。仍如前出從首座板。起巡堂一匝。外堂上下間。歸堂中立問訊眾坐。進前燒香次上下間外堂歸香合安元處。即往特為人前問訊。右出住持前問訊。仍巡問訊一匝。及外堂歸堂中問訊側

立。鳴堂前鍾二下。先進特為人與住持湯。次行大眾湯遍瓶出。往特為人前問訊。右出聖僧前。大展三拜。仍巡堂一匝。出外堂巡畢。引全班入住持前行禮。初展云(此日粗湯特沐慈悲降重。下情不勝感激之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)退觸禮三拜畢。轉身引從聖僧後轉。右出堂前排立。首座隨出對觸禮一拜謝湯。復從上間入特為位。都寺復歸中燒香(為藥石故)而退。堂司行者喝云(請大眾下鉢)行者進住持特為人卓。大眾展鉢(頭首不下鉢庫司備碗楪)行藥石食畢鳴鼓三下退座。方丈預出免人事榜云(某節並就來日法堂上人事例免到方丈伏希眾悉　住山某　咨白)貼僧堂上間。不鳴放參鍾(各鄉曲依所出榜詣各處團拜)四節並同。惟冬節湯罷行糍果。方行藥石。

湯　庫司今晚就雲堂點湯一中。特為首座大眾。
　　聊旌某節之儀。伏望眾慈同垂光降。
榜　今月　日庫司比丘某等敬白

結制禮儀

至日五更兩序大小勤舊。江湖辦事鄉曲法眷小師。皆當詣方丈插香展禮。若見僧堂前出免人事榜。則不必往。侍者覆方丈令行者報眾掛上堂牌。粥罷。住持說法畢。詳白行禮始末云(下座先與西堂人事觸禮一拜。次與知事人事兩展三禮。次與首座大眾人事兩展三禮。次與首座大眾人事兩展三禮。知事先歸庫司。首座領大眾詣庫司。人事觸禮三拜。首座歸僧堂前上間。後堂領大眾歸僧堂下間。與首座人事觸禮三拜畢。依念誦圖立。首座領眾巡入堂內立定。首座離位聖僧前燒香大展三拜。巡堂一匝歸位。行者喝云。首座禮謝大眾觸禮三拜。次知事入堂燒香大展三拜。巡堂一匝。至聖僧板頭排立。行者喝云。知事禮觸大眾觸禮三拜不出堂。住持入堂燒香大展三拜。巡堂一匝歸位。行者喝云。堂頭和尚與大眾人事普觸禮三拜。又喝云。大眾普同作禮觸禮三拜。次第巡寮)下座行者即進香燭臺几爐瓶。作一字排列畢。西堂進前人事。次知事進插香。初展云(此際安居獲奉巾瓶。惟仗法力資持願無難事)再展云(即日孟夏謹時恭。惟堂頭和尚尊候起居多福)退觸禮三拜。住持答一拜。次首座領眾插香。勤舊諸寮皆隨後。次第插香。展禮致詞並與前同。眾退住持趺座侍者小師插香展拜。次參頭領眾行者插香禮。拜。次作頭領老郎諸直廳轎番人僕等參拜。首座領眾。詣庫司。人事觸禮三拜。後堂首座領眾。歸僧堂前下間。立定。前堂首座居上間。堂司行者喝云(大眾與首座人事)對觸禮三拜畢。依念誦圖立。首座領眾。巡入堂內歸位立。侍者暫到巡半堂。侍者於聖僧龕後立。暫到向侍者立定。首座離位進聖僧前燒香。大展三拜。巡堂一匝。復位喝云。首座禮謝大眾。對觸禮三拜畢。知事入燒香展拜巡堂畢排立聖僧板頭。喝云(知事禮謝大眾)對觸禮三拜畢不出堂。住持入堂燒香展

拜巡堂歸位(小師輩必當迴避從後門出。侯講禮畢復位喫茶)喝云(堂頭和尚與大眾人事)普觸禮三拜。喝云(大眾普同作禮)觸禮三拜(舊規載。知事出堂後住持入堂。則不曾答得知事禮。蓋禮無不答者。近希叟和尚一山和尚皆如此講行。識者是之)知事退身出堂外。侍者暫到隨後出。大眾就坐。侍者歸中問訊揖坐。進中鑪上下間至外堂燒香。香合安元處。退身當中問訊。上下間外堂問訊了歸中立。鳴鐘二下。行茶遍瓶出復如前問訊中立。鳴鐘一下收盞。鳴鐘三下。出堂眾散。住持次第巡寮。各寮嚴設坐椅香几。於門外候住持。從東廊第一寮巡。起至各寮香几前。寮主同眾。插香云(此日禮當拜賀返沐降重)畣香云(適辱禮賀專此致謝)送住持數步。復側立香几之右。合掌問訊待眾行盡。就隨其末次第巡過。各寮人隨後接巡。至法堂上。住持於香几內中立。大眾三人一引問訊而過。巡至本寮香几之側。各各依次合掌立定。一一巡遍而散。四節並同。

四節秉拂

住持小參時白云(來晨齋退。煩都寺維那侍者。齎牌拂詣首座。各處拜請。來晚為眾秉拂)次日齋退燒香。侍者即令客頭行者携主杖牌拂人僕捧袈裟爐燭約都寺維那。同詣各頭首寮。炷香觸禮一拜。稟云(方丈和尚慈旨。令某等謹齎牌拂。專此拜請。今晚為眾秉佛)一一請已。首座約同受請頭首。帶行者將牌拂主丈。隨詣方丈稟辭。住持當力勸勉送出。首座轉身就稟云(尊命既嚴不容辭却。敢借法座。伏望慈。悲。古來秉拂多別設座。今習為常。後昆無聞)次就燒香侍者處。借法鼓。秉拂人令茶頭行者。請聖僧侍者禪客。燒香獻茶畢云(今晚秉拂。輒煩侍者燒香禪客問話)復令行者僧堂前掛秉拂牌。方丈請秉拂人藥石。免赴當送往。堂司行者排辦法座左手敷罘罳。設住持位。昏鍾鳴時。行者覆秉拂人。次覆住持鳴鼓一通眾集。小參禮同。住持出徑歸位立定。都寺維那侍者同往秉拂人前問訊。秉拂人往住持前問訊。次知事前問訊。巡至班末。次至同班前問訊。亦巡至班末即舉手與大眾普同問訊。登座坐定。秉拂侍者同方丈侍者出座下問訊。兩序西堂次第問訊。住持問訊秉拂人當起身仍就座云(侍者請堂頭和尚趺坐)秉拂侍者至住持前問訊。轉身登座燒香。提坐具問訊。叉手側立。秉拂人索語問答了。提綱敘謝方丈及兩序勤舊諸寮大眾畢。舉方丈小參公案。或拈或頌畢下座。住持前問訊復元位。以次秉拂人並如前禮。秉拂罷。方丈客頭唱請湯果。如小參時。秉拂人即懷香。同詣方丈拜謝。就坐湯果。次日方丈請茶。如都寺辦齋併請茶。半齋點心。別日上堂敘謝管待。或請立班西堂在第二夜秉拂。住持小參時小委曲勸請舉揚。

隨意拈頌公案。遞相激揚此道。近時敘謝循襲繁贅。使人厭聽取誚識者。蓋秉拂以法為施。苟徇時儀但總標名。或略提過足矣。

方丈四節特為首座大眾茶

至日粥罷請客侍者寫茶榜見後。備牀褥鑪燭詣寮炷香。觸禮請云(堂頭和尚今晨齋退。就雲堂點茶。特為伏望降重)以榜呈納貼僧堂前上間。客頭行者請以次頭首諸寮。及請知事。光伴掛點茶牌。長板鳴。請客侍者入堂聖僧前燒香一炷。大展三拜。巡堂一匝。至中問訊而退。謂之巡堂請茶。堂前排特為照牌。首座與住持對面。上首知事與住持分手位。維那次之。以次知事與受特為人分手位。鳴鼓集眾。燒香侍者行禮(並與庫司特為湯禮同)首座至住持前謝茶。兩展三禮。初展云。(茲者特蒙煎點。下情不勝感激之至)再展云(即日時令謹時恭惟。堂頭和尚尊候起居多福)退觸禮三拜住持每一展。則約止之。至觸禮則答一拜。首座轉身從聖僧後右出。住持略送復位。侍者燒光伴香。鳴鍾收盞鳴鼓退座。亦同前。首座先往法堂。候住持拜謝。免則問訊。

榜　堂頭和尚今晨齋退就雲堂點茶一中特為
　　首座大眾聊旌某節之儀仍請
　　諸知事同垂　光降
式　今月　日侍司　某敬白

庫司四節特為首座大眾茶

遇節之次日粥罷。庫司具茶榜(與湯同)請茶報眾掛牌。長板鳴入常請茶。與侍者同。齋退排照牌。設位鳴鼓集眾。揖坐揖香揖茶巡堂問訊。住持前行禮致詞。並同湯禮。

前堂四節特為後堂大眾茶

遇節之第三日。首座具茶狀見後詣後堂首座寮及詣方丈。請茶講行禮儀。次第並與庫司。特為茶同。但添設知事位次。

　　前堂首座比丘某　右某啟取今晨齋退就
茶　雲堂點茶一中特為　後堂首座大眾聊旌
　　某節之儀仍請　諸知事同垂　光伴
　　今月　日具位某狀
狀　可漏子　狀請　後堂首座大眾　具位
　　謹封

旦望巡堂茶

住持上堂說法竟。白云(下座巡堂喫茶)大眾至僧堂前依念誦圖立。次第巡入堂內。暫到與侍者隨眾巡。至聖僧龕後。暫到向龕與侍者對面而立。大眾巡遍立定鳴堂前鍾七下。住持入堂燒香巡堂一匝歸位。知事堂排列聖僧前問訊。轉身住持前問訊。從首座板起巡堂一匝。暫到及侍者隨知事後出。燒香侍者就居中問訊揖坐。俟眾坐定。進前燒香及上下堂外堂。先下間。次上間香合安元處爐前逐一問訊揖香畢。歸元位。鳴鐘二下。行茶瓶出復如前問訊。揖茶而退。鳴鐘一下收盞。鳴鍾三下。住持出堂。首座大眾次第而出。或迫他緣。或住持暫不赴眾則粥罷。就座喫茶。侍者行禮同前。

方丈點行堂茶

節臘僧堂茶罷。侍者同客頭至行堂點茶。客頭預報參頭掛點茶牌報眾。燒湯出盞請典座光伴。方丈預送茶。侍者至庫司。典座接入。參頭堂主領眾行者門迎。侍者居主位代住持也。典座右位侍者出中燒香一炷。復位以手揖眾坐。喫茶畢典座送出。參頭堂主門送。即詣方丈謝茶。

庫司頭首典行堂茶

庫司候方丈點茶罷。知事詣行堂。點茶知事居主位。典座分手行禮與方丈侍者同。送出門喝云(參頭大眾詣庫司謝茶)庫司客頭報云(知事傳語免謝茶)頭首候點僧堂茶(見兩序章)罷。令堂司行者報參頭掛牌報眾。請典座光伴行禮(與庫司同出門喝謝喝免亦同)。

月分須知

正月　初一日有處。四孟月大眾行道諷經祈保。次具門狀。官員檀越諸山賀歲。十七日　百丈忌。
二月　初一日僧堂內閉爐。或山寺高寒母拘。十五日　佛涅槃。
三月　初一日堂司出草單。清明日祖堂諸祖塔諸檀越祠庫司。預報洒掃嚴備供養。集眾諷經。此月出榜禁約山林茶筍。
四月　初一日(鎖旦過。初四五間告香普說初八日)佛誕浴佛。庫司預造黑飯。方丈請大眾。夏前點心。十三日建楞嚴會。十五日結制(候天氣僧堂內下暖簾上涼簾)。

五月　端午日早晨知事僧堂內燒香點菖蒲茶。住持上堂次第建青苗會。堂司預出諸寮看經誦經單。直歲點檢諸處整漏。疏浚溝渠。方丈詣諸寮諸庵塔。各作一日點茶溫存。僧堂內掛帳。
六月　初一日隆暑首座免鳴坐禪板。入伏堂司提調晒薦。炭頭或庫司打炭團。
七月　初旬堂司預出盂蘭盆會諸寮看誦經單。預率眾財。辦斛食供養。十三日散楞嚴會。十五日解制。當晚設盂蘭盆會。諷經施食。
八月　初一日開旦過。知客預晒寮內薦席。此月修補本色衲子未遽起單。僧堂收帳。
九月　初一日首座復鳴坐禪板。堂司提調糊僧堂窓。下涼簾上暖簾。重陽日早晨知事燒香點茱萸茶。住持上堂許方來相看。
十月　初一日開爐方丈(大相看初五日)達磨忌。
十一月　二十二日　帝師忌。冬至庫司預辦糍果。此月或進退職事。或在歲節。方丈請大眾冬前點心。
十二月　初八日　佛成道庫司預造紅糟。歲終結呈諸色簿書。
節臘章(終)◎
勅修百丈清規卷第七

勅修百丈清規卷第八

大智壽聖禪寺住持臣僧德煇奉　勅重編

大龍翔集慶寺住持臣僧大訢奉　勅校正

◎

法器章第九

上古之世有化而無教。化不足而禮樂作焉。擊壤之歌不如九成之奏。窪樽之飲不若五齊之醇。然文生於質貴乎本也。吾天竺聖人最初示化。謂人人妙覺本無凡聖。物物全真寧有淨穢。無假修證不涉功用。而昧者茫然自失。若聾瞽焉。於是隨機設教擊犍椎。以集眾演之為三藏。修之為禪定。迄于四十九年而化儀終矣。梵語犍椎凡瓦木銅鐵之有聲者。若鍾磬鐃鼓椎板螺唄。叢林至今倣其制而用之。于以警昏怠。肅教令導幽滯而和神人也。若夫大定常應大用常寂。聞非有聞覺亦非覺。以考以擊玄風載揚。無思無為化日自永。雍雍乎仁壽之域。清泰之都矣。

鍾

大鍾

叢林號令資始也。曉擊則破長夜警睡眠。慕擊則覺昏衢疏冥昧。引杵宜緩揚聲欲長。凡三通各三十六下。總一百八下。起止三下稍緊。鳴鍾行者想念偈云(願此鍾聲超法界。鐵圍幽暗悉皆聞。聞塵清淨證圓通。一切眾生成正覺)仍稱觀世音菩薩名號。隨號扣擊其利甚大。遇。聖節看經上殿下殿。三八念誦佛誕成道涅槃。建散楞嚴會諷經齋粥過堂人定時。各一十八下。如接送官員住持尊宿。不以數限。庫司主之。

僧堂鍾

凡集眾則擊之。遇住持每赴眾入堂時鳴七下。齋粥下堂時放參時。旦望巡堂喫茶下床時。各三下(住持或不赴堂。或在假則不鳴)堂前念誦時念佛一聲。輕鳴一下。末疊一下。堂司主之。

殿鐘

住持朝慕行香時鳴七下。凡集眾生殿。必與僧堂鐘相應接擊之。知殿主之。

感通傳云。拘留孫佛於乾竺修多羅院。造青石鍾。於日出時有諸化佛與日俱出。密說顯演十二部經。聞法證聖不可勝數。增一阿含經云。若打鍾時一切惡道諸苦並皆停止。又金陵志云。民有暴死入冥司。見有五木縲械者。告之曰。吾南唐先主也。以宋齊丘之誤殺和州降者致此。每聞鍾聲暫息吾苦。仗汝歸白嗣君。為吾造鐘。民還具聞後主。因造大鐘於清涼。寺鐫曰薦烈祖孝高皇帝脫幽出厄。

版

大版齋粥二時長擊三通。木魚後三下疊疊擊之。謂之長版。念誦楞嚴會儆戒火燭。各鳴三下。報更則隨更次第擊之。方丈庫司首座寮及諸寮。各有小版。開靜時皆長擊之。報眾時各鳴二下。眾寮內外各有版。外版每日大眾問訊時三下。坐禪坐參時各三下。候眾歸堂次第鳴之。點茶湯時長擊之。內版掛搭歸寮時三下。茶湯行盞二下。收盞一下。退座三下。小座湯長擊之。

木魚

齋粥二時長擊二通。普請僧眾長擊一通。普請請行者二通。

相傳云。魚晝夜常醒。刻木象形擊之。所以警昏惰也。

椎

齋粥一時。僧堂內開鉢。念佛唱食遍食。施財白眾皆鳴之。維那主之。下堂時聖僧侍者鳴之。知事告退時。請知事時亦鳴之。住持入院開堂將說法時。諸山上首鳴之。謂之白椎也。

世尊一日陞座大眾集定。文殊白椎。云諦觀法王法。法王法如是。世尊便下座。

磬

大殿早慕住持知事行香時。大眾看誦經呪時。直殿者鳴之唱衣時。維那鳴之。行者披剃時作梵閣黎鳴之。小手磬堂司行者常隨身。遇

眾諷誦鳴之。為起止之節。

鐃鈸

凡維那揖住持兩序。出班上香時。藏殿祝贊轉輪時。行者鳴之。遇迎引送亡時。行者披剃。大眾行道。接新住持入院時。皆鳴之。

鼓

法鼓

凡住持上堂。小參普說入室。並擊之。擊鼓之法上堂時三通(先輕敲鼓磕二下。然後重千徐徐擊之。使其緊慢相參。輕重相應。音聲和暢。起復連環隱隱轟轟　若春雷之震蟄。第一通延聲長擊。少歇轉第二通。連聲稍促更不歇聲。就轉第三通一向纏聲擊之侯。住持登座畢方歇聲。雙椎連打三下)小參一通。普說五下。入室三下皆當緩擊。

茶鼓

長擊一通。侍司主之。

齋鼓

三通。如上堂時。但節會稍促而已。

普請鼓

長擊一通。

更鼓

早晚平擊三通。餘隨更次擊。庫司主之。

浴鼓

四通次第候眾擊(其詳見知浴章)知浴主之。
已上宜各有常度。毋令失准。若新住持入院。諸法器一齊俱鳴。

金光明經云。信相菩薩夜夢金鼓。其狀姝大其明普照。喻如日光。光中得見十方諸佛眾寶樹下坐琉璃座。百千眷屬圍繞而為說法。一人似婆羅門。以枹擊鼓出大音聲。其聲演說懺悔偈頌。信相菩薩從夢寤已。至於佛所。以其夢中所見金鼓及懺悔偈。向如來說。又楞嚴經云。阿難。汝更聽此祇陀園中食辦擊鼓眾集撞鐘。鐘鼓音聲前後相續。於意云何。此等為是聲來耳邊。耳往聲處。

法器章(終)

唐洪州百丈山故懷海禪師塔銘(并序)

將仕郎守殿中侍御史陳詡撰

守信州司戶參軍員外置同正員武翊黃　書

星纏斗次山形鷲立。桑門上首曰懷海禪師。室於斯塔於斯。付大法於斯。其門弟子懼陵谷遷貿日時失紀。託於儒者銘以表之。西方教行于中國。以彼之六度視我之五常。遏惡遷善殊途同轍。唯禪那一宗度越生死。大智慧者方得之。自鷄足達于曹溪。紀牒詳矣。曹溪傳衡嶽觀音臺懷讓和上觀音傳江西道一和上。詔謚為大寂禪師。大寂傳大師。中土相承凡九代矣。大師太原王氏福州長樂縣人。遠祖以永嘉喪亂徙于閩隅。大師以大事因緣生於像季。託孕而薰羶自去　將誕而神異聿來。成童而靈聖表識。非夫宿植德本。曷以臻此。落髮於西山慧照和尚。進具於衡山法朝律師。既而歎曰。將滌妄源必遊法海。豈惟必證。亦假言詮。遂詣廬江閱浮槎經藏。不窺庭宇者積年。既師大寂盡得心印言簡理精貌和神峻。睹即生敬居常自卑。善不近名。故先師碑文獨晦其稱號。行同於眾。故門人力役必等其艱勞。怨親兩忘故。棄遺舊里賢愚一貫故普授來學。常以三身無住萬行皆空。邪正並捐源流齊泯。用此教旨作人表式。前佛所說斯為頓門。大寂之徒多諸龍象。或名聞萬乘入依京輦。或化洽一方。各安郡國。唯大師好尚幽隱。棲止雲松。遺名而德稱益高。獨往而學徒彌盛。其有遍探講肆歷抵禪關。滯著未祛空有猶閡。靡不緘藏。萬里取決一言。疑網雲張智刃氷斷。由是齊魯燕代荊吳閩蜀望影星奔。聆聲颺至。當其饑渴快得安隱。超然懸解時有其人。大師初居石門依大寂之塔。次補師位。重宣上法。後以眾所歸集意在遐深。百丈山碣立一隅。人煙四絕。將欲卜築必俟檀那。伊蒲塞游暢甘貞請施家山。願為鄉導。庵廬環遶。供施芿積眾又踰於石門。然以地靈境遠頗有終焉之志。元和九年正月十七日。證滅於禪床報

齡六十六。僧臘四十七。以其年四月二十二日。奉全身窆于西峯。據婆沙論文。用淨行婆羅門葬法遵遺旨也。先時白光去室金錫鳴空。靈溪方春而涸流。杉燎竟夕以通照。妙德潛感于何不有。門人法正等嘗所稟奉皆得調柔。遞相發揮不墜付囑。他年紹續自當流布。門人談敘永懷師恩光崇塔宇。封土累石力竭心瘁。門人神行梵雲結集微言纂成語本。凡今學者不踐門閾。奉以為師法焉。初閩越靈藹律師。一川教宗三學歸仰。嘗以佛性有無響風發問。大師寓書以釋之。今與語本並流于後學。詡從事于江西府。備嘗大師之法味。故不讓眾多之託。其文曰梵雄設教有權有實。未得頓門。皆為暗室。祖師戾止方傳祕密。如彼重昏忽懸白日(其一)唯此大士弘紹正宗。雖修妙行不住真空。無假方便。豈俟磨礱。恬然返本萬境圓通(其二)百千人眾盡祛病熱。彼皆有得我實無說。心本不生形同示滅。此土灰燼他方水月(其三)法傳人代塔閉山原。杉松日暗寺塔猶存。藹藹學徒無非及門。唯能覺照是報師恩(其四)元和十三年十月三日建。

碑側大眾同記五事。至今猶存。可為鑑戒。并錄于左　大師遷化後未請院主。日眾議釐革山門。久遠事宜都五件。一塔院常請一大僧。及令一沙彌灑掃　一地界內不得置尼臺尼墳塔。及容俗人家居止　一應有依止及童行出家。悉令依院主一人。僧眾並不得各受一臺外及諸處不得置莊園田地　一住山徒眾不得內外私置錢穀　欲清其流在澄其本後來紹續永願遵崇　立碑日大眾同記。

百丈山大智壽聖禪寺天下師表閣記

菩提達磨大師後八葉有大比丘。居洪之百丈山。人稱之曰百丈禪師。

今天子始命因其舊謚大智覺照者。加以弘宗妙行之號。寺以壽聖名則故額也。山去郡治三百里。其未置寺時。林壑深阻巖徑峭絕。樵蘇之跡所不通。有司馬頭陀者。善為宮宅地形之術。覩其山勢斗拔與夫岡巒首尾之起伏。知為吉壤。所留鈐記有曰。法王居之天下師表。禪師之來式符其言。東陽德輝以禪師十八代孫。嗣住是山。既新作演法之堂。且增創重屋其上。以妥禪師遺像。榜其楹間曰天下師表之閣。云初文宗皇帝入踐天位。即金陵潛邸造寺曰龍翔集慶。詔開山大訢。領其徒而以禪師所制清規。為日用動作威儀之節。顧其書行世已久後人率以臆見互有損益。自為矛盾靡所折衷。輝與訢學同師而柄法於祖庭。大懼夫來者傳疑莫知適從。無以壹諸方之觀聽。爰走京師欲有請而釐正之。今御史大夫撒迪時執法中臺。為言于上。得召見。有旨令輝譔次舊聞。以授訢使擇習於師說者。共考

定而頌行為叢林法。仍如錫禪師以今號。褒顯而風厲焉。煇奉璽書將南還。以閣之成未及見所紀述。諗于湣曰。願敘其構興之端原。歸而刻諸。湣竊觀。遂古聖賢乘時繼作弛張迭用循環不窮。所以通其變也。佛之為教必先戒律。諸部之義小大畢陳。種種開遮唯以一事。去聖逾遠局為專門。名數滋多道日斯隱。是故達磨不階方便直示心源。律相宛然無能留礙。世降俗末誕勝真離。馳騁外緣成邪慢想。是故百丈弘敖軌範輔律而行。調護攝持在事皆理。蓋佛之道以達磨而明。佛之事以百丈而備。通變之妙存乎其人。厥後達磨之傳派別為五。而出於禪師者二。他師所倡殊宗異旨。雖各名其家。至於安處徒眾。未有不取法於禪師者。然則天下師表之言。良可徵不誣也。粵自中土君臣知尊佛法。光昭崇極。莫越於今。煇遭值。聖時。蒙被帝力。用克發揚先訓。紹隆宗風。俾與國家相為悠久永永無已。不特今之天下以為師表。盡未來際咸有依承。湣是用謹志之。而於其經度之勤營締之美。有不暇論也。閣為屋以間計者五。其崇百有二十尺。三其崇之一以為其修。三其修以為其廣。以至順元年夏六月庀工。冬十月訖事。實煇住山之明年。而煇入對以元統三年夏五月。命下則其明年春二月也。承直郎國子博士黃湣記。翰林侍制奉議大夫兼國史院編修官揭傒斯書。翰林侍講學士通奉大夫知制誥同修國史知經筵事張起巖篆。前榮祿大夫御史中丞趙世安光祿大夫江南諸道行御史大夫易釋董阿同立石。

古清規序

翰林學士朝散大夫行左司諫知制誥同修國史判史館事上柱國南陽郡開國侯食邑一千一百戶賜紫金魚袋楊億述

百丈大智禪師。以禪宗肇自少室至曹溪以來。多居律寺。雖列別院。然於說法住持未合規度。故常爾介懷。乃曰。佛祖之道欲誕布化元。冀來際不泯者。豈當與諸部阿笈摩教為隨行耶。或曰。瑜珈論瓔珞經是大乘戒律。胡不依隨哉。師曰。吾所宗非局大小乘。非異大小乘。當博約折中。設於制範務其宜也。於是創意別立禪居。凡具道眼者有可尊之德。號曰長老。如西域道高臘長呼須菩提等之謂也。即為化主。即處於方丈。同淨名之室。非私寢之室也。不立佛殿唯樹法堂者。表佛祖親囑受當代為尊也。所裒學眾無多少無高下。盡入僧堂依夏次安排。設長連床。施椸架掛塔道具。臥必斜枕床脣右脇吉祥睡者。以其坐禪既久略偃息而已。具四威儀也。除入室請益任學者勤怠。或上或下不拘常準。其闔院大眾朝參夕聚。長老上堂陞座主事徒眾雁立側聆。賓主問酬激揚宗要者。示依法而住

也。齋粥隨宜一時均遍者。務于節儉表法食雙運也。行普請法上下均力也。置十務謂之寮舍每用首領一人管多人。營事令各司其局也。或有假號竊形混于清眾別致喧撓之事。即當維那檢舉抽下本位掛搭。擯令出院者。貴安清眾也。或彼有所犯即以拄杖杖之。集眾燒衣鉢道具。遣逐從偏門而出者。示恥辱也。詳此一條制有四益。一不污清眾生恭信故。二不毀僧形循佛制故。三不擾公門省獄訟故。四不泄於外護宗綱故。四來同居聖凡孰辨。且如來應世尚有六群之黨。況今像末。豈得全無。但見一僧有過。便雷例譏誚。殊不知輕眾壞法其損甚大。今禪門若稍無妨害者。宜依百丈叢林規式。量事區分。且立法防姦。不為賢士。然寧可有格而無犯。不可有犯而無教。惟大智禪師護法之益其大矣哉。禪門獨行自此老始。清規大要遍示後學令不忘本也。其諸軌度集詳備焉。億幸叨叡旨刪定傳燈。成書圖進。因為序引。旹景德改元歲次甲辰良月吉日書。

崇寧清規序

夫禪門事例雖無兩樣毘尼。衲子家風別是一般規範。若也途中受用。自然格外清高。如其觸向面牆。實謂減人瞻敬。是以僉謀開士。遍摭諸方。凡有補於見聞。悉備陳於綱目。噫少林消息已是剜肉成瘡。百丈規繩可謂新修特地。而況叢林蔓衍轉見不堪。加之法令滋彰事更多矣。然而莊嚴保社建立法幢。佛事門中闕一不可。亦猶菩薩三聚聲聞七篇。豈立法之貴繁。蓋隨機而設教。初機後學冀善參詳。上德高流幸垂證據。崇寧二年八月十五日。真定府十方洪濟禪院住持傳法慈覺大師宗賾序。

咸淳清規序

叢林規範百丈大智禪師已詳。但時代淩遠。後人有從簡便遂至循習。雖諸方或有不同。然亦未嘗違其大節也。余處眾時。往往見朋輩抄錄叢林日用清規。互有虧闕。後因暇日悉假諸本。參其異存其同而會焉。親手繕寫頗為詳備。目曰叢林校定清規總要。釐為上下卷。庶便觀覽。吾氏之有清規猶儒家之有禮經。禮者從宜因時損益。此書之所以繼大智而作也。是皆前輩宿德先後共相講究紀錄。愚不敢私以所聞所見。而增減之。如前所謂參其異存其同而會焉爾耳。觀者幸勿病。諸咸淳十年甲戌歲結制前二日。后湖比丘惟勉書于寄玩軒。

至大清規序

禮於世為大經。而人情之節文也。沿革損益以趨時。故古今之人情得綱常制度以揆道。故天地之大經在。且吾聖人以波羅提木叉為壽命。而百丈清規由是而出。此固叢林禮法之大經也。然自唐抵今殆五百載。風俗屢變人情不同。則沿革損益之說可得已哉。近者大川笑翁二祖唱道南北山。日用軌則盛於當代。至元戊寅依石林和尚於南屏。猶得見其遺風餘烈。及友雲明西堂出所藏抄本。究心訪問編集成帙。始此書之作或以為僧受戒首之。或以住持入院首之。壬午依覺菴先師於承天。朝夕扣問。因得以祝聖如來降誕二儀冠其前。其餘門分類聚釐十卷。然猶未敢以傳學者。丙戌夏留雪竇。千峯琬西堂論其詳。丁亥春溪西澤和尚正其舛。得於見聞稔矣。而尚以未身行之為媿。壬辰夏首眾雙徑。小座湯有位次高下之爭。諸方往往廢而不舉。愚以西堂一出。首座再出。都寺三出。後堂四出。藏主維那知客侍者隨職為位。請於雲峯伯父力行焉。訖事無敢者。元貞乙未備員永嘉天寧。大德庚子補番陽永福。乙巳主廬山東林。皆行之無易。庶幾人情為折中。然視古之清規不幾於繁縟乎。蓋㞢桴土鼓不可作於笙鏞間知之秋。污樽杯飲不可施於犧象駢羅之日。目曰禪林備用清規。備而不用之謂也。知我罪我其惟春秋。至大辛亥秋廬山東林弋咸書。◎
◎

勅修百丈清規敘

天曆至順間文宗皇帝建大龍翔集慶寺於金陵。寺成以十方僧居之。有旨行百丈清規。元統三年乙亥秋七月。今上皇帝申前朝之命。若曰。近年叢林清規往往增損不一。於是特勅百丈山大智壽聖禪寺住持德煇重輯。其為書仍勅大龍翔集慶寺住持大訢。選有學業沙門。共校正之。期於歸一使遵行為常法。德煇等奉命唯謹。書將成。屬玄為敘。玄嘗聞諸師曰。天地間無一事無禮樂。安其所居之位為禮。樂其日用之常為樂。程明道先生一日過定寺。偶見齋堂儀。喟然嘆曰。三代禮樂盡在是矣。豈非清規綱紀之力乎。曰服行之熟故能然乎。循其當然之則。而自然之妙行乎其中斯則不知者以為事理之障。而知之者則以為安樂法門固在是也。然使是書龐然雜而不倫。則有序而和之意。久而微矣。故校讐之功有益於是書甚大。而兩朝嘉惠學人之旨。相為無窮焉。宋清規行。楊文公億為敘本末。條目具詳。茲不重出云。至元二年丙子春三月上澣。翰林直學士中大夫知制誥同脩國史國子祭酒廬陵歐陽玄敘。

百丈清規行于世尚矣。繇唐迄今歷代沿革不同。禮因時而損益有不免焉。往往諸本雜出。罔知適從。學者惑之。異時一山萬禪師

致書先雲翁。約先師共刪修刊正。以立一代典章。無何三翁先後皆化去。區區竊欲繼其志而未能也。後偶承乏百丈。會行省為祖師請加謚。未報。遂詣闕以聞。御史中丞撒迪公引見聖上。得面奏清規所以然。因被旨重編。令咲隱校正。仍賜璽書頒行。受命以來旁求初本不及見。惟宋崇寧真定賾公咸淳金華勉公。逮國朝至大中。東林咸公所集者為可採。於是會稡參同而詮次之。繁者芟訛者正缺者補。互有得失者兩存之。間以小註折衷。一不以己見妄有去取也。稍集咲隱凡定為九章。章冠以小序。明夫一章之大意釐為二卷。使閱而行者條而不紊。庶幾吾祖垂法之遺意。得以遵承而煇懼。夫學識荒陋何能上副宸衷。作新軌範不過人成事。幸畢先志期學者無惑而已。若曰立一代典章。非愚所敢知也。或曰。子汲汲於是書若有意於宗教。方今國家通制昭布森列。奉行猶或未至而欲清規之行乎。迂哉。因語之。然亦未嘗廢其書。顧柄法者力行之何如耳。佛祖制律創規相須為用。使比丘等外格非內弘道。雖千百群戾同堂合席齊一寢食。翕然成倫不混世儀。不撓國憲陰翊王度。通制之行尼於彼達於此。又何迂。或者謝而退。故併識于茲以告吾徒。益自勉焉。宋楊文公作古規序。與夫三公所集自序悉附著云。至元後戊寅春三月東陽比丘德輝謹書。

勅修百丈清規卷第八(終)

◎

加祖號跋

百丈大智覺照禪師。加賜弘宗妙行師號。璽書一通。至元二年丙子。今上皇帝之所授也。先是有旨申行百丈清規。尋增賜禪師師號。故有是命。朝論初擬降制詞。時玄備列詞林。為直學士。實典書命。一日本山住持德煇。偕國子博士黃溍來訪。求作清規敘引。從詢百丈事蹟。煇具道之。因及贊書之議。意欲見屬。玄答之曰。萬一當筆向聞師所言腹藁成矣。後格吏文。不果。越十有二年。玄告老家居。煇自百丈。見訪山中。櫝所賜璽書。視以漢字錄本。請識其事。刻石。洪惟天朝尊右釋氏。歷代師資。錫號不一。若弘宗妙行四字。唯禪師居之無愧焉釋學入門之要。戒定慧三者。其綱領也。禪師探往聖心法。卓然以敬之一字教其學者運博大之智於縝奧之功。知行互進。體用兼備。沛其有餘。師表天下。清規既放。表裏聲教。周流無方。謂之弘宗妙行誠無間然矣。煇本臨濟一宗以負荷為志。以顯揚為業。始終斯事焉。上彰君賜。下闡宗風。禪門之

孝子忠臣。有若是者。豈不韙歟。至正七年丁亥六月初吉。前翰林學士承旨榮祿大夫知制誥兼脩國史歐陽玄拜手稽首謹書。

一山禪師書

方九拜。復前智者堂上和尚雲翁老師兄(子几)。方自福岩錄翁解組之後。多冗。而弗克附便奉訊。惟極懸懸。有來瑰洒佳篇與珍果。寵賜感慰采深。所寄廉使損齊相公洼製。與雄作。圓渾而珠明玉潤。平淡而山高水深衰鈍不所企及。斂衽名世之資。抱瑚璉之器。於此道精研密煉。發而為言。無斧鑿痕。載司南適四方而弗迷揭明鑑覽萬物而弗惑持家修身。治國平天下。皆游刃邊事。一日九迁。倚馬。可待。松賡或可拈出乞緩頰令重也。方。居此一年有餘。凡百以堪忍自處。丁旱歉。歲收。此間比他群惟庶幾。但願從事一二土木。如中流失楫。耿耿不能置懷。陋劣自夏秋以來。日事藥裹。至今猶未康復。吾法兄。靜退養高。足以眇視當今抗塵之蹟。為可羞。二年前。百丈晦機嘗緘至彼中舊清規。閱之其間紕繆殊甚。約共[利-禾+曲]修今東西隔越。比話又空。屏岩所撰。廣略多未適宜。愚初立論。以祝壽為首。如監寺書狀等項。設職。潤大智元文。以小字。箋石窓南書記本末于後。庶今叢林負職有所從來。大概。古規中。唐文多對偶當盡翻譯。奏上。刊行。為一代典章。晦機曾約當拉吾泣兄。到抗相與料理。今時世如斯。何由遂志。高見以為如何。書書中二偈。不敢作答。永似為好也。未由頂謁床下。願言壽護式遄詔擢。至禱不備。方九拜復感淳間。南屏一時勝集。一山兄與小弟。寧有兩人與雲屋兄。參語。不見三影。事往矣。一旦促五十年於一瞬。夢耶非夢耶。時西湖雪後諸峯玉立。舊境宛然。二兄精爽飛動。日光激射處。境耶。非境耶。佇立久之。惟後死者。為悽斷不已。欲將古規刊正立一代典章。今誰同心哉。延祐元年十二月初十日。東窓雪霽。南屏。小弟　元熙書。

咸淳三尊宿。一山。晦機。皆余所師敬。獨不識雲屋翁。而讀其景睦堂詩卷。然後識雲屋之深也。三老皆欲修清規立一代典章。而其徒必能嗣成之。則視其操世之柄。而視所以維世之具。為不相及。豈不有愧耶。延祐丙辰冬。因遊智者古剎。覩是有感。因題于後。杜本。

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6